

# 建築研究資料

*Building Research Data*

No. 158

April 2014

---

---

## 高齢者の安定した地域居住に関する 生活行動実態調査報告

A Report of a Questionnaire Survey on Elderly People's  
Daily Activities Related to Their Stable Living in Communities

樋野公宏・石井儀光・米野史健

Kimihiro Hino, Norimitsu Ishii, Fumitake Meno

---

---

独立行政法人 建築研究所

Published by  
Building Research Institute  
Incorporated Administrative Agency, japan



## はしがき

独立行政法人建築研究所は、建築及び都市計画に係る技術に関する調査、試験、研究及び開発並びに指導及び成果の普及等を行うことにより、建築・都市計画技術の向上を図ることを目的としています。その目的を果たすための重要課題として、人口減少・高齢化に対応した住宅・建築・都市ストックの維持・再生のための研究開発に取り組んでいます。

その一環として、建築研究所では平成 23 年度から 25 年度に掛けて、重点的研究開発課題「高齢者等の安定した地域居住に資するまちづくり手法の研究」を実施してきました。世界的に見ても急激に高齢化が進展するわが国においては、買い物や福祉・医療などの生活サービスを十分に受けられない生活サービス困窮者が増加することが懸念されています。こうした生活サービス困窮者の現状把握および発生メカニズム分析のため、上記研究開発課題では 4 市 7 地区にお住まいの高齢者に対し、生活行動実態に関するアンケート調査を実施しました。本資料は、その調査結果を取りまとめ、建築研究資料として出版するものです。

本資料が地域や自治体で高齢者施策に関わる方々の基礎的資料となり、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるまちづくりにつながることを祈念します。

最後に、本研究のアンケート調査にご回答いただいた皆さま、ご協力いただいた関係者の方々にこの場を借りて御礼申し上げます。

平成 26 年 4 月

独立行政法人 建築研究所

理事長 坂本 雄三

## 高齢者の安定した地域居住に関する生活行動実態調査報告

樋野公宏\*・石井儀光\*・米野史健\*

### 概 要

本資料は、建築研究所が平成 23 年度より平成 25 年にかけて実施している「高齢者等の安定した地域居住に資するまちづくり手法の研究」の一環として行った調査の報告である。

わが国においては、世界的に見ても急激な高齢化が進展している。そして、車利用者を主対象とする施設が多い地区では、買い物や福祉・医療などの生活サービスを十分に享受できない高齢者等の増加が問題視されている。高齢者等の外出促進は、健康で活力ある暮らしや社会保障費抑制の観点からも求められる。

本調査は、こうした生活サービス困窮者の現状把握および発生メカニズム分析のため、都市特性の異なる 4 都市 7 地区の高齢者 6,700 人に対し、生活行動実態を伺ったものである。調査結果からは、高齢者の属性や地域特性によって買い物などの外出行動や社会との関わり方に差異が見出され、身近な地域における居場所づくりや地域活動の機会創出の重要性が示された。

\* 独立行政法人 建築研究所 住宅・都市研究グループ 主任研究員（平成 26 年 3 月末時点）

A Report of a Questionnaire Survey on Elderly People's  
Daily Activities Related to Their Stable Living in Communities

by

Kimihiro Hino\*, Norimitsu Ishii\*, Fumitake Meno\*

ABSTRACT

This Building Research Data is a report of a questionnaire survey conducted in a R&D project “A research on community building for stable living of elderly people” between fiscal 2011 and 2013.

In Japan, the population is aging more rapidly than any other countries. It is regarded problematic that elderly people who cannot go shops, clinics and welfare facilities are increasing in suburban areas where most facilities are built for car users. It is necessary for healthy living of elderly people and reduction of social security expenses to encourage them to go out of their homes.

This survey intended to ask 6,700 elderly people living in seven areas of four cities with various features about their daily activities to know the present situation of their difficulties in their living and to analyze the mechanism of the difficulties. The result shows that shopping activities and social connection of elderly people differ depending on their demographics and local features and that it is important to make their “third place” and the chance of community activities.

\* Senior Research Engineer, Department of Housing and Urban Planning, Building Research Institute  
(as of the end of March 2014)

## 目 次

<b>I 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1. 調査目的 .....	1
2. 調査概要 .....	2
3. 調査地区の概況 .....	5
<b>II 回答者の概要</b> .....	<b>7</b>
1. 回答者属性 .....	7
2. 健康に対する認識 .....	14
3. 外出行動 .....	19
4. 社会との関わり .....	25
5. 地域生活の満足度 .....	32
<b>III 高齢者の生活行動</b> .....	<b>39</b>
1. 買い物行動 .....	39
2. 医療機関等への受診行動 .....	47
3. 福祉サービス等の利用行動 .....	53
4. 平日昼間の過ごし方 .....	60
5. 気軽に足を運べる場所（居場所） .....	66
<b>IV 地区別分析</b> .....	<b>77</b>
1. 地区別に見た外出行動 .....	78
2. 地区別に見た社会との関わり .....	81
3. 地区別に見た地域生活の満足度 .....	84
4. 地区別に見た買い物行動 .....	101
5. 地区別に見た気軽に足を運べる場所（居場所） .....	110
6. 地区別分析のまとめと考察 .....	116
〈付録〉	
補足資料 1   アンケート調査票	
補足資料 2   不規則回答の取扱ルール	

# I 調査の概要

## 1. 調査目的

わが国は、世界的に見ても急激な高齢化が進展している。しかし、高度経済成長以降に形成されたわが国の多くの市街地は自家用車の利用に依存した構造となっており、買い物や福祉・医療などの生活サービスを十分に享受できない高齢者等の増加が懸念されている。

一方で、高齢者等の活力ある暮らしの実現や社会保障費抑制の観点からは、犯罪や事故から安全に歩ける環境づくりや、社会参加の機会の確保などを通じて、高齢者等の外出を促すための取り組みも求められている。

建築研究所では、こうした問題を「高齢者等の安定した地域居住に係る課題」として捉え、まちづくりの視点から高齢者等が健康的かつ利便性の高い生活を送ることのできる手法を検討するため「高齢者等の安定した地域居住に資するまちづくり手法の研究（調査期間平成 23～25 年度）」を実施してきた。

本調査は、上記研究の一環として、高齢者の生活行動実態を理解するとともに、その都市特性による差異を把握するために実施するものである。対象地区は、高齢社会に対応したまちづくりに関心が高く、特性の異なる 4 都市から、中心市街地と郊外住宅地計 7 地区を選定した。

なお本調査は町田市と建築研究所、新潟市と建築研究所、橿原市と建築研究所、周南市と建築研究所による共同調査としてそれぞれ実施した。

## 2. 調査概要

平成23～24年度に実施した「高齢社会における安定した地域居住に関する生活行動実態調査」の概要として、調査地区選定の考え方および調査項目、調査方法等について整理する。

### 2.1 調査地区の選定

都市特性が高齢者の生活行動に影響を及ぼすという仮設に基づき、都市特性の異なる4都市7地区を対象にアンケート調査を実施した。対象都市は、右図の区分に基づき、高度経済成長期に計画的に形成された戸建住宅地を有し、高齢社会に対応したまちづくりに関心が高く、調査協力が得られた4都市を選定した。そこから、高齢化率等に配慮して中心市街地3地区、郊外住宅地4地区の計7地区を選定した。

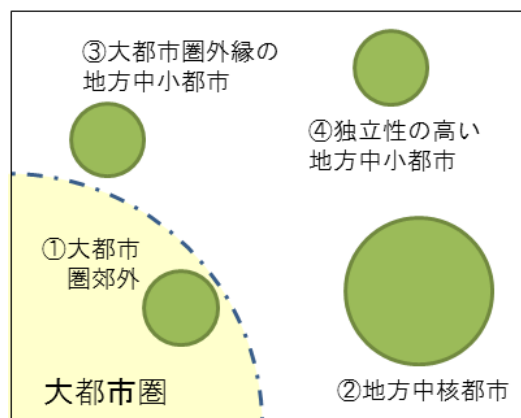


図 I-2-1 調査対象都市の区分と概要

表 I-2-1 調査対象都市の概要

都市類型	概要	調査地区
①大都市圏郊外 (東京都町田市)	人口約41万人 新宿駅より小田急線で約30分の首都圏のベッドタウン	郊外市街地
②地方中核都市 (新潟県新潟市)	人口約81万人 日本海側の主要な政令指定都市	中心市街地 郊外市街地
③大都市圏外縁 の地方中小都市 (奈良県橿原市)	人口12万人 大阪から近鉄特急で約30分。大阪圏郊外の中小都市	中心市街地 郊外市街地
④独立性の高い 地方中小都市 (山口県周南市)	人口15万人 瀬戸内コンビナートの一面を担う都市	中心市街地 郊外市街地



## 2.2 調査項目

調査項目は、先述の調査目的に基づき下記の通り設定した。まず基本属性、そして本研究の主要な着目点である外出、健康について伺った。次に、加齢に伴い享受できなくなる可能性のある生活サービスとして、買い物、医療、福祉サービスの利用状況を伺った。その上でこれらを除く自由度の高い生活行動、最後に総合的指標として地域生活の満足度を伺った。

集計にあたっては、外出、健康に加えて、地区による差異を見いだせるよう配慮した。

- ◆基本属性、外出時の移動、健康状態など
- ◆必要性の高い生活行動について
  - ・買い物行動
  - ・医者への受診行動
  - ・福祉・生活支援サービス
- ◆自由度の高い生活行動について
  - ・平日昼間の過ごし方
  - ・気軽に行ける場所
  - ・同居家族以外の人との関わり方
- ◆地域生活の満足度について

なお、一部の地区では自治体との協議によって別途設問を加えたが、本資料では扱わないこととする。

## 2.3 調査方法

### (1) 調査対象者

調査年の1月1日時点で対象地区に居住し、要介護<sup>3</sup>未満かつ65歳以上79歳未満の男女。

町田市、周南市ではあらかじめ要介護3以上を除外して配布し、新潟市、樺原市では、回収後、要介護3以上の回答者を除外した。

### (2) 調査時期及び配布・回収方式

いずれも郵送配布・郵送回収方式で実施。

配布時期は概ね各年1月末から2月初旬とし、投函締切日をそれぞれ次の通り設定した。

平成24年2月15日に設定 町田市、新潟市

平成25年2月15日に設定 樺原市、周南市

---

<sup>1</sup> 要介護3は、日常生活動作（食事、排泄、更衣等）と手段的日常生活動作（家事、薬の服用、買物等）の両方の面で著しく低下し、ほぼ全面的な介護を要する状態を指す。一方、要介護2はこれらに部分的な介護を要する状態を指す。

(3) 調査方法

本調査は、建築研究所と調査対象自治体との間で共同調査の協定書を締結した上で、住民基本台帳を用いた調査対象者の無作為抽出を行った。抽出方法等は表 I-2-2 に示すとおりである。

表 I-2-2 アンケート対象配布・回収数一覧

	実施 時期	抽出方法	中心／郊外	アンケート		
				配布数	回収数	回収率
東京都 町田市	平成 24 年 2 月	要介護 3 以上を除外 した上で無作為抽出	郊外部	1,500	890	59.3%
新潟県 新潟市		町丁目による層化無 作為抽出	中心部	1,100	708	64.4%
			郊外部	1,100	700	63.6%
奈良県 橿原市	平成 25 年 2 月	無作為抽出	中心部	750	411	54.8%
			郊外部	750	506	67.5%
山口県 周南市		要介護 3 以上を除外 した上で無作為抽出	中心部	750	386	51.5%
	郊外部		750	457	60.9%	
合 計				6,700	4,058	60.6%

\*新潟市・橿原市の各地区の回収数に要介護 3 以上は含まない

### 3. 調査地区の概況

調査対象地区の交通、施設等の概要を下表に整理する。なお、本資料において「居場所」とは、アンケート調査票での定義（特に予定が無くても気軽に立ち寄れる場所、空間）を指す。

表 I-3-1 調査対象地区の概要一覧

地区名		地区特性	公共交通 (◎○△は利便性を表す)	主な店舗 (内は地区内、近は近隣を表す)	主な居場所	他の地区内施設	特徴的な高齢者施策等
町田市	郊外部	計画的郊外住宅地（戸建＋集合）	◎駅までバス10分（昼間毎時5-10分間隔運行）	内：団地センター商店街とスーパー2店 近：駅周辺に多様な店舗集積	内：図書館、老人福祉施設	近隣に大学、私立小中高校	各種教室開催、いきいきポイント制度
	中心部	中心市街地	○駅までバス5～10分（昼間毎時運行）ただし地区内循環路線なし	内：商店街と食料品店2店 近：商店街とGMS	内：文化施設、公園 近：河川緑地		スマートウェルネスシティ（健幸都市）として歩きたくなるまちづくりを推進中
新潟市	郊外部	計画的郊外住宅地（戸建中心）	△新潟駅までバス約40分（昼間は15分間隔運行）	内：商店街と小規模な食料品店 近：小規模な食料品店	内：公民館、図書館、地域施設 近：河川緑地		
	中心部	中心市街地	○地区内に3つの鉄道駅あり。ショッピングモールへは利便性が良いが地区内循環路線なし	内：百貨店と小規模な食料品店のみ 近：スーパー点在	内：図書館、文化施設、運動施設 近：耳成山公園		各種教室開催
檀原市	郊外部	計画的郊外住宅地（戸建中心）	△駅までバス10分/中心部へバス20分（昼間は毎時運行なし）	内：食料品店なし 近：幹線道路沿道にスーパー数店	内：地域施設 近：国営公園、神宮		
	中心部	中心市街地	○新幹線停車駅/地区内循環路線なし	内：百貨店とスーパー3軒 近：スーパー3店	内：図書館、文化施設		
周南市	郊外部	計画的郊外住宅地（戸建＋集合）	○駅までバス10～20分（昼間毎時運行）/地区内に2系統あり	内：スーパー2店 近：スーパー2店	内：公園 近：公園、運動施設	総合病院立地	移動支援や日中一次支援事業など、地域支援事業を積極的に展開
	中心部	中心市街地					



## II 回答者の概要

### 1. 回答者属性

本調査の回答者の基本属性を示す。ここでは、性別・年代別の区分を基本に世帯構成及び近隣親族の状況、職業、介護認定の状況、住宅形式等について整理する。

#### 1.1 性別・年齢別の集計

回答者の男女比を見ると、女性がやや多いもののほぼ半々である。

年齢別に見ると、70-74歳が36%とやや多いが、各年齢ともほぼバランスよく構成されている。

表 II-1-1 アンケート集計結果

	男性	女性	無回答	総計
65-69歳	607	645	2	1,254
70-74歳	658	727		1,385
75-79歳	531	659	3	1,193
無回答	66	63	97	226
総計	1,862	2,094	102	4,058

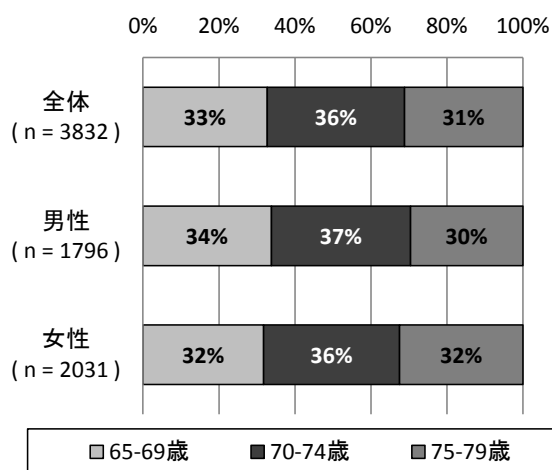


図 II-1-1 年齢別に見たアンケート対象者の男女比<sup>1</sup>

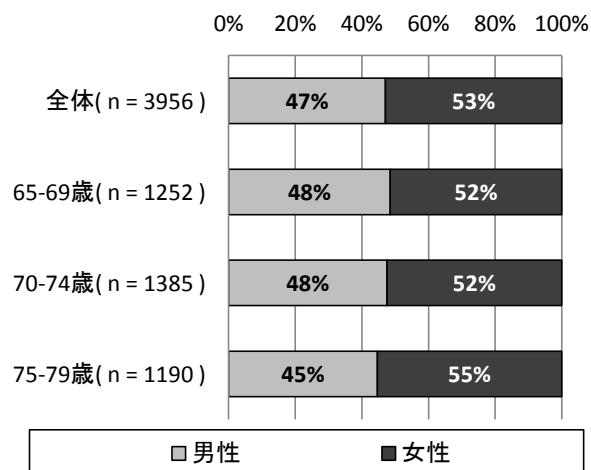


図 II-1-2 男女別に見たアンケート対象者の年齢比

<sup>1</sup> グラフには無回答を含めず。以下同じ。

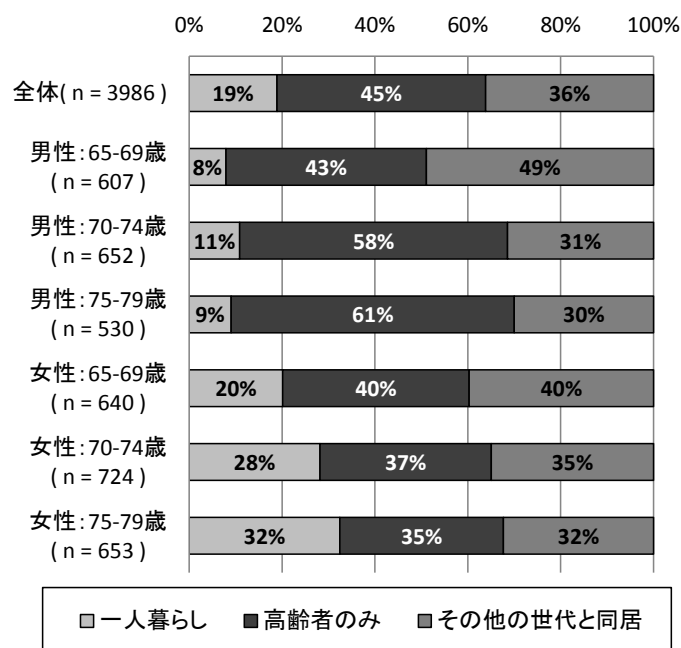
## 1.2 回答者の属性別構成

### (1) 回答者の世帯構成等

回答者の世帯構成を見ると、全体では、「一人暮らし」が19%、「高齢者のみ世帯」が45%を占めており、合わせて64%が高齢者以外の世代を含まない世帯（以下、高齢者世帯）となっている。

性別・年代別に見ると、男性では「一人暮らし」の割合がどの年代も比較的低く、65-69歳は高齢者以外の世代と同居している割合が49%と約半数を占めている。しかし、70歳を超えると高齢者以外の世代と同居している割合が下がり、高齢者世帯割合が70%を占める。

女性は男性よりも「一人暮らし」の割合が高く、年代が上がるほどその割合が上がる傾向があり、75-79歳では32%となっている。



図Ⅱ-1-3 性別・年齢別に見た世帯構成

高齢者世帯について、近隣に住む家族や親せきの有無を見ると、近隣に「子供」のいる回答者が約6割、「兄弟姉妹」のいる回答者が約4割いる。「その他」は上記以外の親せき、いとこなどである。一方で、近隣に家族や親せきが全く「いない」高齢者も約15%いる。

また、70歳以上では少なくなるが、65-69歳では「親」が近隣にいる世帯も男性では約2割存在する。

表Ⅱ-1-2 性別・年齢別に見た近隣に住む家族や親せきの有無<sup>2</sup>

	全体 (n = 3,954)	男性			女性		
		65-69歳 (n = 602)	70-74歳 (n = 653)	75-79歳 (n = 523)	65-69歳 (n = 641)	70-74歳 (n = 714)	75-79歳 (n = 643)
子供	57.6%	50.7%	58.8%	56.8%	58.5%	59.7%	58.9%
親	3.7%	10.3%	1.8%	1.0%	6.6%	1.7%	1.1%
兄弟姉妹	44.0%	46.0%	41.8%	40.7%	47.1%	45.7%	42.9%
その他	9.2%	8.6%	8.4%	7.5%	8.6%	9.8%	11.8%
いない	14.9%	16.3%	14.7%	16.8%	13.9%	15.3%	12.9%

※複数回答が可能な設問

表Ⅱ-1-3 性別・年齢別に見た近隣に住む家族や親せきの有無（一人暮らし・高齢者のみの世帯）

	全体 (n = 2,514)	男性			女性		
		65-69歳 (n = 307)	70-74歳 (n = 443)	75-79歳 (n = 366)	65-69歳 (n = 385)	70-74歳 (n = 463)	75-79歳 (n = 434)
子供	60.7%	54.4%	63.0%	58.5%	61.3%	62.0%	61.3%
親	3.3%	10.4%	1.8%	0.8%	6.5%	1.9%	1.2%
兄弟姉妹	41.3%	42.3%	38.8%	37.7%	44.7%	44.3%	40.6%
その他	8.1%	7.8%	7.7%	5.5%	7.5%	8.9%	11.8%
いない	14.9%	16.0%	15.1%	17.8%	13.5%	14.3%	13.1%

※複数回答が可能な設問

<sup>2</sup> 全体のn(3,967)に無回答者は含まない。また、性別、年齢にも無回答者がいるため、各性別、年齢のnを合計しても全体のnと一致しない。以下、同じ。

## (2) 回答者の職業

全体で見ると、回答者の半数は無職である。

このうち、男性 65-69 歳では 43%が何らかの形で就労しているが、70 歳を過ぎると「勤め人」「パート、アルバイト」の割合が半減し、75-79 歳では「パート、アルバイト」の割合も少なくなり「無職」が約 8 割を占めるようになる。

一方、女性では 65-69 歳では働いている人が 22%を占めているが、75-79 歳になると 46%となり、「主婦」と「無職」で 9 割を超える。

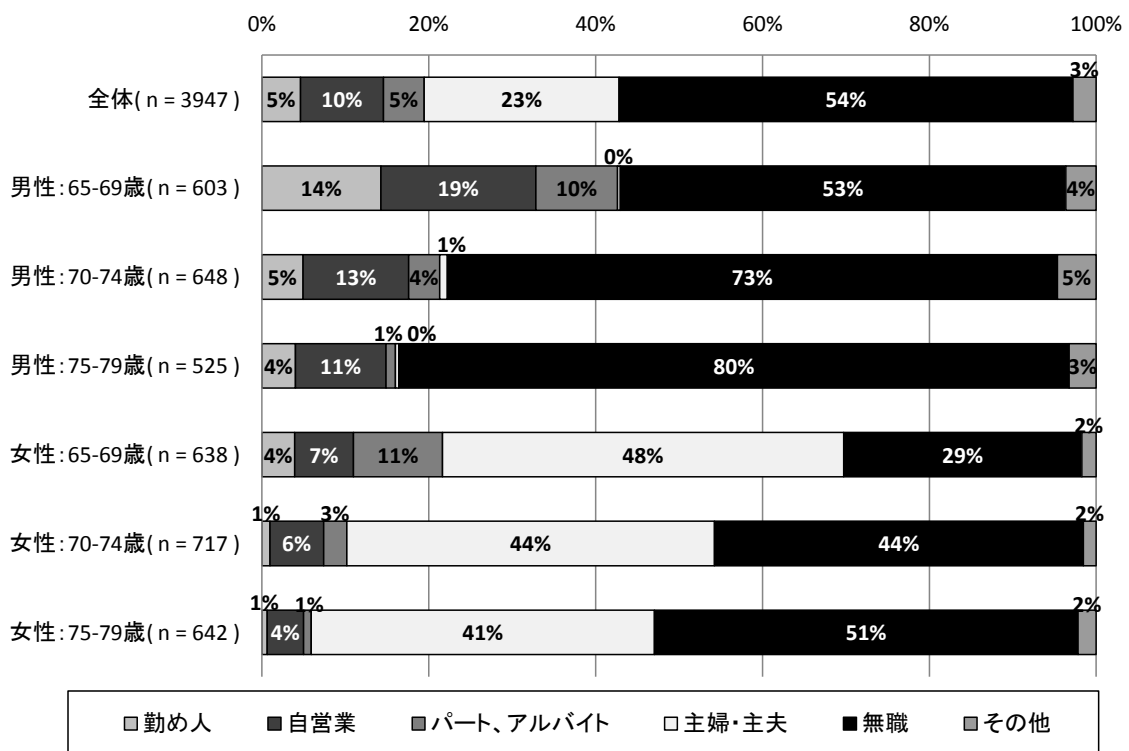


図 II-1-4 性別・年齢別に見た職業



### (3) 要介護認定の状況

本調査では要介護3以上は分析対象に含まない。

全体では、介護認定を「受けていない」が96.5%を占めており、自力で活動できる比較的元気な高齢者が回答者を構成している。また、男女ともに65-69歳や70-74歳の回答者に比べて75-79歳の回答者では介護認定を受ける割合が高くなる。

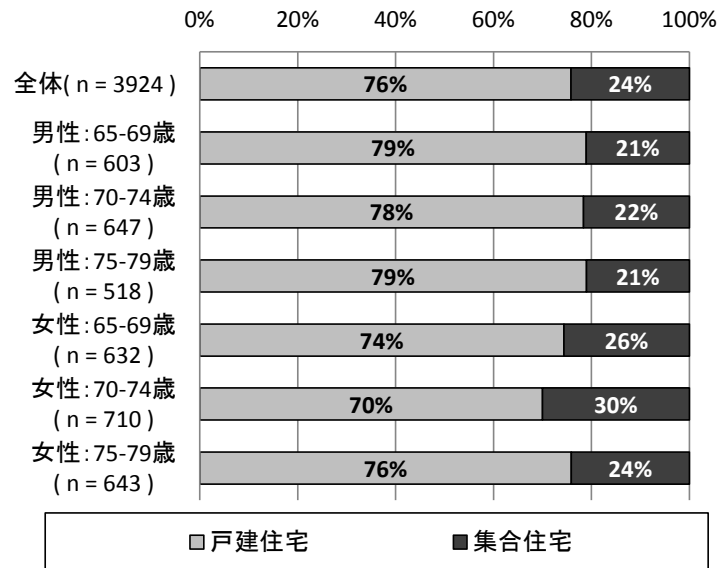
介護認定を受けている回答者の内訳を見ると男女とも要介護1、2の割合が加齢とともに高くなる。また75-79歳では要支援1、2が多くなる。

表Ⅱ-1-4 性別・年齢別に見た要介護認定の構成比

	全体 (n = 4,058)		男性						女性					
			65-69歳 (n = 607)		70-74歳 (n = 658)		75-79歳 (n = 531)		65-69歳 (n = 645)		70-74歳 (n = 727)		75-79歳 (n = 659)	
要介護認定を受けていない	3917	96.5%	594	97.9%	645	98.0%	502	94.5%	638	98.9%	706	97.1%	613	93.0%
要支援1	43	1.1%	5	0.8%	0	0.0%	11	2.1%	2	0.3%	7	1.0%	14	2.1%
要支援2	39	1.0%	3	0.5%	3	0.5%	10	1.9%	0	0.0%	6	0.8%	14	2.1%
要介護1	29	0.7%	3	0.5%	3	0.5%	4	0.8%	3	0.5%	4	0.6%	9	1.4%
要介護2	30	0.7%	2	0.3%	7	1.1%	4	0.8%	2	0.3%	4	0.6%	9	1.4%

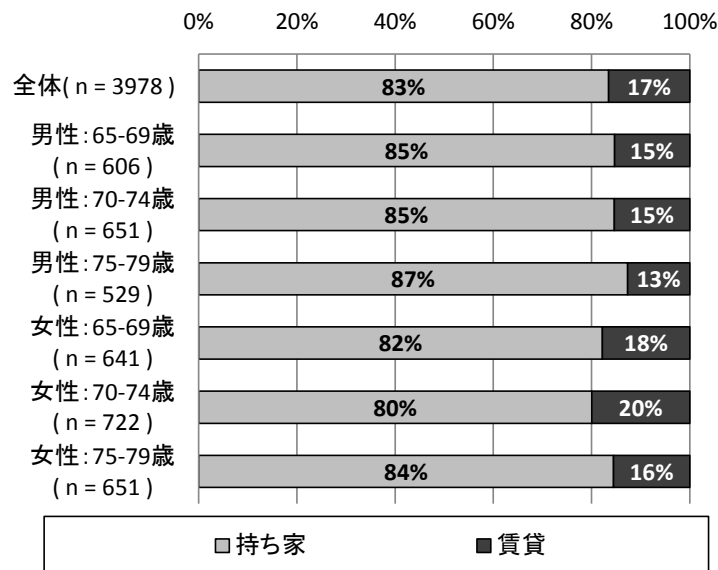
(4) 住宅の形式と所有形態、居住年数

自宅の形式について、回答者全体の76%は「戸建住宅」に居住しており、特に男性では各年齢とも「戸建住宅」が78-79%を占めている。これに比して女性の「戸建住宅」の割合はやや低くなっている。特に女性の70-74歳では「集合住宅」の割合が30%となっている。



図Ⅱ-1-5 性別・年齢別に見た住宅の形式

自宅の所有形態は83%が「持ち家」である。男性では「持ち家」の割合がより高く、年代が上がるとさらに「持ち家」の割合が高まる。女性では、集合住宅の割合が高かった70-74歳で「賃貸」の割合が20%とやや高くなっている。



図Ⅱ-1-6 性別・年齢別に見た自宅の所有形態

自宅の居住年数は、全体では「30-40年未満」が25%、「40-50年」が27%となっている。男女とともに年代が高いほど居住年数が長い傾向が見られる。居住年数が40年以上の割合に着目すると、65-69歳では男性が29%、女性34%であるのに対して、75-79歳の場合では男性が51%、女性52%となっている。

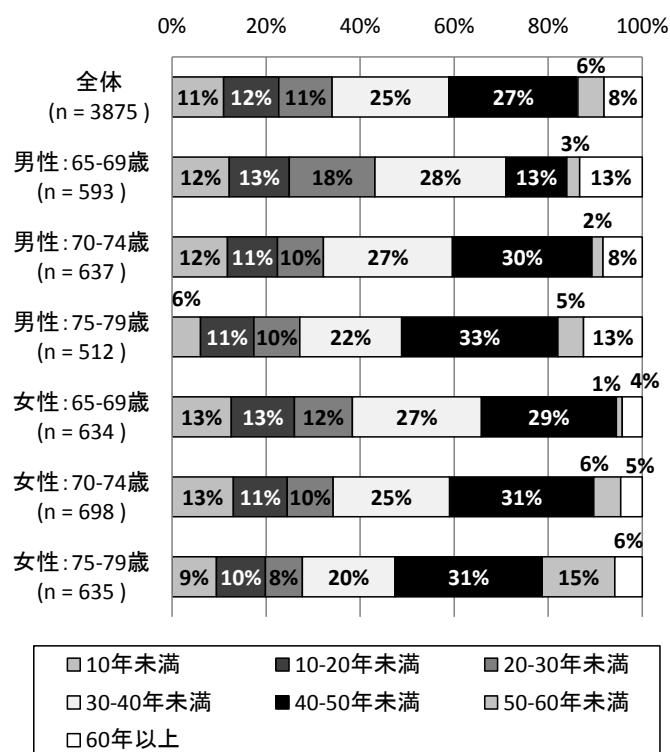


図 II-1-7 性別・年齢別に見た自宅の居住年数

## 2. 健康に対する認識

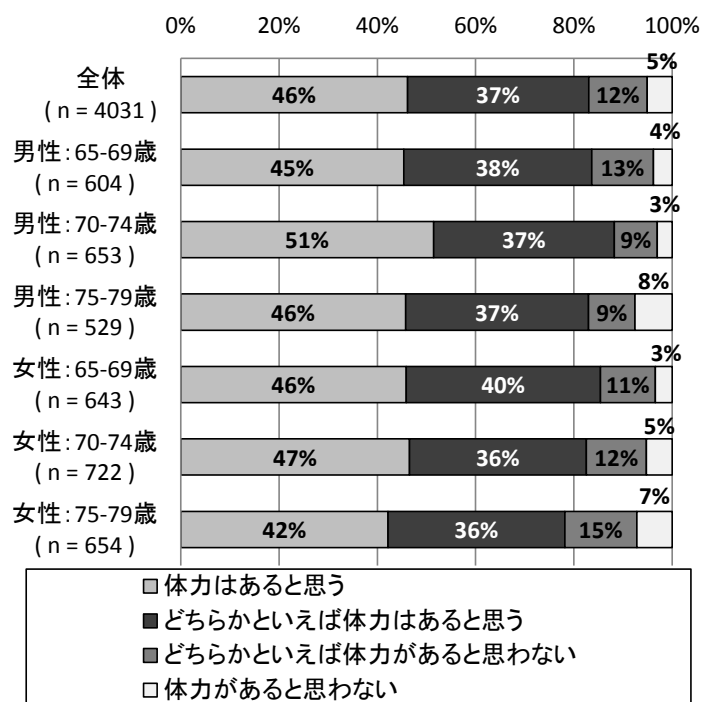
回答者の健康に対する意識や認識について示す。ここでは、性別・年代別の区分を基本に年相応体力や運動実施状況、欠食率や栄養バランスなどの項目と共に、主観的健康感及び生活満足度を把握する。

### 2.1 主観的な健康状態

#### (1) 年相応に体力があると思うか（年相応体力）

年相応体力に対して「体力はあると思う」「どちらかといえば体力はあると思う」を合わせた割合で見ると、全体の83%となっている。

男性は65-69歳と70-74歳の間でこの割合が上がり、75-79歳の間で下がるのに対し、女性は年代が上がるにつれて体力に自信が持てない層の割合が徐々に増え、75-79歳では22%になる。

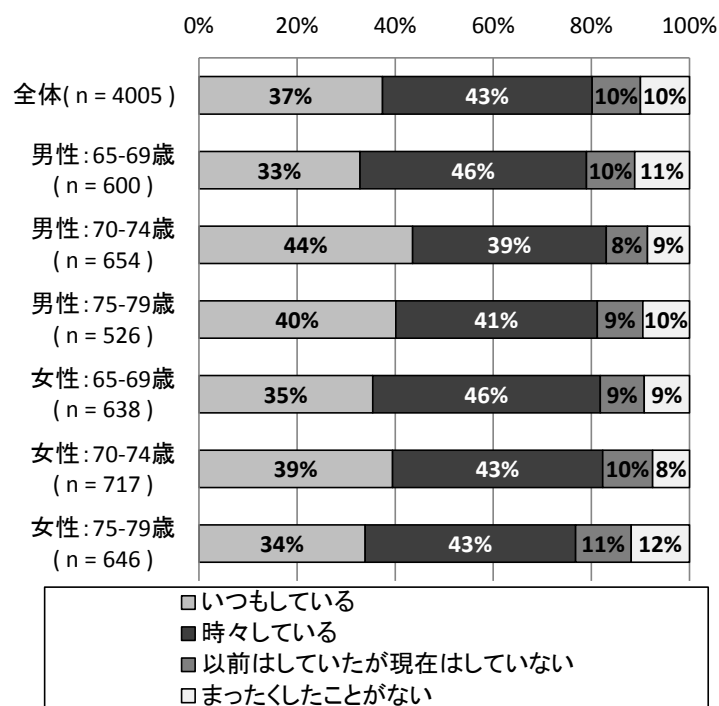


図Ⅱ-2-1 性別・年齢別に見た年相応体力

(2) 健康維持・増進のための運動をしているか（運動実施状況）

運動実施状況については、「いつもしている」「時々している」をあわせた割合で見ると、全体の80%が何らかの運動を意識的に行っている状況がうかがえる。

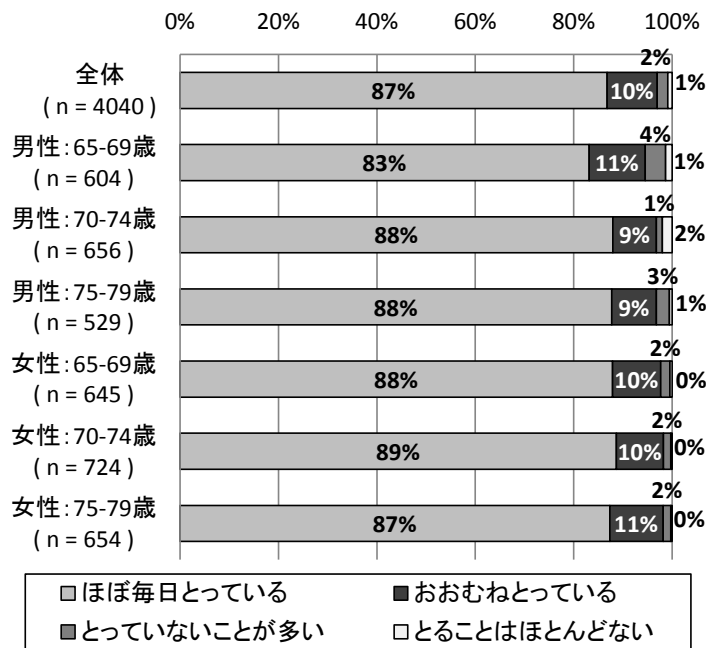
これを性別・年代別に見ると、男女とも、65-69歳より70-74歳の方が「いつもしている」の割合が高くなっているものの、75-79歳では70-74歳よりも「いつもしている」割合が低くなり、女性では「まったくしたことがない」割合が他の年代よりもやや高くなっている。



図Ⅱ-2-2 性別・年齢別に見た運動実施状況

### (3) 毎日三食とっているか（欠食率）

欠食率の状況について確認したところ、どの性別・年代を見ても「ほぼ毎日とっている」が80%以上、「おおむねとっている」が10%前後である。

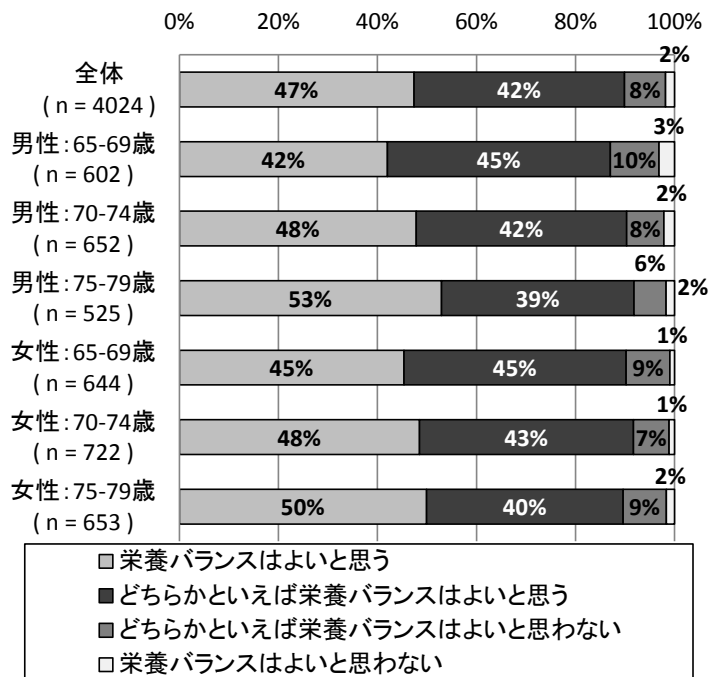


図Ⅱ-2-3 性別・年齢別に見た欠食率

### (4) 栄養バランスよく食べているか（栄養バランス）

「栄養バランスはよいと思う」「どちらかといえば栄養バランスはよいと思う」を合わせて、全体で約90%となっている。

年代別に見ると、男女とも年代が上がるにつれて、「栄養バランスはよいと思う」割合が高くなる傾向が見られる。

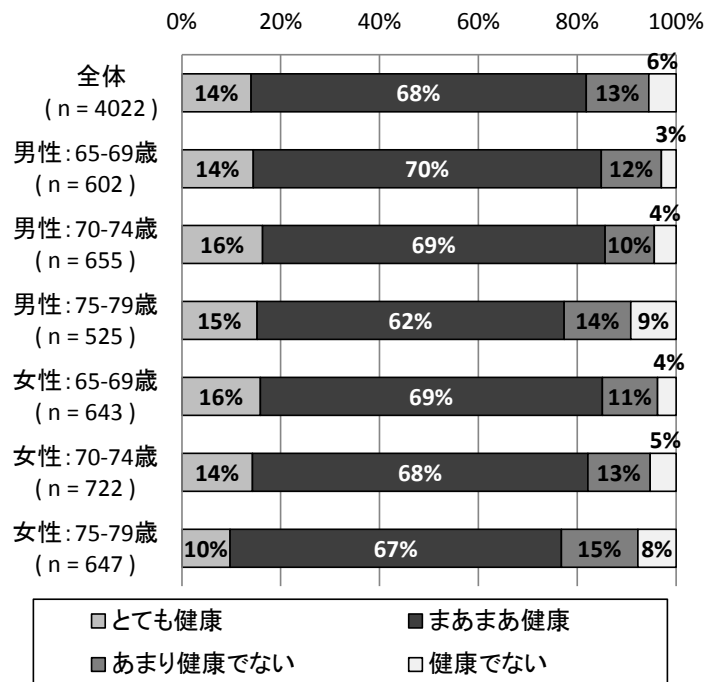


図Ⅱ-2-4 性別・年齢別に見た栄養バランス

(5) 健康だと思うか（主観的健康感）

全体では「とても健康」が14%であり、「まあまあ健康」が68%と大勢を占めている。これは、持病の有無を確認した設問（50ページ）で、回答者の64%に「持病がある」ことからみても、「とても健康」とまでは言えない状況がうかがえる。

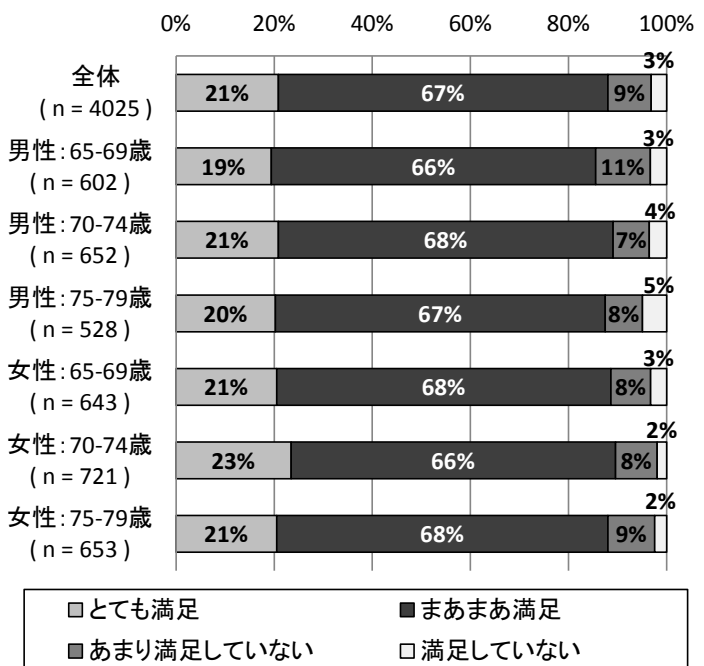
年代別に見ると男女とも、75-79歳で「あまり健康でない」「健康でない」の割合がそれぞれ上がり、特に75-79歳女性では「とても健康」の割合が10%と最も低い。



図Ⅱ-2-5 性別・年齢別に見た主観的健康感

(6) 今の生活に満足しているか（生活満足度）

回答者自身の健康状態に関する設問の最後に生活満足度を確認したところ、全体では「とても満足」が21%、「まあまあ満足」が67%、「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせると12%となっていた。性別・年代別にみても大きな差は見られない。



図Ⅱ-2-6 性別・年齢別に見た生活満足度

(7) 主観的健康感と生活満足度の関係

(5) の主観的健康感と (6) の生活満足度の関連を見ると、主観的健康感が「とても健康」の場合、生活満足度も「とても満足」となる割合が 51% と大変高くなっている。

主観的健康感の段階別に、生活満足度の「とても満足」「まあまあ満足」合わせた満足の割合を見ると、主観的健康感が「とても健康」では 97% が満足しているが、「まあまあ健康」では 92%、「あまり健康ではない」では 70%、「健康ではない」では 55% と、満足している割合が徐々に低下する関係にある。

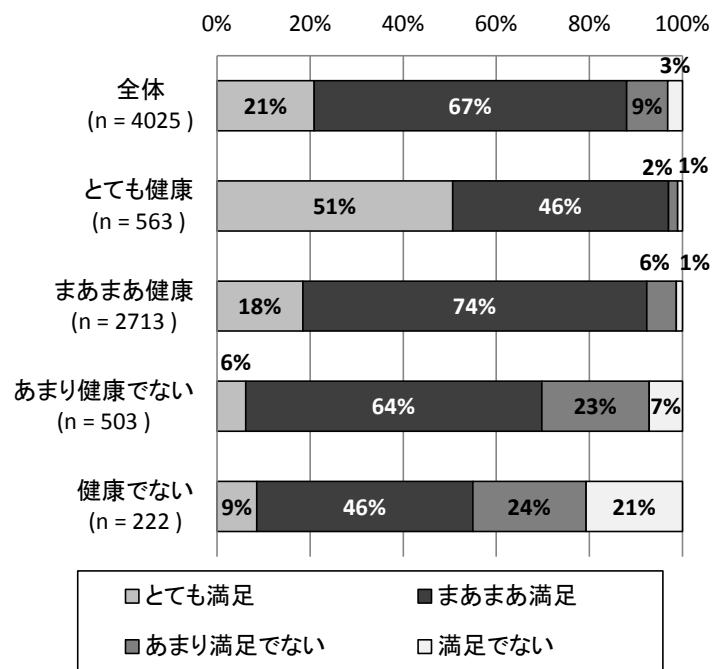


図 II-2-7 主観的健康感別に見た生活満足度



### 3. 外出行動

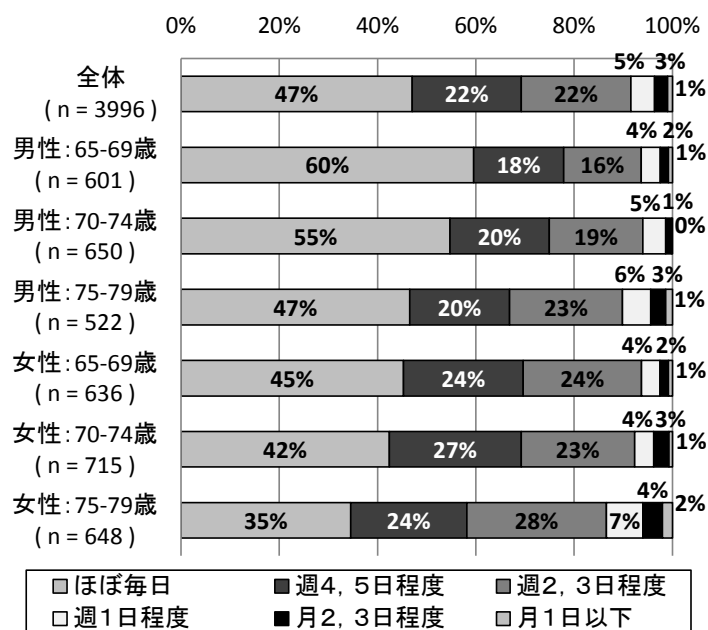
高齢者の外出行動の特性について示す。ここでは、性別・年代別の区分を基本に、外出頻度、自動車所有状況、自動車運転状況及び外出支援サービス等の利用実態について整理する。

#### 3-1 外出行動に関する基礎集計

##### (1) どのくらいの頻度で外出するか（外出頻度）

回答者の外出頻度について、全体では「ほぼ毎日」外出が47%、「週に4,5日」が22%、「週に2,3日」が22%とここまでで91%となる。

性別・年代別に見ると、男女とも年代が上ると「ほぼ毎日」外出している割合が低くなる。男性は65-69歳では「ほぼ毎日」が60%を占めているが、70-74歳では55%、75-79歳では47%となっている。女性は65-69歳では45%であったものが、70-74歳では42%、75-79歳では35%となっている。

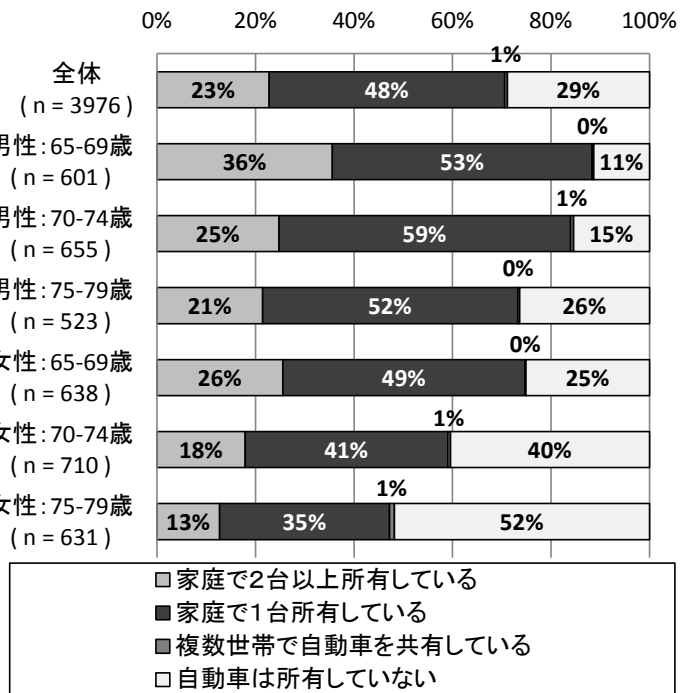


図Ⅱ-3-1 性別・年齢別に見た外出頻度

## (2) 自家用車を持っているか（自動車所有状況）

自動車所有状況を全体で見ると、家庭で1台以上自動車を所有している割合は71%あり、このうち「2台以上所有している」家庭が23%ある。

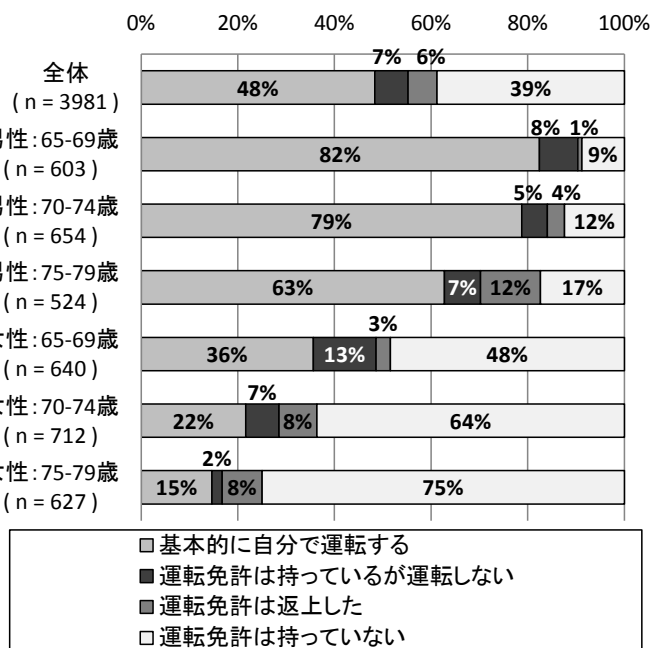
性別・年代別に見ると、男性は65-69歳では89%が自動車を所有しているところ、70-74歳では84%、75-79歳では73%と年代とともに割合が下がる。女性は全体的に男性よりも所有割合が低いが、年代が上がるにつれて所有割合が低くなる傾向は同様である。



図Ⅱ-3-2 性別・年齢別に見た自動車所有状況

## (3) 自動車を運転するか（自動車運転状況）

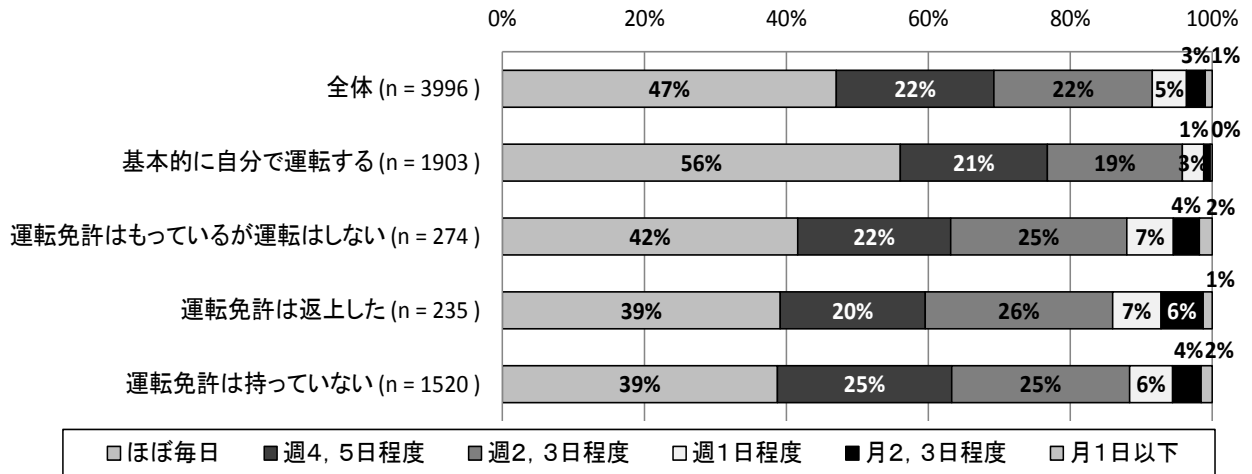
自動車運転状況について、「基本的に自分で運転する」割合は男性の方がかなり高い。また、その割合は加齢に伴って低下する傾向が見られる。男性は、65-69歳では82%であったものが、70-74歳では79%、75-79歳では63%になっている。女性は、65-69歳でも運転免許を持っていない人が半数近く「自分で運転する」人は36%だが、70-74歳では22%、75-79歳では15%と減少する。



図Ⅱ-3-3 性別・年齢別に見た自動車運転状況

(4) 自動車運転状況と外出頻度の関係

自動車運転状況別に外出頻度を見ると、全体の外出頻度に比べて、「自分で運転する」回答者の場合は「ほぼ毎日」外出する割合が56%と多い。一方、自動車を運転していない回答者の「ほぼ毎日」外出する割合は40%前後となっている。



図Ⅱ-3-4 自動車運転状況別に見た外出頻度

(5) 外出支援サービス利用状況

外出支援サービス利用状況については、回答者の97.7%が「利用していない」と回答している。性別・年代別に見ると、「利用していない」の割合が最も低い女性75-79歳でも95.7%である。

外出支援サービスを利用している回答者は全体で2.3%と少なく、その利用頻度を見て見ると、「週2回以上」が1.1%、「週1回程度」が0.7%であるのに対して、「月2,3回程度」が0.2%、「月1回以下」が0.2%と低く、週単位で利用している傾向が見られる。

表Ⅱ-3-1 性別・年齢別に見た外出支援サービスの利用状況

	全体 (n = 3,817)	男性			女性		
		65-69歳 (n = 576)	70-74歳 (n = 634)	75-79歳 (n = 499)	65-69歳 (n = 610)	70-74歳 (n = 692)	75-79歳 (n = 598)
利用しない	97.7%	97.7%	98.3%	97.0%	98.7%	99.1%	95.7%
週2回以上	1.1%	1.7%	0.8%	2.0%	0.7%	0.1%	1.7%
週1回程度	0.7%	0.5%	0.5%	0.6%	0.3%	0.3%	2.0%
月2,3回程度	0.2%	0.0%	0.3%	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%
月1回以下	0.2%	0.0%	0.2%	0.2%	0.2%	0.1%	0.3%

(6) 外出支援サービスを利用しない理由

外出支援サービスを利用しない回答者の、サービスを利用しない理由を見ると、どの性別・年代別区分でも「必要性を感じない」としている回答者が80%以上となっている。

ただし、年代が上がるほど「必要性を感じない」割合が低下し、「サービスがあることを知らない」などの割合が上がっていることから、このようなサービスのニーズがあっても、必要なときにすぐに利用できる状況にない可能性がある。

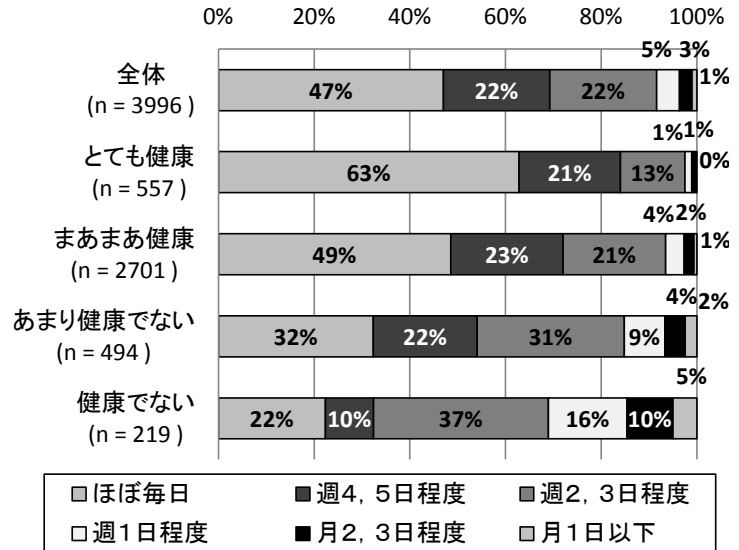
表Ⅱ-3-2 性別・年齢別に見た外出支援サービスを利用しない理由

	全体 (n = 3,609)	男性			女性		
		65-69歳 (n = 548)	70-74歳 (n = 610)	75-79歳 (n = 468)	65-69歳 (n = 586)	70-74歳 (n = 662)	75-79歳 (n = 548)
必要性を感じない	89.9%	94.7%	91.8%	88.9%	91.5%	89.4%	83.9%
利用方法がわからない	1.5%	0.9%	1.6%	1.1%	0.3%	1.4%	2.9%
申し込みなどの利用手続きが大変	0.6%	0.4%	0.3%	1.3%	0.7%	0.6%	0.4%
利用料金が低い	0.7%	0.0%	0.5%	0.9%	0.5%	0.9%	1.5%
サービスがあることを知らない	3.2%	2.0%	2.0%	4.3%	3.4%	3.0%	4.2%
その他	4.2%	2.0%	3.8%	3.6%	3.6%	4.7%	7.1%

### 3-2 主観的健康感と外出頻度の関係

#### (1) 主観的健康感と外出頻度の関係

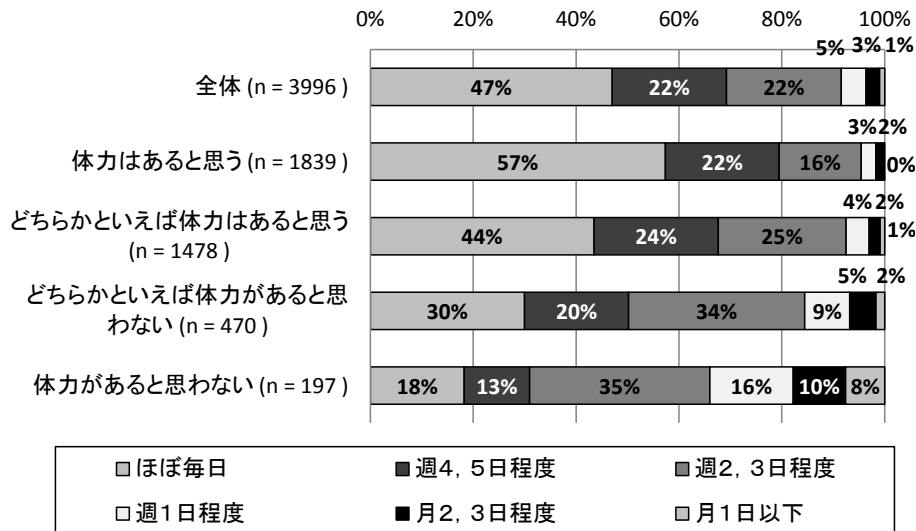
主観的健康感別に外出頻度を見ると、全体に比べて、「とても健康」と感じている回答者では、「ほぼ毎日」外出している割合が63%と非常に高く、主観的健康感が悪くなるにつれて、外出頻度も下がる傾向がみられる。



図Ⅱ-3-5 主観的健康感別に見た外出頻度

#### (2) 年相応体力と外出頻度の関係

年相応体力別に外出頻度を見ると、「体力があると思う」とした回答者は、全体に比べて「ほぼ毎日」外出する割合が57%と高くなっており、年相応体力があると感じない回答者ほど外出頻度も下がる傾向が見られる。



図Ⅱ-3-6 年相応体力別に見た外出頻度

### (3) 外出頻度と生活満足度の関係

外出頻度別に今の生活に対する満足度を見ると、全体の割合に比較して「ほぼ毎日」外出する回答者では今の生活に「とても満足」している割合が 25%とやや高い。「とても満足」の割合は「週4, 5日程度」では 22%、「週2, 3日程度」では 16%と、外出頻度が下がるほど生活満足度が低くなる傾向が見られる。特に「週1日程度」以下になると「あまり満足していない」「満足していない」割合が高くなる。

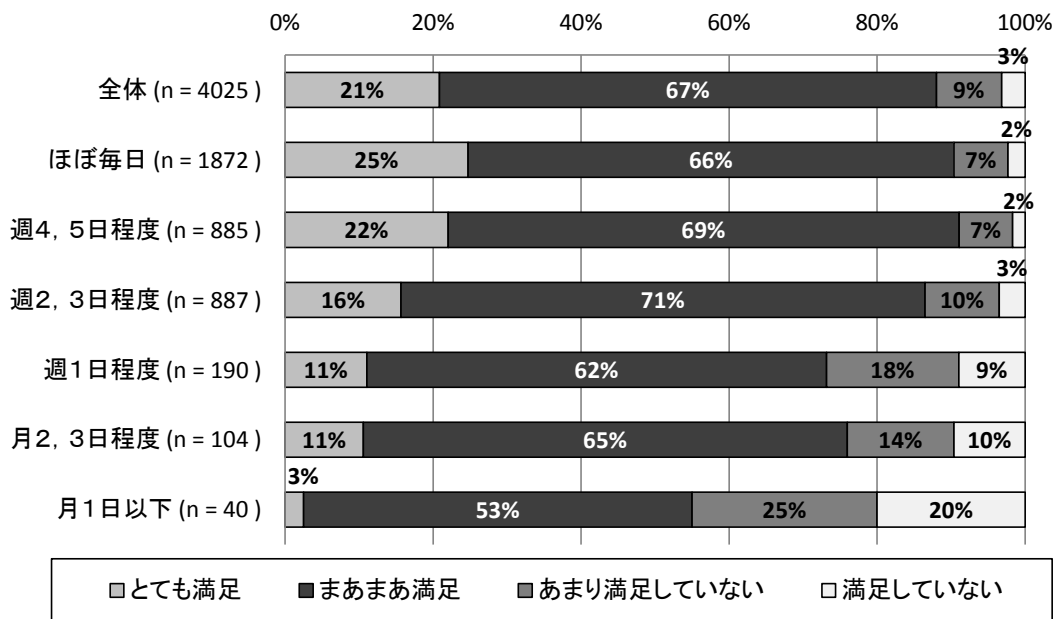


図 II-3-7 外出頻度別に見た生活満足度

## 4. 社会との関わり

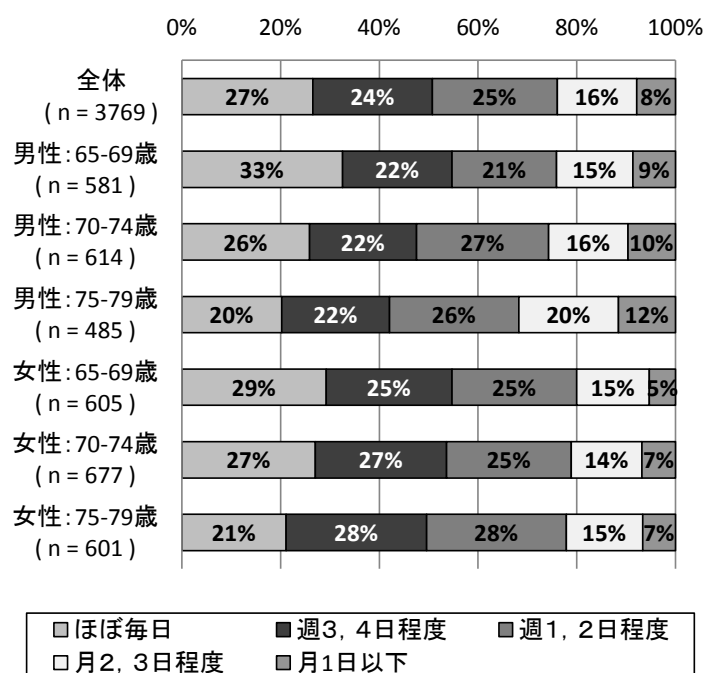
高齢者の社会との関わりについて、まず会話頻度と地域活動参加状況について性別、年代別に整理し、さらに外出頻度や主観的健康感との関係について示す。

### 4.1 性別・年齢別に見た社会との関わり

#### (1) 同居家族以外と直接会って話す頻度（会話頻度）

会話頻度は、全体では「ほぼ毎日」「週3, 4日程度」「週1, 2程度」と「月2, 3日以下」がそれぞれほぼ同じ割合となっている。

性別・年代別に見ると、男女ともに年代が上がると「ほぼ毎日」の割合が低くなる傾向が見られる。具体的には、65-69歳では男女ともに「ほぼ毎日」が30%前後であったのに対して、75-79歳では20%前後となっている。



図Ⅱ-4-1 性別・年齢別に見た会話頻度

(2) 同居家族以外で直接会って会話する人との関係

同居家族以外で直接会って会話する人は、全体では「隣近所の人」が半数を超えている。次いで「趣味のサークルや習い事で一緒の人」と「同居していない親族」がそれぞれ32%程度と、他よりも多くなっている

性別・年齢別に見ると、男女ともに各年代とも「隣近所の人」の割合が最も高くなっており、年代が上がるると隣近所の人を挙げる割合が上がる傾向にある。また、男性が41-49%なのに対し、女性は55-63%と女性の方が10%ほど高い。

次点以下を見ると、男性の65-69歳では「学校や職場などで一緒だった人」の割合が35%と高いが、年代が上がるると「同居していない親族」や「趣味のサークルや習い事で一緒の人」の割合が高くなっている。

女性でも、65-69歳では「学校や職場などで一緒だった人」の割合も22%とやや高いが、「同居していない親族」と「趣味のサークルや習い事で一緒の人」の割合がそれぞれ約37%前後を占めている。また、女性75-79歳では「趣味のサークルや習い事で一緒の人」が41%と高く、「店舗や医院、施設等で一緒の人」の割合も14%と他の年代より高い。

表Ⅱ-4-1 性別・年齢別に見た同居家族以外で直接会って会話する人との関係

	全体 (n = 3,768)	男性			女性		
		65-69歳 (n = 572)	70-74歳 (n = 611)	75-79歳 (n = 474)	65-69歳 (n = 606)	70-74歳 (n = 682)	75-79歳 (n = 618)
同居していない親族	32.1%	26.0%	26.7%	31.6%	37.3%	36.4%	34.8%
隣近所の人	51.5%	40.6%	40.1%	49.2%	54.5%	58.8%	63.4%
地域活動を一緒にしている人	14.7%	14.9%	16.0%	16.9%	10.7%	16.1%	14.6%
趣味のサークルや習い事で一緒の人	32.2%	21.5%	29.5%	25.5%	37.3%	37.8%	41.3%
店舗や医院、施設等で一緒の人	9.7%	4.4%	10.6%	10.8%	7.9%	9.7%	13.8%
学校・職場などでの一緒の(一緒だった)人	19.9%	35.1%	20.9%	15.8%	22.4%	14.7%	12.5%
その他	10.7%	11.9%	13.7%	12.4%	8.9%	10.1%	7.4%

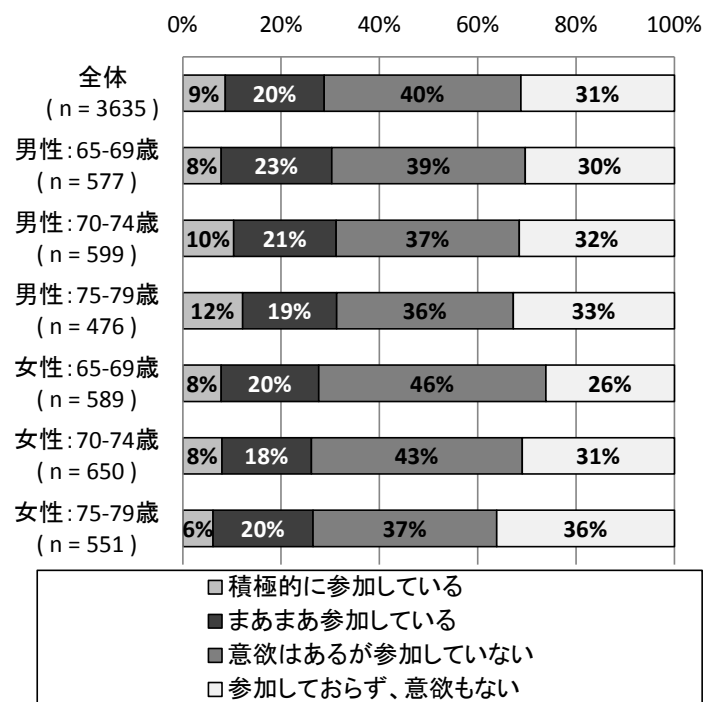
※複数回答が可能な設問



(3) 地域活動・ボランティア活動に参加しているか（地域活動参加状況）

地域活動への参加については、全体では「積極的に参加」「まあまあ参加」を合わせた参加している割合が29%、「意欲はあるが参加していない」が40%、「参加しておらず、意欲もない」が31%である。

性別・年代別に見ると、女性よりも男性の方が各年代とも参加割合はやや高い。また、男性では年代による差はあまりないが、女性では年代が上がるるとともに「参加しておらず、意欲もない」の割合が高くなり、75-79歳では最も高い36%となっている。



図Ⅱ-4-2 性別・年齢別に見た地域活動参加状況

#### (4) 参加している地域活動の内容

(3) で地域活動に参加していた回答者を対象に、参加している地域活動の内容について確認したところ、全体では「高齢者を対象とした活動」が31%と最も多く、次いで「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が26%、さらに「まちづくりのための活動」が23%と続いている。

性別・年代別に見ると、男性では比較的「まちづくりのための活動」の割合がどの年代区分でも比較的高くなっている。65-69歳では「自然や環境を守るための活動」が27%、70-74歳では「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が29%、75-79歳では「安全な生活のための活動」が29%と年代ごとに特徴的な活動が見られる。一方、女性は「高齢者を対象とした活動」がどの年代でも最も高くなっている。

表Ⅱ-4-2 性別・年齢別に見た参加している地域活動の内容

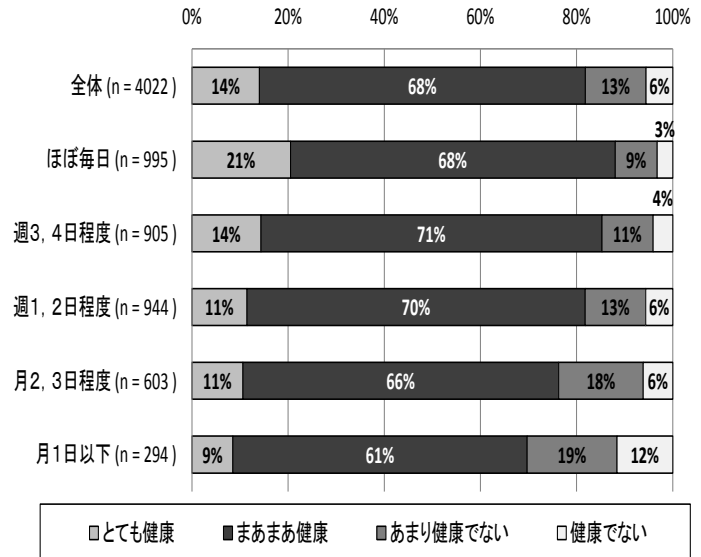
	全体 (n = 1,006)	男性			女性		
		65-69歳 (n = 165)	70-74歳 (n = 180)	75-79歳 (n = 144)	65-69歳 (n = 158)	70-74歳 (n = 166)	75-79歳 (n = 139)
健康や医療サービスに関係した活動	9.8%	7.9%	8.9%	6.7%	12.0%	11.8%	12.9%
高齢者を対象とした活動	30.7%	19.4%	24.4%	26.4%	32.9%	38.0%	39.6%
障がい者を対象とした活動	6.6%	7.3%	3.3%	5.6%	7.0%	9.6%	6.5%
子供たちを対象とした活動	15.5%	18.8%	18.3%	15.3%	17.7%	11.4%	12.2%
スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動	26.1%	23.6%	28.9%	25.0%	24.1%	27.1%	25.9%
まちづくりのための活動	23.2%	31.5%	25.0%	31.3%	19.6%	13.9%	13.7%
安全な生活のための活動	20.1%	25.5%	19.4%	28.5%	15.2%	13.9%	15.1%
自然や環境を守るための活動	17.9%	26.7%	16.1%	24.3%	15.8%	7.2%	18.0%
災害に関係した活動	12.3%	16.4%	17.8%	17.4%	6.3%	8.4%	6.5%
国際協力に関係した活動	3.6%	4.2%	3.3%	3.5%	3.2%	2.4%	4.3%
その他の活動	16.4%	15.2%	20.0%	16.0%	13.3%	18.1%	16.5%

※複数回答が可能な設問

## 4.2 会話頻度と健康状態の関係

### (1) 会話頻度と主観的健康感の関係

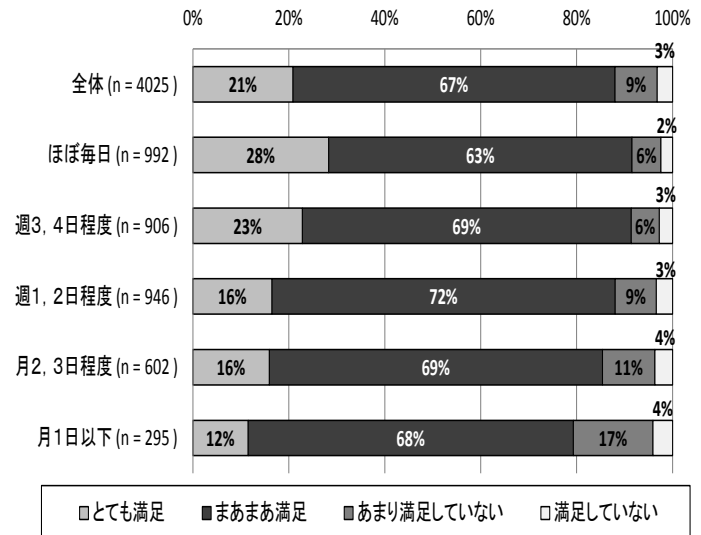
会話頻度別に主観的健康感を見ると、会話頻度が「ほぼ毎日」では「とても健康」の割合が21%と高い。反対に会話頻度が「週1,2日程度」以下では9-11%と「とても健康」の割合が低くなっており、「月1日以下」になると「あまり健康でない」「健康でない」の合計が3割を超える。



図Ⅱ-4-3 会話頻度別に見た主観的健康感

### (2) 会話頻度と生活満足度

会話頻度別に生活満足度を見ると、会話頻度が「ほぼ毎日」では「とても満足」が28%と高い。反対に会話頻度が「週1,2日程度」以下では12-16%と「とても満足」の割合が低くなっており、「月1日以下」になると「あまり満足していない」「満足していない」の合計が2割を超える。

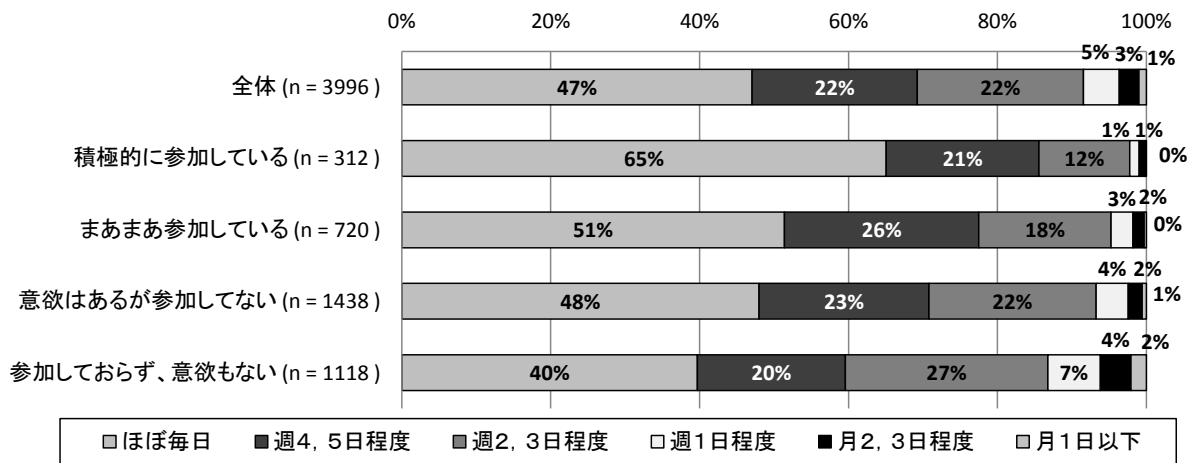


図Ⅱ-4-4 会話頻度別に見た生活満足度

### 4.3 社会との関わりと外出頻度の関係

#### (1) 地域活動参加状況と外出頻度の関係

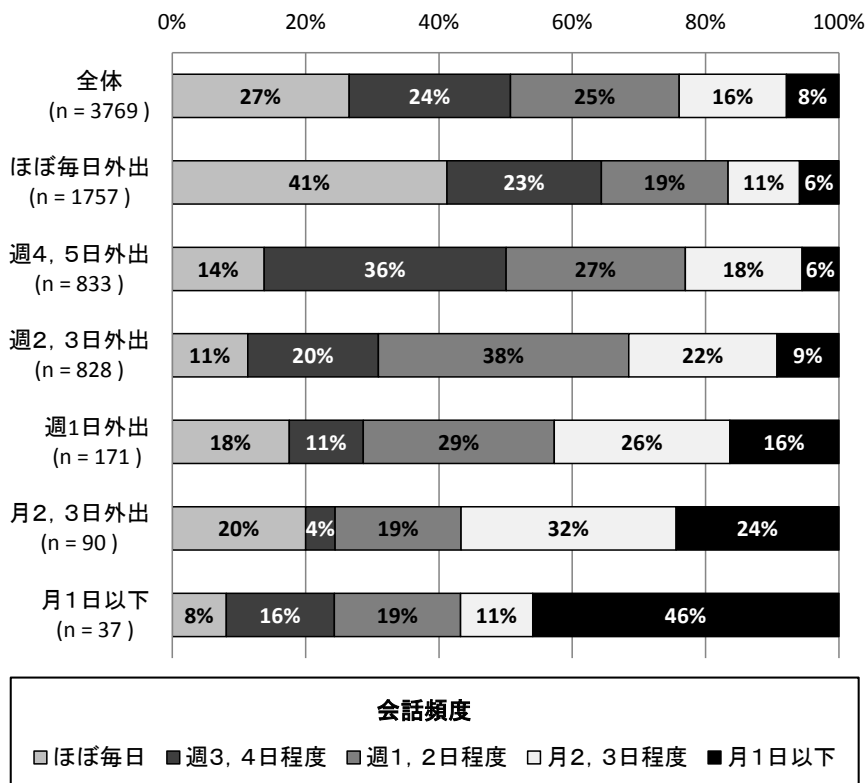
地域活動参加状況と外出行動の関係を見ると、地域活動に「積極的に参加している」回答者では、外出頻度「ほぼ毎日」が65%と非常に高くなっている。「まあまあ参加している」回答者でも51%となっているのに対して、「参加しておらず、意欲もない」回答者では40%にとどまっており、地域活動やボランティア活動に参加しているほど外出頻度が高い傾向が見られる。



図Ⅱ-4-5 地域活動参加状況別に見た外出頻度

(2) 外出頻度と会話頻度の関係

外出頻度別に会話頻度を見ると、外出頻度が「ほぼ毎日」という回答者では、会話頻度も「ほぼ毎日」の割合が41%となっている。外出頻度が「週4,5日程度」の回答者では会話頻度が「週3,4日程度」、外出頻度が「週2,3日程度」では会話頻度が「週1,2日程度」という割合が高くなっており、外出頻度と会話頻度は密接に関連していると言える。



図Ⅱ-4-6 外出頻度別に見た会話頻度

## 5. 地域生活の満足度

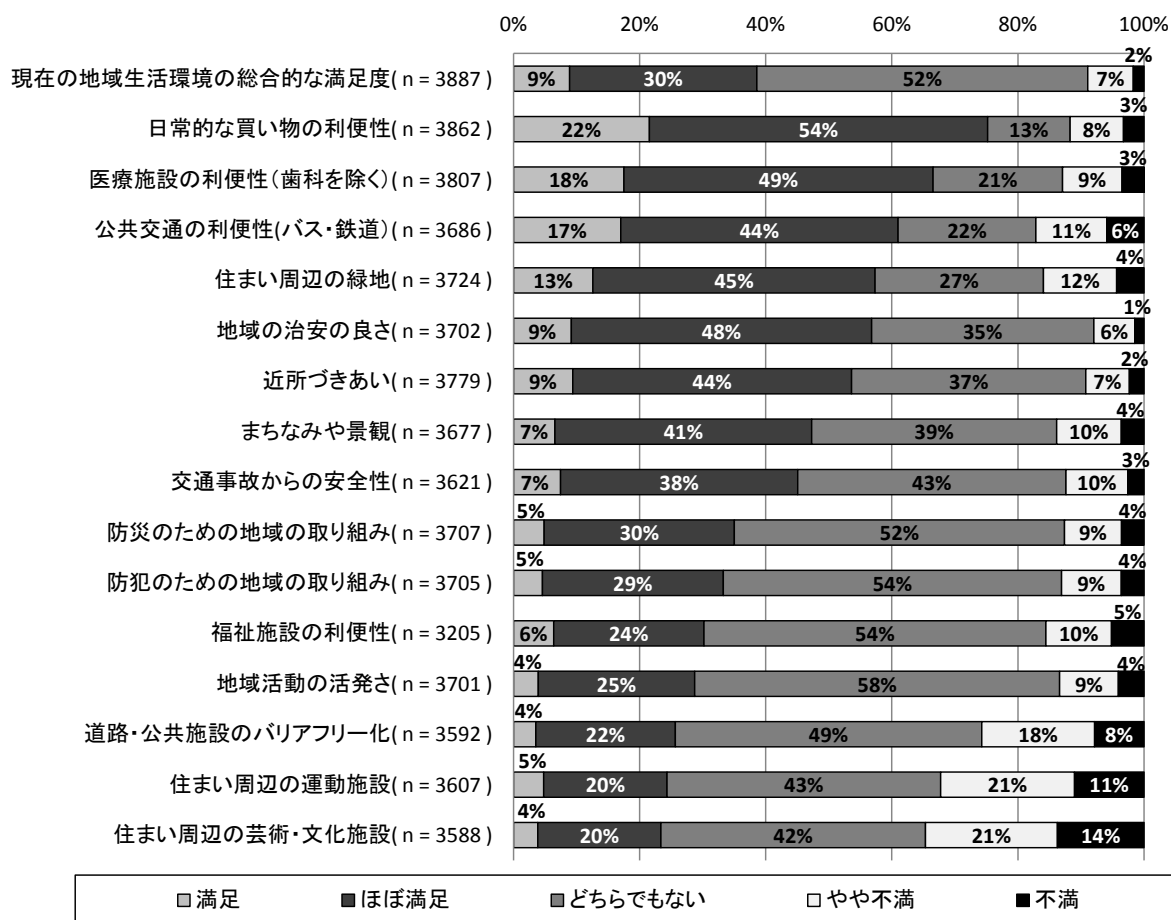
地域環境に対する満足度、地域に住み続けることに対する不安感について、性別、年代別に集計し、外出頻度や地域活動参加状況との関係について整理する。

### 5.1 地域環境に対する満足度

#### (1) 現在の地域環境の総合的な満足度（地域環境総合満足度）と項目別の満足度

地域環境総合満足度は「満足」が9%、「ほぼ満足」が30%、「どちらでもない」が52%、「やや不満」が7%、「不満」が2%となっている。

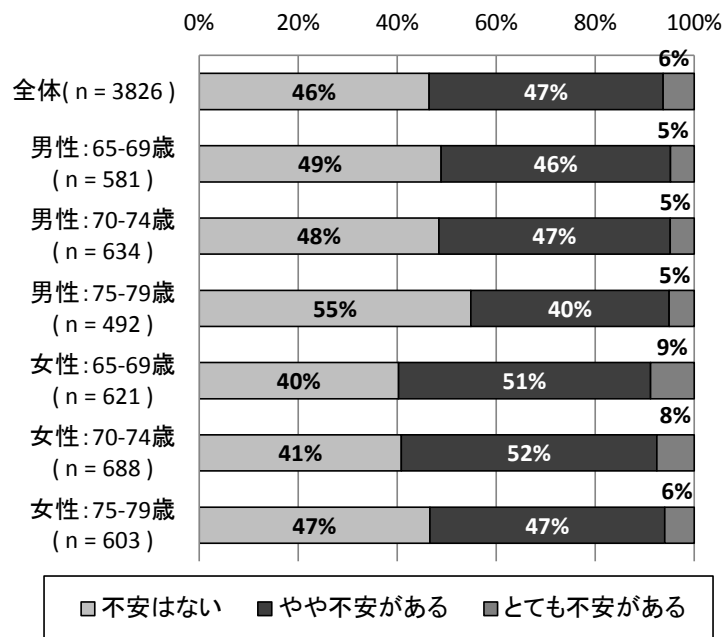
「満足」「ほぼ満足」の割合が高い項目は、日常的な買い物、医療施設、公共交通の利便性であり、日常的に利用する施設等の満足度が高い。一方で「やや不満」「不満」の割合が高いのは、住まい周辺の芸術・文化施設、住まい周辺の運動施設、道路・公共施設のバリアフリー化であり、高齢者にとって使いやすい公共施設整備が課題である。



図Ⅱ-5-1 地域環境に対する満足度

## (2) この地域で将来住み続けることについての不安

この地域で将来住み続けることへの不安について、全体では「不安がない」と回答している割合が46%を占めている。これを性別・年代別に見ると、全体的に男性に「不安はない」とする割合が高く、女性の方が「やや不安」「とても不安」の割合が高い。また、男女ともに「不安はない」割合は75-79歳が最も高くなっている。



図Ⅱ-5-2 性別・年齢別に見たこの地域で将来住み続けることについての不安

## 5.2 地域の安全に対する満足度と外出行動の関係

### (1) 交通事故からの安全性に対する満足度（交通安全満足度）と外出頻度の関係

交通安全満足度については、「どちらともいえない」が43%を占め最も多く、次いで「ほぼ満足」が38%となっている（p. 34 参照）。

交通安全満足度が「満足」という回答者では、外出頻度が「ほぼ毎日」の割合が52%と高い。一方、交通安全満足度の低下に応じて外出頻度も下がり、交通安全満足度を「不満」と評価している回答者の外出頻度は「ほぼ毎日」が42%にとどまり、「週1日以下」の割合が他と比較してかなり高い。

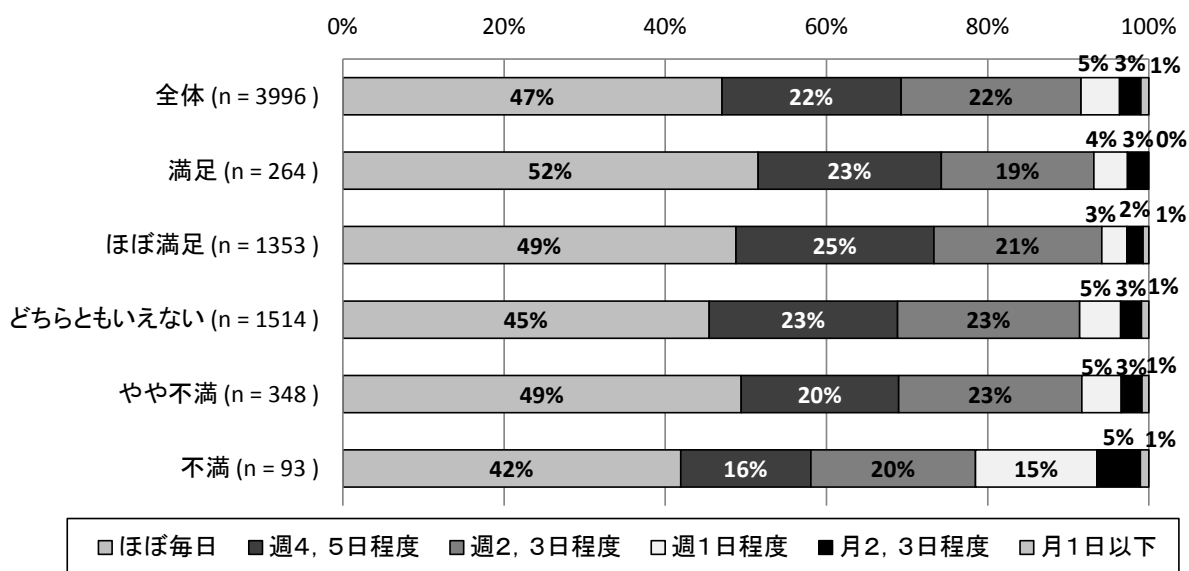


図 II-5-3 交通安全満足度別に見た外出頻度



(2) 地域の治安の良さに対する満足度（治安満足度）と外出頻度

治安満足度については、「ほぼ満足」が48%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が35%を占めている（p. 34 参照）。

治安満足度が「満足」「ほぼ満足」と評価している回答者では、外出頻度が「ほぼ毎日」及び「週4,5日」の割合が7割を超えている。一方、治安満足度の低下に応じて外出頻度も下がり、治安満足度を「やや不満」「不満」と評価している回答者では、「ほぼ毎日」外出する割合が4割程度に止まり、「週1日以下」の割合が高い。

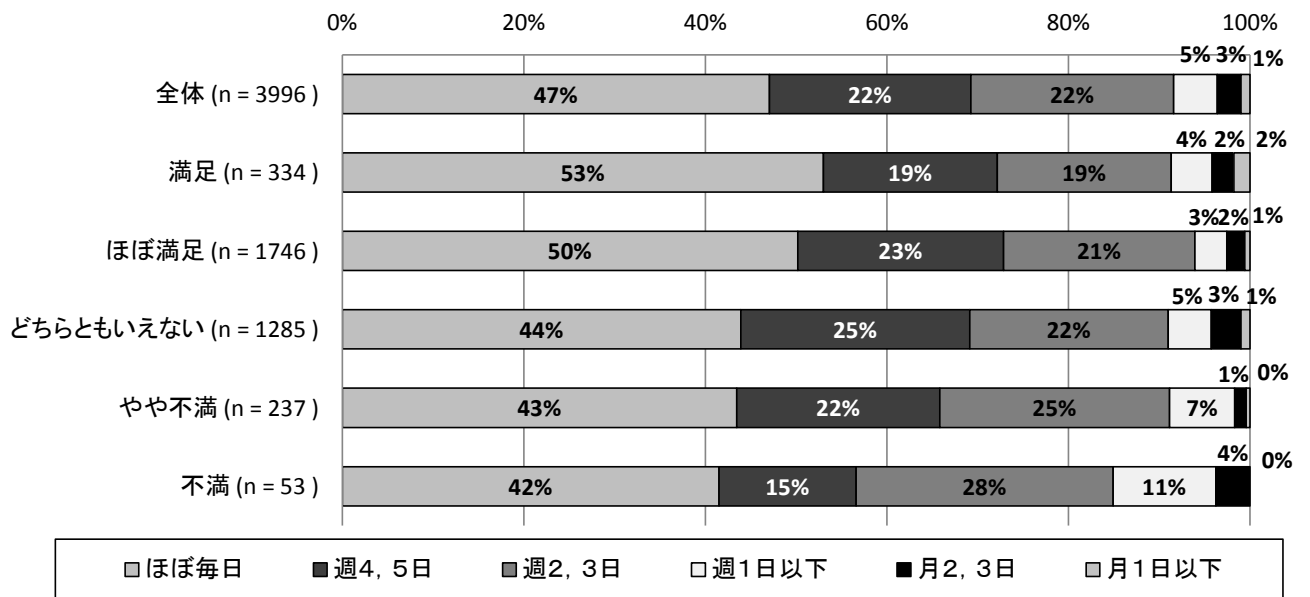


図 II-5-4 治安満足度別に見た外出頻度

### 5.3 地域活動に対する満足度と参加状況

#### (1) 防災のための地域の取り組みに対する満足度（防災活動満足度）と地域活動参加状況

地域活動の参加状況や関心の程度に応じて、防災活動満足度が変化する。

地域活動に「積極的に参加している」または「まあまあ参加している」回答者は、防災活動満足度が「満足」「ほぼ満足」の割合が46%、42%である。一方、地域活動に「意欲はあるが参加していない」では33%、「参加しておらず、意欲もない」は28%とさらに低い。

また、全体の満足度では「どちらでもない」が52%と最も多いが、地域活動に「積極的に参加している」回答者では「どちらでもない」の割合が38%と比較的低い。

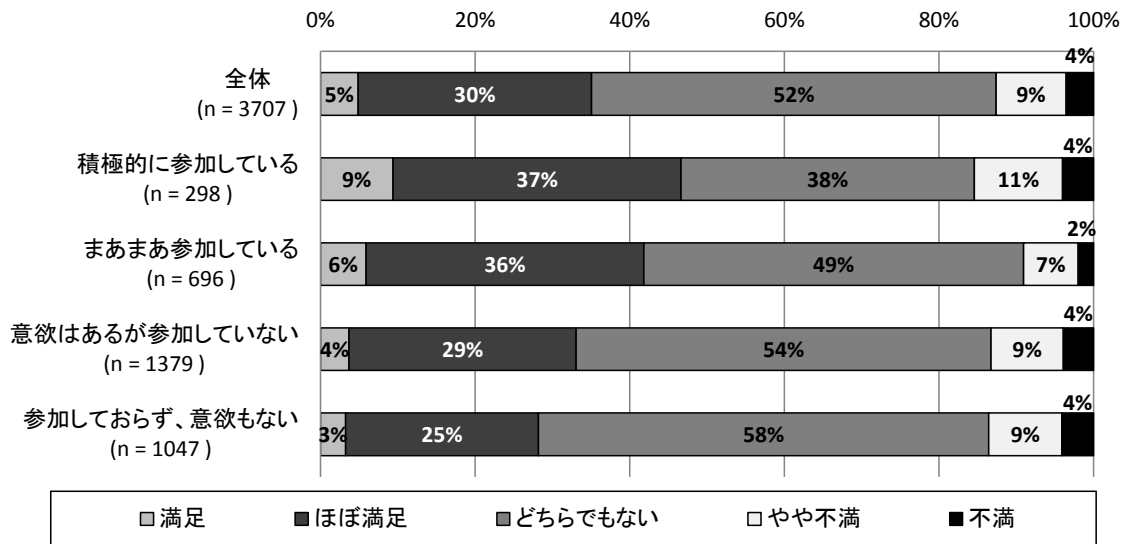


図 II-5-5 地域活動参加状況別に見た防災活動満足度

(2) 防犯のための地域の取り組みに対する（防犯活動満足度）と地域活動参加状況

地域活動の参加状況や関心の程度に応じて、防犯活動満足度が変化する。

地域活動に「積極的に参加している」または「まあまあ参加している」回答者は、防犯活動満足度が「満足」「ほぼ満足」の割合が43%、40%である。一方、地域活動に「意欲はあるが参加していない」は30%、「参加しておらず、意欲もない」では27%に止まる。

また、全体の満足度では「どちらでもない」が54%と最も多いが、地域活動に「積極的に参加している」回答者では「どちらでもない」の割合が40%と比較的低い。

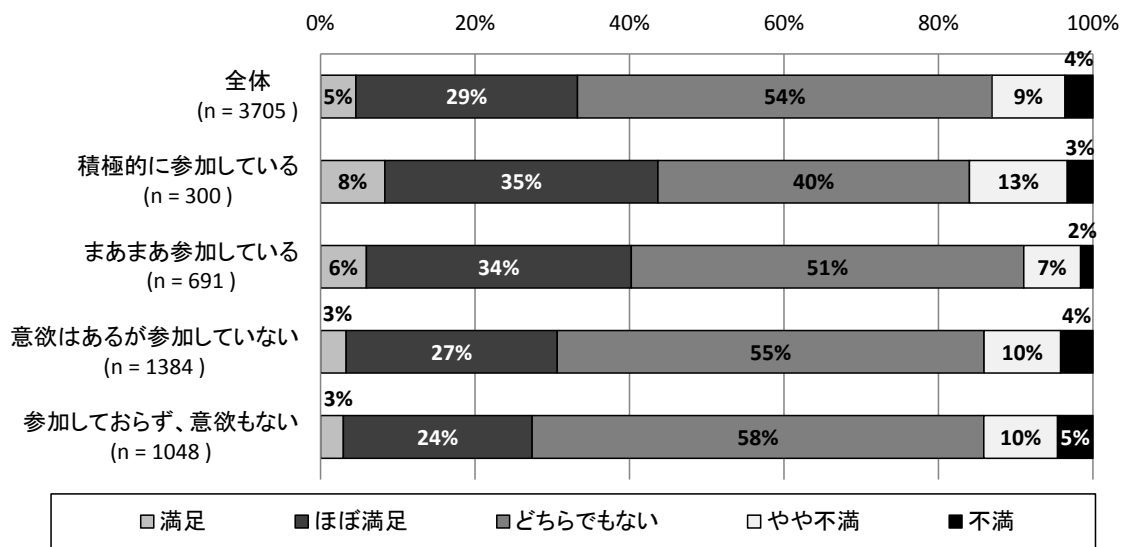


図 II-5-6 地域活動参加状況別に見た防犯活動満足度

(3) 地域活動の活発さに対する満足度（地域活動満足度）と地域活動参加状況

地域活動の参加状況や関心の程度に応じて、地域の活動満足度が変化する。

地域活動に「積極的に参加している」または「まあまあ参加している」回答者は、地域活動満足度が「満足」「ほぼ満足」の割合が46%、36%である。一方、地域活動に「意欲はあるが参加していない」は25%、「参加しておらず、意欲もない」では23%に止まる。

また、全体の満足度では「どちらでもない」が58%と最も多いが、地域活動に「積極的に参加している」回答者では「どちらでもない」の割合が39%と比較的低い。

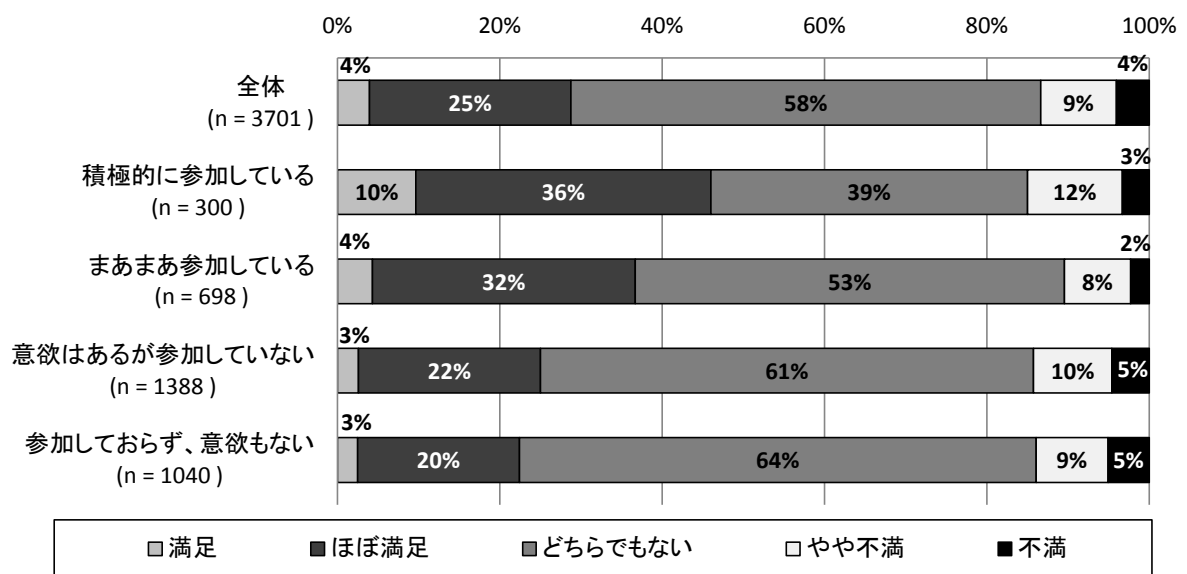


図 II-5-7 地域活動参加状況別に見た地域活動満足度

### III 回答者の生活行動

#### 1. 買い物行動

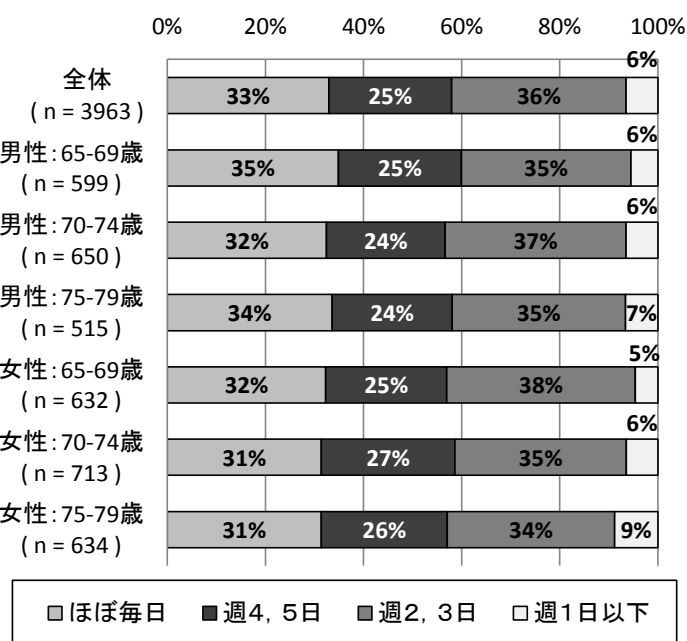
ここでは、日常的な食料品の買い物行動について、性別、年代による違いも踏まえて整理する。なお、設問では「ご家族が主に買い物をされる場合、その方にご確認のうえ回答」するよう指示している。

##### 1.1 性別・年代別の集計

###### (1) 回答者及びその家族が食料品店に買い物に行く頻度（買い物頻度）

回答者の買い物頻度について、全体の集計では、多い順に「週2,3日」が36%、「ほぼ毎日」が33%、「週4,5日」が25%であり、「週1日以下」の割合は6%と低い。

上記の傾向は、性別・年代別に見ても差はほとんどないが、女性75-79歳では「週1日以下」の割合が9%とやや多い。

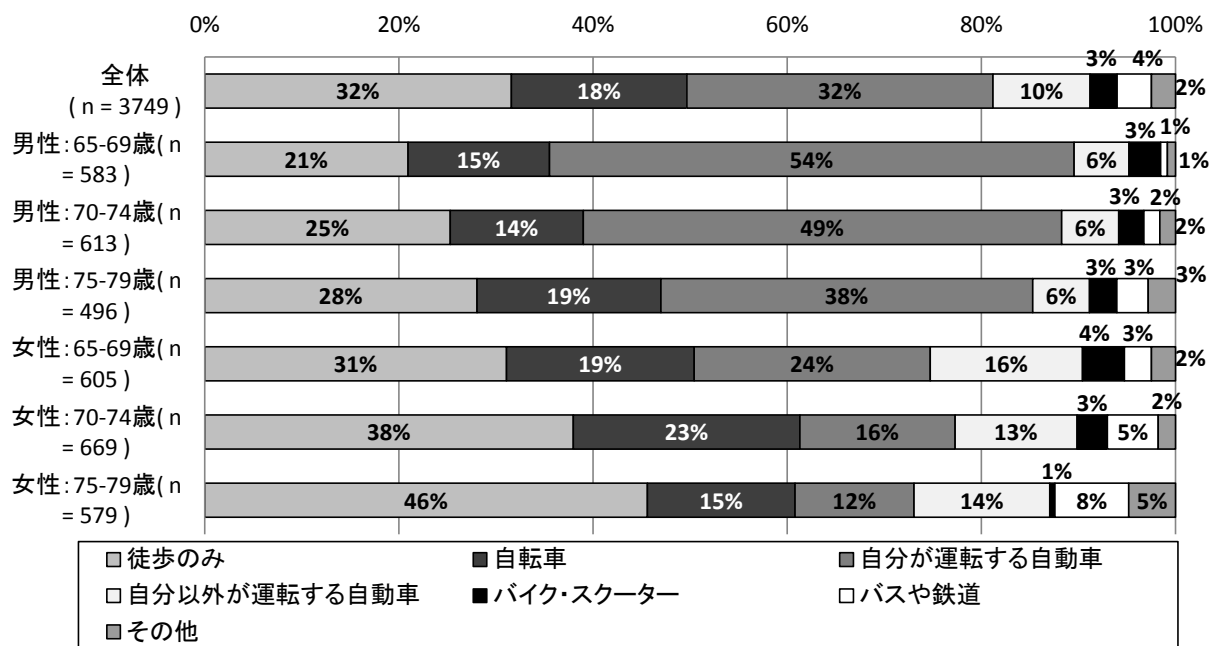


図Ⅲ-1-1 性別・年代別に見た買い物頻度

## (2) 食料品店までの交通手段

回答者が最もよく利用する食料品店までの交通手段について、全体では「徒歩のみ」32%と、「自分が運転する自動車」31%が同程度あり、「自転車」が18%、「自分以外が運転する車」10%が続く。

性別・年代別に比較すると、男性では、いずれの年代も「自分で運転する自動車」の割合が最も高いのに対して、女性はいずれの年代も「徒歩のみ」の割合が高い。また、女性は男性より「自分以外が運転する自動車の割合が高い。



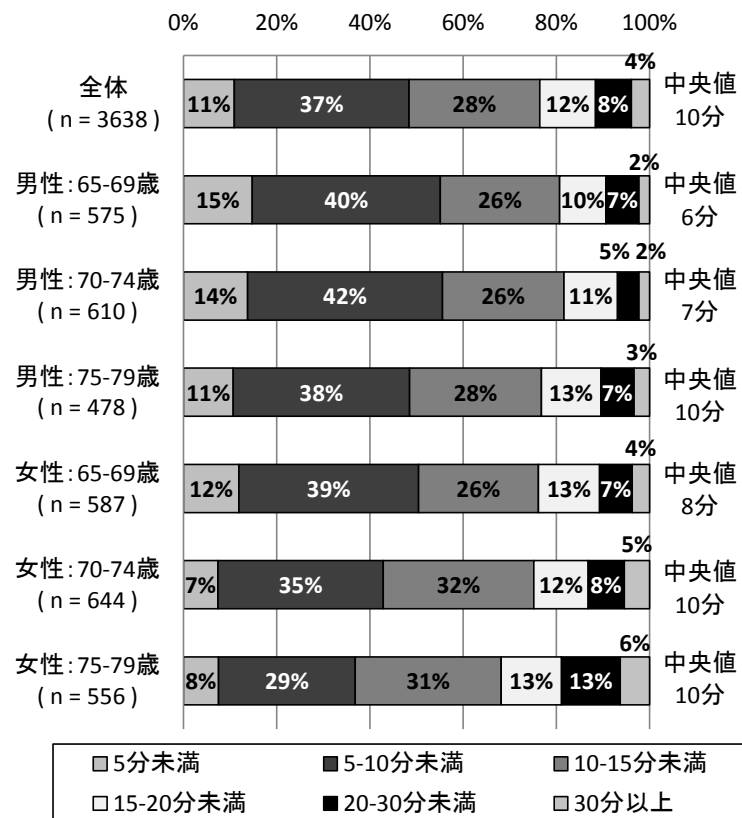
図Ⅲ-1-2 性別・年代別に見た食料品店までの交通手段

※「その他」には、「車いす、電動車いす」「タクシー」「店舗の送迎バス」を含む

### (3) 食料品店までの所要時間

回答者が最もよく利用する食料品店までの所要時間について、全体では「5-10分未満」が37%と多く、中央値も10分となっている。また、15分未満の割合が76%となっている。

性別・年代別で比較すると、男女ともに年代区分が高いほど所要時間が長い傾向が見られる。15分未満の割合に着目すると、65-69歳では男性81%、女性77%であるのに対して、75-79歳では男性77%、女性68%となっている。



図Ⅲ-1-3 性別・年代別に見た食料品店までの所要時間

#### (4) 家族以外の支援者（ヘルパーなど）の利用状況

家族以外の支援者（ヘルパーなど）に食料品店に行ってもらえるなどの買い物支援を受けている状況について確認する。

今回のアンケートでは、要介護2以下の高齢者を対象としていることから、全体では、「家族以外に行ってもらえることはない」が97.4%を占めており、ほとんどの高齢者は、自分または家族で買い物をしている。

年代が上がると支援を利用する回答者は増え、特に75-79歳の女性が比較的多くなっている。

表Ⅲ-1-1 性別・年代別に見た家族以外の支援者（ヘルパーなど）による買い物支援の利用状況

	全体 (n = 3,018)	男性			女性		
		65-69歳 (n = 498)	70-74歳 (n = 528)	75-79歳 (n = 386)	65-69歳 (n = 489)	70-74歳 (n = 529)	75-79歳 (n = 419)
家族以外に行ってもらえることはない	97.4%	98.2%	99.1%	97.7%	97.5%	97.7%	93.3%
週2回以上	0.8%	0.2%	0.6%	1.6%	0.8%	0.4%	1.9%
週1回	0.6%	0.6%	0.4%	0.3%	0.0%	0.4%	1.9%
月2, 3回	0.7%	0.4%	0.0%	0.3%	1.0%	0.8%	1.7%
月1回以下	0.6%	0.6%	0.0%	0.3%	0.6%	0.8%	1.2%



(5) 自宅で注文し、商品を届けてもらう宅配サービス、ネットスーパーなどの利用状況

宅配サービス・ネットスーパーの利用状況について、全体では「利用していない」が82.3%を占める。

宅配サービス・ネットスーパーを利用している回答者の利用頻度を見ると「週1回」の利用が最も多くなっている。性別・年代別に見ると男性よりも女性の利用者が多く、特に75-79歳女性の利用者が多い。

表Ⅲ-1-2 性別年代別に見た宅配サービス・ネットスーパーの利用状況

	全体 (n = 3,369)	男性			女性		
		65-69歳 (n = 532)	70-74歳 (n = 573)	75-79歳 (n = 421)	65-69歳 (n = 546)	70-74歳 (n = 618)	75-79歳 (n = 501)
利用していない	82.3%	84.8%	84.3%	82.2%	80.0%	82.4%	77.4%
週2回以上	1.4%	0.6%	1.9%	2.4%	1.3%	1.1%	1.6%
週1回	12.0%	9.8%	11.2%	11.2%	13.9%	12.6%	15.0%
月2, 3回	1.9%	3.0%	0.7%	2.6%	2.4%	1.5%	2.2%
月1回以下	2.3%	1.9%	1.9%	1.7%	2.4%	2.4%	3.8%

(6) 宅配サービス、ネットスーパーなどを利用しない理由

(5) で「宅配サービス・ネットスーパーを利用しない」と回答した者を対象に、利用しない理由について確認したところ、全体では「必要性を感じていない」が93.9%を占めている。

性別・年代別に見ると、男女とも75-79歳では「必要性を感じていない」割合が他の年代よりも低くなっている。特に75-79歳の女性では「必要性を感じていない」は91.1%に止まり、代わりに「利用方法がわからない」「利用料金が高い」などの選択肢の割合が若干高くなっている。

表Ⅲ-1-3 性別・年代別に見た宅配サービスやネットスーパーを利用しない理由

	全体 (n = 2,734)	男性			女性		
		65-69歳 (n = 447)	70-74歳 (n = 475)	75-79歳 (n = 340)	65-69歳 (n = 433)	70-74歳 (n = 500)	75-79歳 (n = 383)
必要性を感じていない	93.9%	96.2%	97.1%	94.4%	92.6%	93.0%	91.1%
利用方法がわからない	3.1%	1.6%	2.3%	3.8%	3.2%	3.8%	4.4%
申し込みなど利用手続きが大変	1.5%	0.4%	1.1%	1.2%	1.4%	1.8%	3.1%
利用料金が高い	3.8%	4.5%	2.5%	3.5%	3.2%	4.2%	4.7%
サービスがあることを知らない	1.9%	0.7%	2.3%	2.6%	1.8%	1.8%	2.3%
その他	4.4%	2.5%	2.7%	3.8%	5.1%	5.0%	7.0%

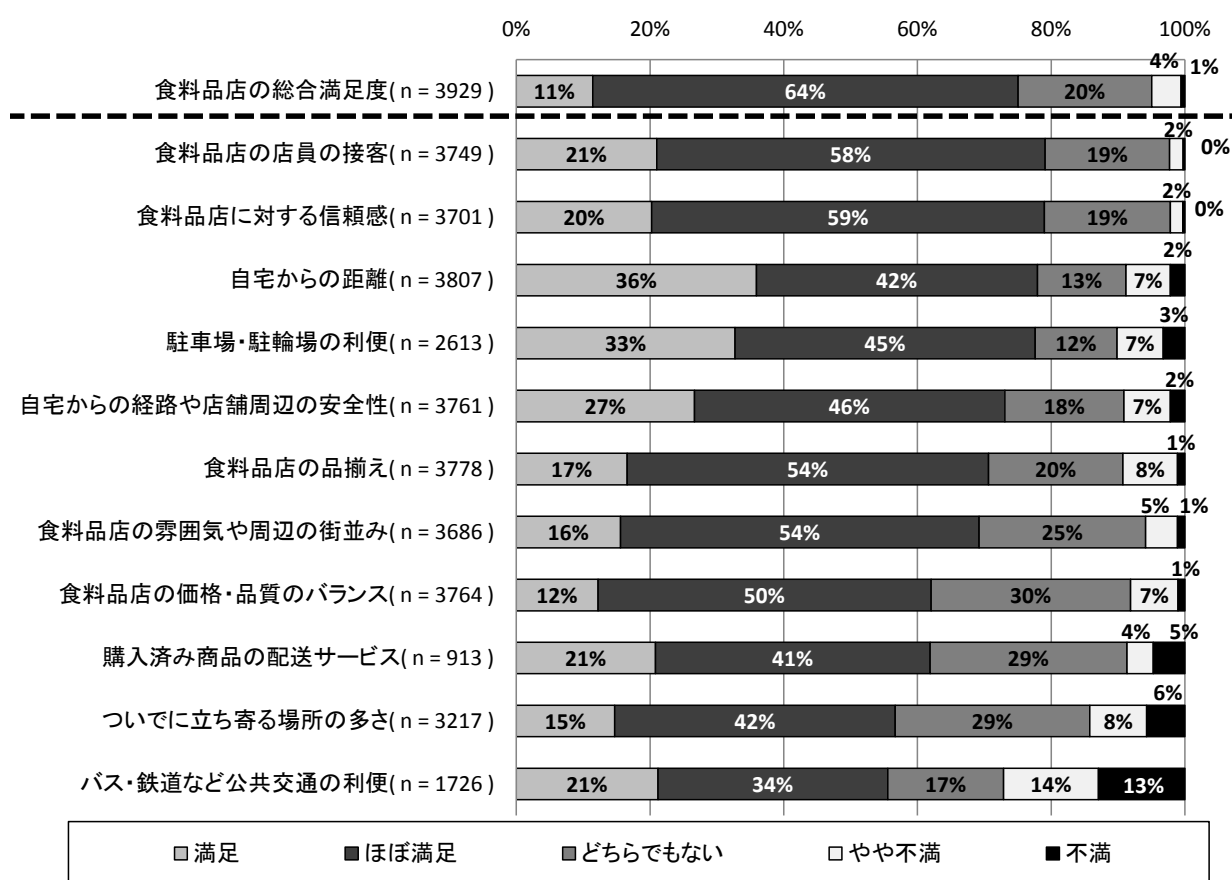
※複数回答が可能な設問

## 1.2 最もよく利用する食料品店に対する総合満足度と項目別の満足度

食料品店の総合満足度は「満足」が11%、「ほぼ満足」が64%、「どちらでもない」が20%、「やや不満」が4%、「不満」が1%で構成されている。

項目別に見ると、「満足」「ほぼ満足」の割合が高い項目としては、「食料品店の店員の接客」、「食料品店に対する信頼感」、「自宅からの距離」等がある。

一方で「やや不満」「不満」の割合が高いのは、「バス・鉄道などの公共交通の利便」「ついでに立ち寄る場所の多さ」などである。



図Ⅲ-1-4 最もよく利用する食料品店に対する項目別の満足度

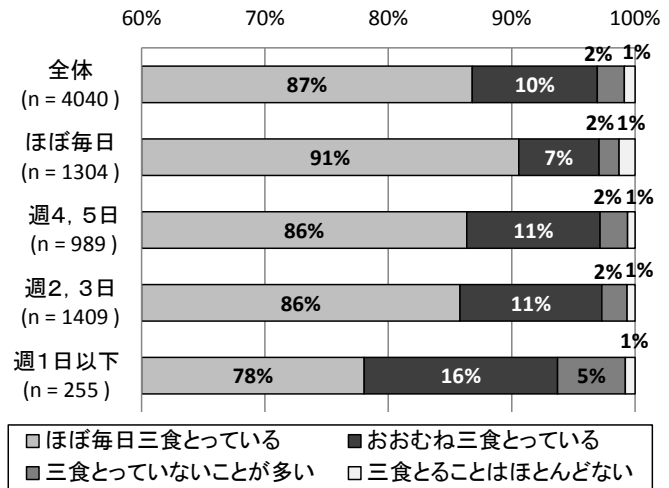
※「当てはまらない」と回答した人を除いた集計値

※総合満足度以外については、「満足」と「ほぼ満足」を合わせた割合が高い順に並び替えている。

### 1.3 買い物行動と健康状態の関係

#### (1) 買い物頻度と欠食率の関係

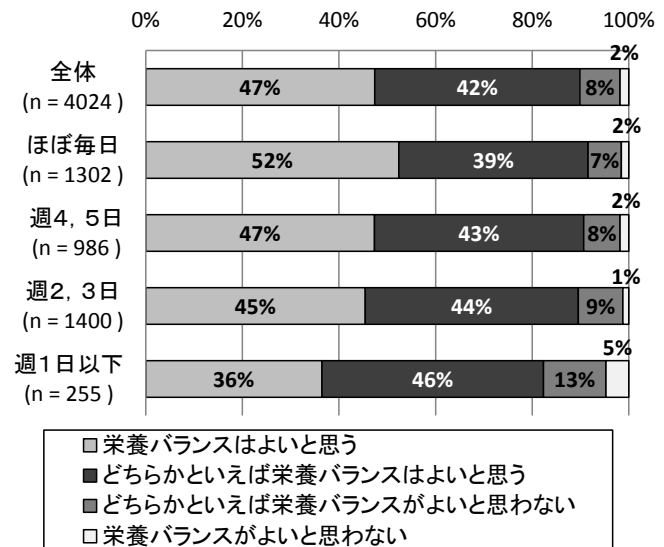
買い物頻度が「ほぼ毎日」の回答者のうち、91%が「ほぼ毎日三食とっている」と回答している。一方で、食料品店に行く頻度が「週1日以下」の回答者では「ほぼ毎日三食とっている」割合が78%と低い。



図Ⅲ-1-5 買い物頻度別に見た欠食率

#### (2) 買い物頻度と栄養バランスの関係

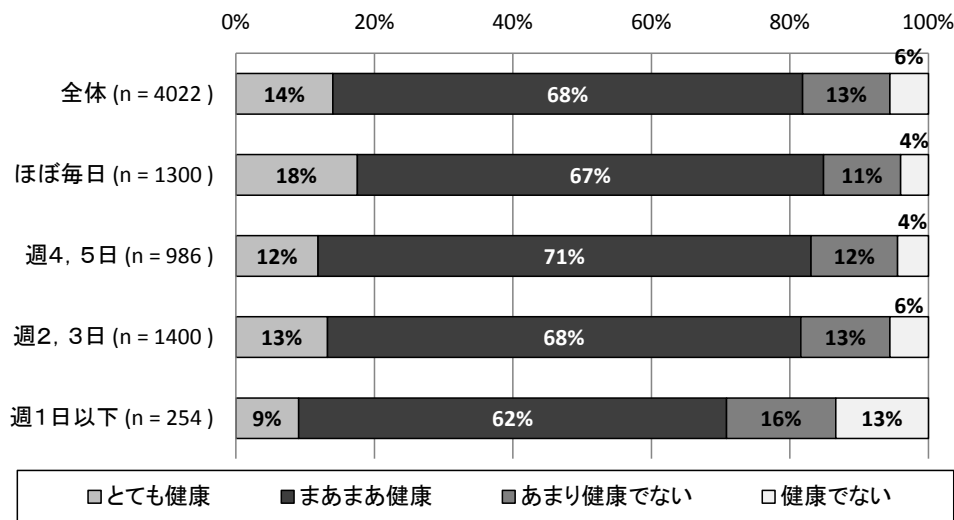
買い物頻度が「ほぼ毎日」の回答者では「栄養バランスはよいと思う」または「どちらかといえば栄養バランスはよいと思う」の割合が91%となっている。一方、買い物頻度が週1日以下の回答者では、この割合が82%となっている。



図Ⅲ-1-6 買い物頻度別に見た栄養バランス

### (3) 買い物頻度と主観的健康感の関係

主観的健康感は、全体では「とても健康」が14%、「まあまあ健康」が68%を占めている。買い物頻度が「ほぼ毎日」の回答者では「とても健康」の割合が18%とやや高く、反対に買い物頻度が「週1日以下」の回答者は、「とても健康」が9%に止まり、「健康でない」割合が13%と他より高くなっている。



図Ⅲ-1-7 買い物頻度別に見た主観的健康感

## 2. 医療機関等への受診行動

高齢者の外出機会の一つとして考えられる病院等への通院行動について、性別、年代による違いを踏まえて整理する。

### 2.1 性別・年代別の集計

#### (1) 健康的な生活を続けていく上で感じている不安

健康的な生活を続けていく上で感じている不安について、全体では「不安を感じていない」は9.7%のみであり、何らかの健康不安を感じている人が多い。

具体的な不安内容について、性別・年代別に見ると、男性の場合は「生活習慣病」が最も高くなっており、次いで「動けなくなる」「寝たきり」「認知症」となっている。一方で女性の場合は「認知症」が高くなっており、次いで高齢ほど不安の割合が高くなる「寝たきり」と、高齢ほど割合が低くなる「生活習慣病」が挙げられている。

表Ⅲ-2-1 性別・年代別に見た健康的な生活を続けていく上で不安を感じていない回答者

	全体 (n = 3,872)	男性 65-69歳 (n = 591)	男性 70-74歳 (n = 635)	男性 75-79歳 (n = 511)	女性 65-69歳 (n = 619)	女性 70-74歳 (n = 690)	女性 75-79歳 (n = 615)
不安を感じていない	9.7%	10.7%	12.8%	11.4%	7.1%	8.8%	6.8%

表Ⅲ-2-2 性別・年代別に見た健康的な生活を続けていく上で不安に感じていること

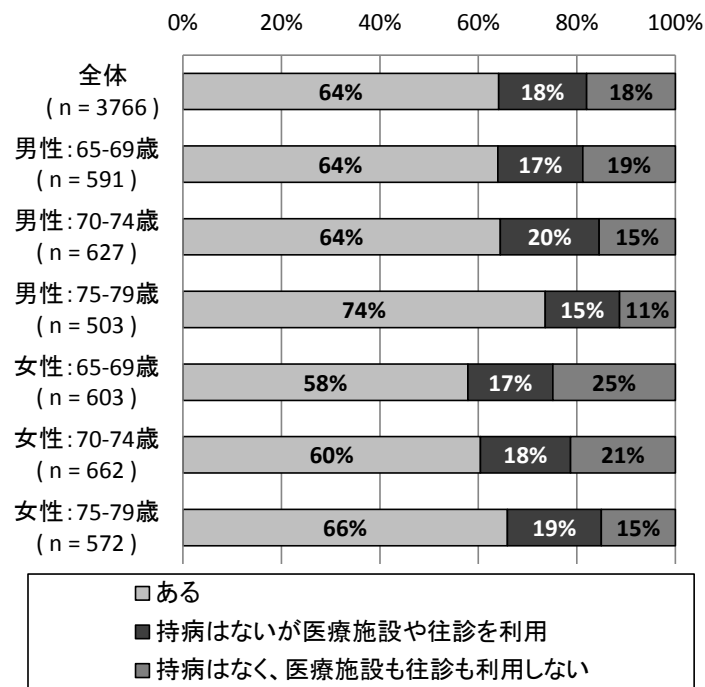
	全体 (n = 3,496)	男性 65-69歳 (n = 528)	男性 70-74歳 (n = 554)	男性 75-79歳 (n = 453)	女性 65-69歳 (n = 575)	女性 70-74歳 (n = 629)	女性 75-79歳 (n = 573)
生活習慣病	54.9%	69.1%	63.2%	61.4%	49.0%	44.4%	43.1%
生活習慣以外の病気	13.9%	18.6%	17.0%	16.8%	10.3%	10.2%	11.0%
精神的な病気	6.2%	4.0%	6.1%	4.0%	7.3%	7.9%	6.1%
認知症	43.6%	35.6%	31.6%	39.1%	51.3%	51.5%	51.0%
動けなくなる	41.4%	44.5%	43.0%	41.1%	41.7%	39.4%	41.2%
寝たきり	42.9%	36.9%	40.8%	42.6%	42.6%	46.3%	48.7%
看病してくれる人がいない	13.8%	7.2%	11.9%	10.4%	15.1%	16.5%	19.5%
病院や医師に関する不安	9.1%	8.5%	11.4%	7.7%	7.1%	11.1%	8.4%
なんとなく漠然とした不安	22.9%	19.7%	24.7%	19.9%	25.4%	24.0%	22.5%
その他	2.2%	1.7%	1.6%	3.3%	0.9%	2.4%	3.5%

※複数回答が3つまで可能な設問

## (2) 持病の有無

持病の有無について、全体では64%が「持病がある」とし、18%が「持病はないが医療施設や往診を利用」していることから、回答者の約8割が何らかの形で定期的に医療機関との関わりを持っている状況がうかがえる。

性別・年代別に見ると男女とも75-79歳で「持病がある」割合が増加し、「持病はないが医療施設や往診を利用」と合わせると回答者の9割近く医療機関を利用していると考えられる。



図Ⅲ-2-1 性別・年代別に見た持病の有無

### (3) 医療施設の利用状況

(2) で「持病がある」「持病はないが医療施設や往診してもらうことはある」と回答した人の医療施設に行く頻度を確認したところ、全体では「月1回」が最も多い。

性別・年代別に見ても同様に、75-79歳でも男女とも最も多いのは「月1回」だが、年代が上がるにつれて「月2,3回」「週1回以上」の割合も増えている。

表Ⅲ-2-3 性別・年代別に見た医療施設利用状況

	全体 (n = 2,986)	男性			女性		
		65-69歳 (n = 466)	70-74歳 (n = 513)	75-79歳 (n = 434)	65-69歳 (n = 441)	70-74歳 (n = 505)	75-79歳 (n = 462)
行かない	1.4%	1.3%	1.9%	1.2%	2.0%	1.2%	0.9%
週1回以上	5.9%	2.6%	6.2%	7.4%	4.1%	4.4%	9.1%
月2, 3回	17.5%	13.5%	17.3%	20.7%	14.3%	15.6%	22.5%
月1回	51.9%	50.2%	50.9%	50.9%	52.6%	55.4%	52.2%
年数回	23.3%	32.4%	23.6%	19.8%	27.0%	23.4%	15.4%

### (4) 往診の利用状況

(2) で「持病がある」「持病はないが医療施設や往診してもらうことはある」と回答した人が医療機関に往診してもらう頻度を見ると、全体では92.6%が往診を利用していない。

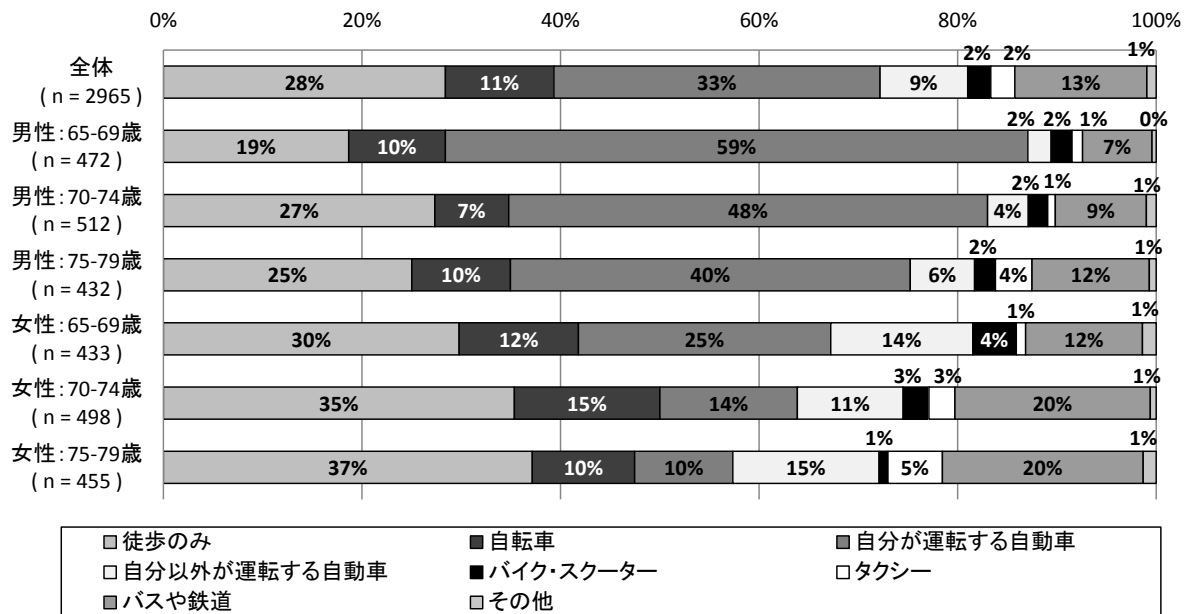
表Ⅲ-2-4 性別・年代別に見た往診の利用状況

	全体 (n = 1,744)	男性			女性		
		65-69歳 (n = 297)	70-74歳 (n = 338)	75-79歳 (n = 236)	65-69歳 (n = 263)	70-74歳 (n = 291)	75-79歳 (n = 231)
利用しない	92.6%	90.6%	90.2%	93.2%	94.7%	96.2%	91.8%
週1回以上	0.5%	0.3%	0.6%	0.0%	1.1%	0.0%	0.9%
月2, 3回	1.4%	1.7%	3.0%	0.8%	0.8%	0.3%	1.7%
月1回	3.4%	4.0%	4.4%	3.0%	2.7%	2.7%	3.5%
年数回	2.1%	3.4%	1.8%	3.0%	0.8%	0.7%	2.2%

(5) 医療施設までの交通手段

最もよく利用する医療施設への交通手段について確認したところ、全体では「自分が運転する自動車」33%と「徒歩のみ」28%がともに多い。

性別・年代別に見ると男性では「自分で運転する自家用車」の割合が高く、女性では「徒歩のみ」の割合が高い。ただし、男性の「自分で運転する自家用車」も、年代が上がるにつれてその割合が減り、「自転車」や「バスや鉄道」の割合が増えている。



図Ⅲ-2-2 性別・年代別に見た医療施設までの交通手段

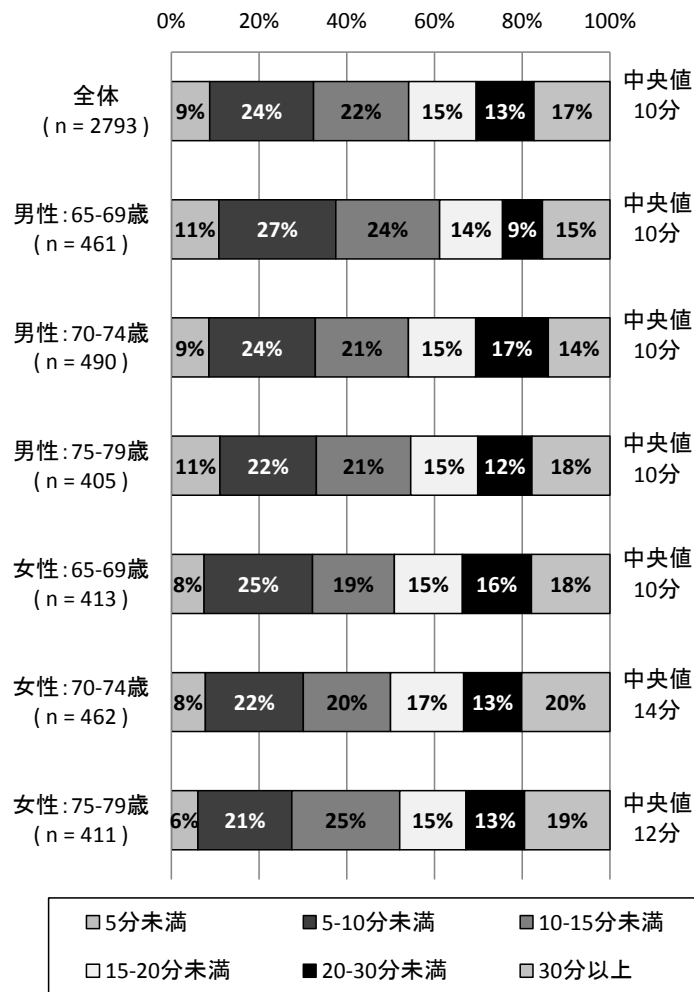
※「その他」には、「車いす、電動車いす」「施設の送迎バス」を含む



(6) 医療施設までの所要時間

最もよく利用する医療施設までの所要時間について、全体では「5-10分未満」が24%と多く、中央値も10分となっている。

性別・年代別で比較しても大きな差は見られないが、男女とも年齢が上がるにつれ10分未満の割合が下がる傾向にある。

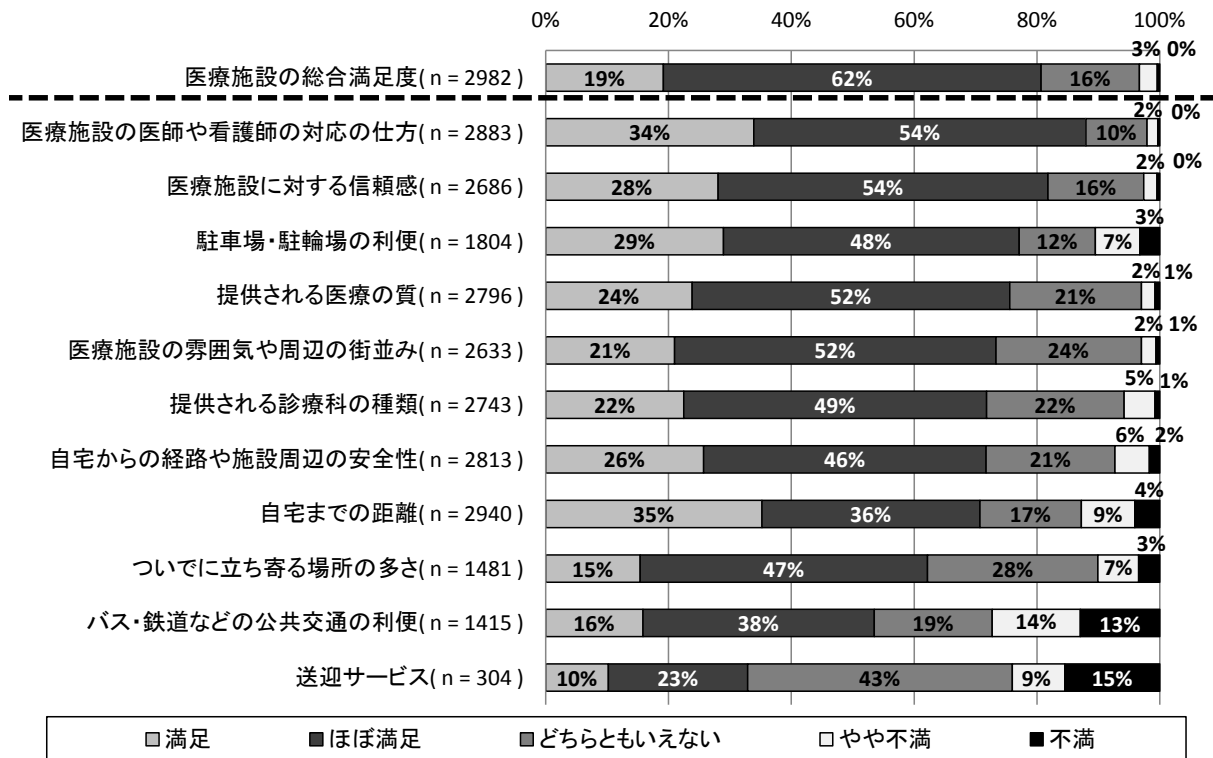


図Ⅲ-2-3 性別・年代別に見た医療施設までの所要時間

## 2.2 最もよく利用する医療施設に対する総合満足度と項目別の満足度

最もよく利用する医療施設に対する満足度について、11の項目と総合満足度を5段階で評価してもらったところ、総合満足度では「満足」「ほぼ満足」を合わせて約8割に達した。

各項目別の「満足」「ほぼ満足」を合わせた満足感が高かったのは「医療施設の医師や看護師の対応の仕方」、「医療施設に対する信頼感」などであり、「送迎サービス」や「公共交通」などの評価は低い。



図Ⅲ-2-4 最もよく利用する医療施設に対する項目別の満足度

※「当てはまらない」と回答した人を除いた集計値

※総合満足度以外については、「満足」と「ほぼ満足」を合わせた割合が高い順に並び替えている。

### 3. 福祉サービス等の利用行動

福祉サービス施設等への通所行動について、性別、年代による違いを踏まえて整理する。

#### 3.1 性別・年代別の集計

##### (1) 在宅型福祉・生活支援サービスの利用内容

今回の調査対象者の多くが健康的な高齢者であったことから、福祉サービスを利用していない回答者が全体では97%を占める。

福祉・生活支援サービスを利用している回答者の内訳を見ると、「ホームヘルプサービス(家事援助)」を受けている割合が最も高い。

表Ⅲ-3-1 性別・年代別に見た在宅型福祉・生活支援サービスを利用しない回答者

	全体 (n = 3,824)	男性			女性		
		65-69歳 (n = 583)	70-74歳 (n = 635)	75-79歳 (n = 507)	65-69歳 (n = 619)	70-74歳 (n = 685)	75-79歳 (n = 590)
サービスは利用していない	96.8%	97.9%	98.1%	96.8%	98.4%	96.9%	93.1%

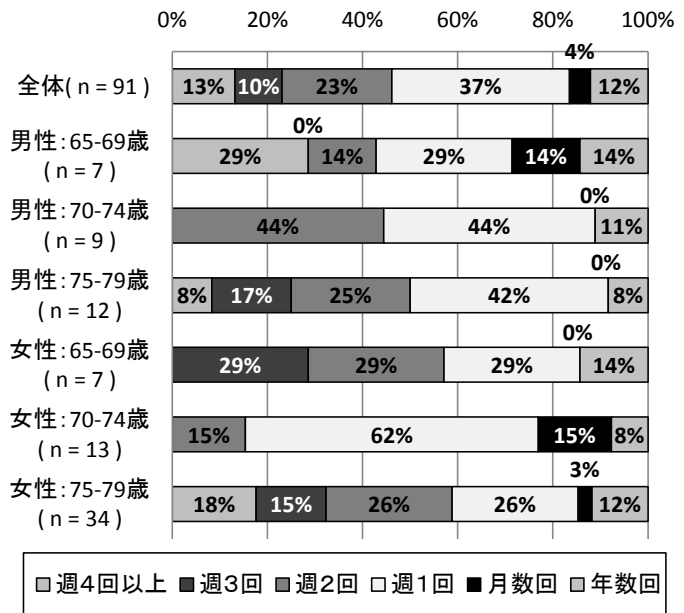
表Ⅲ-3-2 性別・年代別に見た在宅型福祉・生活支援サービスの利用内容

	全体 (n = 123)	男性			女性		
		65-69歳 (n = 12)	70-74歳 (n = 12)	75-79歳 (n = 16)	65-69歳 (n = 10)	70-74歳 (n = 21)	75-79歳 (n = 41)
ホームヘルプサービス(身体介護)	8.9%	0.0%	0.0%	6.3%	10.0%	4.8%	12.2%
ホームヘルプサービス(家事援助)	39.8%	16.7%	16.7%	43.8%	30.0%	33.3%	61.0%
訪問入浴介護	8.1%	0.0%	8.3%	12.5%	10.0%	4.8%	7.3%
訪問介護	8.1%	8.3%	0.0%	6.3%	0.0%	19.0%	9.8%
訪問リハビリテーション	12.2%	33.3%	16.7%	18.8%	10.0%	4.8%	4.9%
居宅療養管理指導	3.3%	0.0%	0.0%	6.3%	10.0%	4.8%	2.4%
配食サービス	17.1%	25.0%	8.3%	25.0%	10.0%	14.3%	14.6%
福祉輸送	14.6%	16.7%	8.3%	0.0%	20.0%	19.0%	14.6%
その他	25.2%	25.0%	58.3%	6.3%	20.0%	47.6%	17.1%

※「上記のサービスはどれも利用していない」と回答した人を除いた集計値  
 ※複数回答が可能な設問

(2) 在宅型福祉・生活支援サービスの利用の頻度

在宅型の福祉サービスの利用頻度について、全体では「週1回」の利用者がやや多い。



図Ⅲ-3-1 性別・年代別に見た在宅型福祉・生活支援サービスの利用頻度

(3) 在宅型福祉・生活支援サービスを利用しない理由

在宅型福祉サービスを利用しない理由を確認したところ、全体の95%が「必要性を感じない」としている。性別・年代別に見ると年代が上がるにつれて「必要性を感じない」の割合は減るものの、「利用方法がわからない」とする回答が年代の高い層で見られる。

表Ⅲ-3-3 性別・年代別に見た在宅型福祉・生活支援サービスを利用しない理由

	全体 (n = 3,514)	男性			女性		
		65-69歳 (n = 545)	70-74歳 (n = 597)	75-79歳 (n = 460)	65-69歳 (n = 585)	70-74歳 (n = 623)	75-79歳 (n = 523)
必要性を感じない	94.7%	96.9%	95.8%	93.5%	96.2%	95.7%	90.2%
利用方法がわからない	3.6%	2.2%	3.4%	5.0%	2.1%	2.9%	6.1%
申し込みなど利用手続きが大変	1.7%	0.9%	1.0%	2.4%	1.5%	1.1%	2.7%
利用料金が高い	1.1%	0.9%	1.2%	1.3%	0.9%	0.8%	1.7%
サービスがあることを知らない	2.3%	1.3%	2.8%	2.4%	2.4%	1.9%	2.9%
その他	3.8%	2.4%	3.4%	4.3%	2.7%	3.4%	7.6%

※複数回答が可能な設問

#### (4) 自宅外での福祉・生活支援サービスの利用内容

自宅外での福祉・生活支援サービスの利用内容を見ると「利用していない」が約94%を占めており、福祉施設になじみがないことがうかがえる。

ただし、女性の中でも75-79歳の年代に限ると、「健康相談・体操」や「ふれあいサロン」、「デイサービス」の利用が若干みられる。

表Ⅲ-3-4 性別・年代別に見た自宅外の福祉・生活支援サービスを利用していない回答者

	全体 (n = 3,827)	男性			女性		
		65-69歳 (n = 581)	70-74歳 (n = 632)	75-79歳 (n = 503)	65-69歳 (n = 616)	70-74歳 (n = 682)	75-79歳 (n = 599)
利用していない	94.2%	97.6%	96.0%	94.2%	95.9%	93.7%	87.6%

表Ⅲ-3-5 性別・年代別に見た自宅外での福祉・生活支援サービスの利用内容

	全体 (n = 221)	男性			女性		
		65-69歳 (n = 14)	70-74歳 (n = 25)	75-79歳 (n = 29)	65-69歳 (n = 25)	70-74歳 (n = 43)	75-79歳 (n = 74)
デイサービス(通所介護)	26.2%	35.7%	32.0%	34.5%	12.0%	11.6%	31.1%
デイケア(通所リハビリテーション)	14.9%	14.3%	12.0%	24.1%	8.0%	16.3%	14.9%
ショートステイ(一時宿泊)	2.7%	7.1%	4.0%	6.9%	4.0%	0.0%	1.4%
公民館等で行われているふれあいサロン	29.0%	0.0%	20.0%	27.6%	36.0%	32.6%	35.1%
配食サービス	6.3%	0.0%	12.0%	3.4%	4.0%	4.7%	8.1%
健康相談・健康体操	32.1%	42.9%	20.0%	17.2%	40.0%	46.5%	29.7%
その他	9.5%	14.3%	12.0%	6.9%	12.0%	11.6%	5.4%

※「上記のサービスはどれも利用していない」と回答した人を除いた集計値  
 ※複数回答が可能な設問

(5) 自宅外での福祉・生活支援サービスを利用しない理由

(4) で「自宅外での福祉・生活支援サービスを利用しない」回答者に理由を確認したところ、全体では約95%が「必要性を感じない」としている。性別・年代別に見ると年代が上がるにつれて「必要性を感じない」の割合は減るものの、「利用方法がわからない」とする意見が年代の高い層でみられる。

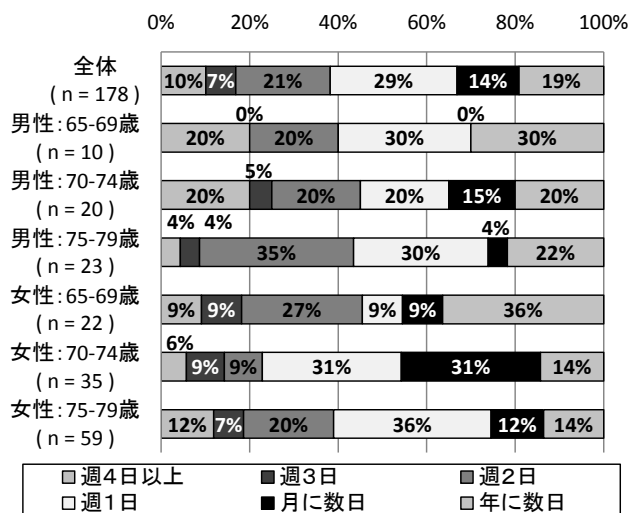
表Ⅲ-3-6 性別・年代別に見た自宅外での福祉・生活支援サービスを利用しない理由

	全体 (n = 3,459)	男性			女性		
		65-69歳 (n = 551)	70-74歳 (n = 591)	75-79歳 (n = 455)	65-69歳 (n = 575)	70-74歳 (n = 611)	75-79歳 (n = 487)
必要性を感じない	94.5%	96.6%	95.6%	92.7%	96.7%	94.9%	91.2%
利用方法がわからない	4.5%	3.4%	4.4%	6.8%	3.0%	2.8%	6.6%
申し込みなど利用手続きが大変	1.8%	0.5%	1.5%	2.9%	1.6%	1.5%	3.3%
利用料金が低い	1.3%	0.7%	1.4%	1.3%	0.9%	1.8%	1.8%
サービスがあることを知らない	3.1%	2.2%	2.9%	3.7%	3.5%	2.3%	3.9%
自力での外出が困難に感じる	0.6%	0.2%	0.2%	1.3%	0.2%	0.5%	1.2%
その他	3.0%	1.8%	2.9%	2.6%	1.2%	3.6%	5.7%

※複数回答が可能な設問

(6) 自宅外での福祉・生活支援サービスの利用の頻度

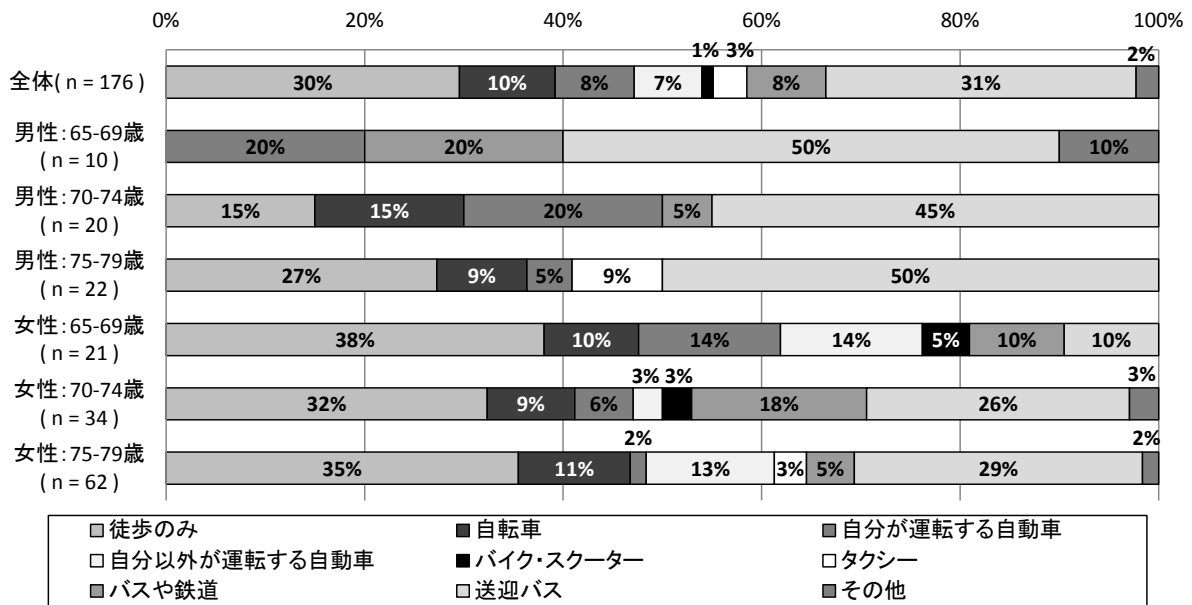
(4) で自宅外での福祉・生活支援サービスを利用している回答者を対象に、その利用頻度を見ると、「週1回」の利用者がやや多い。



図Ⅲ-3-2 性別・年代別に見た自宅外での福祉・生活支援サービスの利用頻度

(7) 自宅外での福祉・生活支援サービス施設までの交通手段

(4) で自宅外での福祉・生活支援サービスを利用している回答者を対象に、利用している施設までの交通手段を確認したところ、全体では「徒歩のみ」と「送迎バス」の割合が3割程度となっている。性別、年代別に見ると、女性では「徒歩のみ」の割合が高く、男性は「送迎バス」の割合が高い。

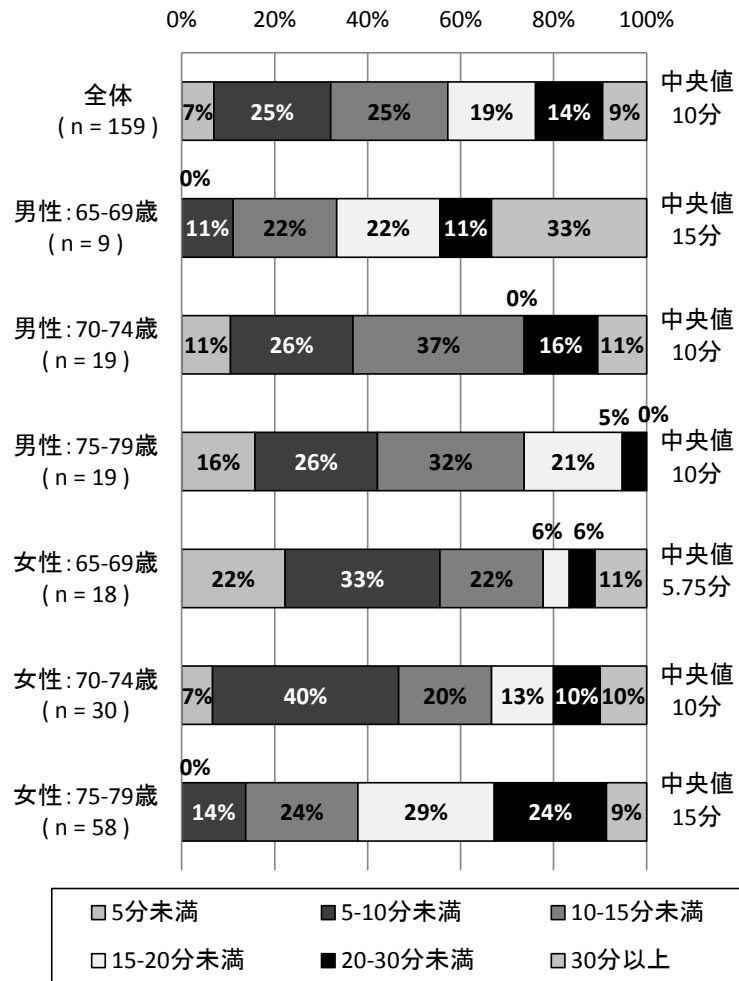


図Ⅲ-3-3 性別・年代別に見た自宅外での福祉・生活支援サービス施設までの交通手段

※「その他」には、「車いす、電動車いす」を含む

(8) 福祉・生活支援サービス施設までの所要時間

最もよく利用する福祉・生活支援サービス施設までの所要時間について、全体では「5分未満」が7%、「5-10分未満」が25%、「10-15分未満」が25%、「15-20分未満」が19%、「20-30分未満」が14%、「30分以上」が9%となっている。なお、中央値は10分となっている。



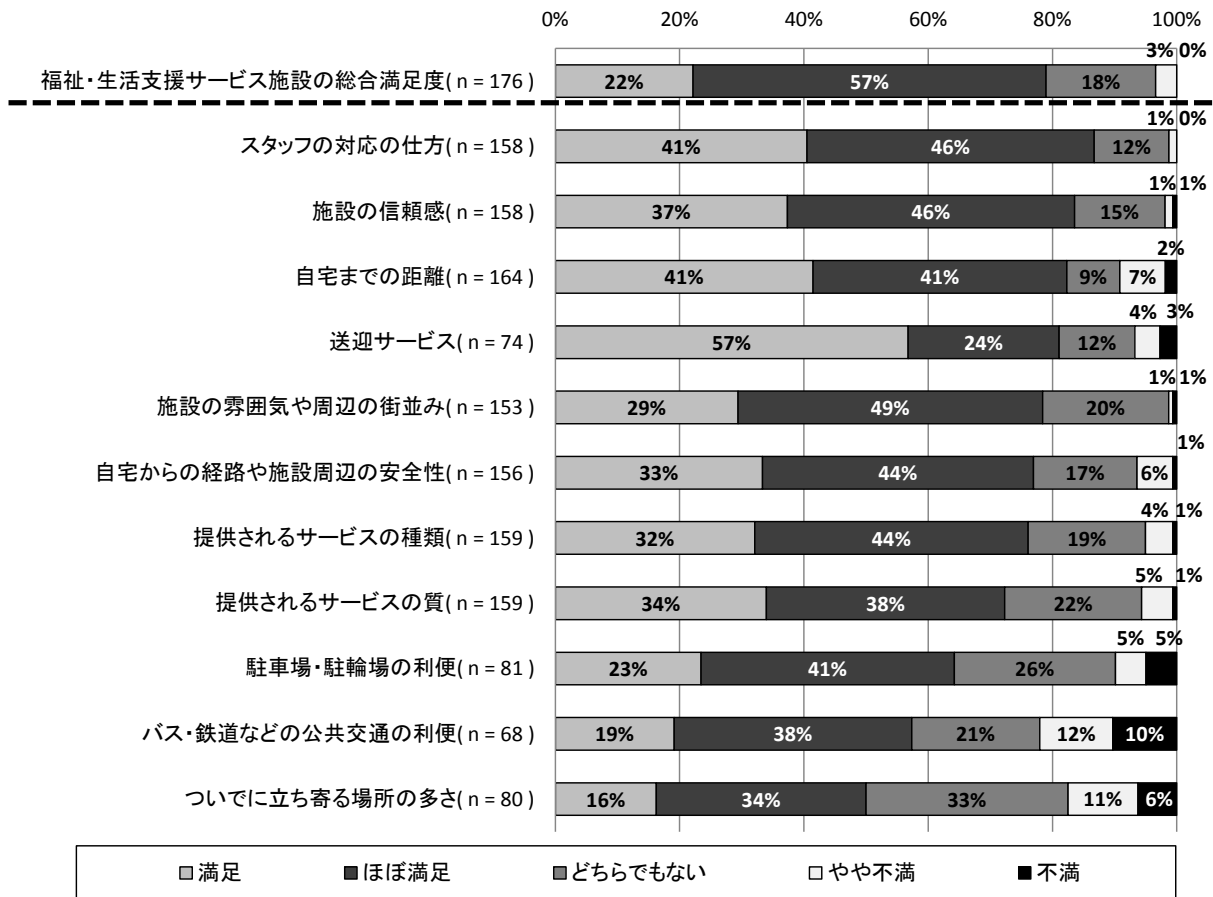
図Ⅲ-3-4 性別・年代別に見た福祉・生活支援サービス施設までの所要時間



### 3.2 最もよく利用する福祉・生活支援サービス施設に対する総合満足度と項目別の満足度

最もよく利用する福祉・生活支援サービス施設の満足度について、次に示す11の項目と総合満足度を5段階で評価してもらったところ、総合満足度では「満足」「ほぼ満足」を合わせて約8割だった。

項目別の「満足」「ほぼ満足」を合わせた満足感が高かったのは「スタッフの対応の仕方」や「施設の信頼感」などであり、「公共交通」や「ついでに立ち寄る場所」などは比較的评价が低い。



図Ⅲ-3-5 最もよく利用する福祉・生活支援サービス施設に対する項目別の満足度

※「当てはまらない」と回答した人を除いた集計値

※総合満足度以外については、「満足」と「ほぼ満足」を合わせた割合が高い順に並び替えている。

## 4. 平日昼間の過ごし方

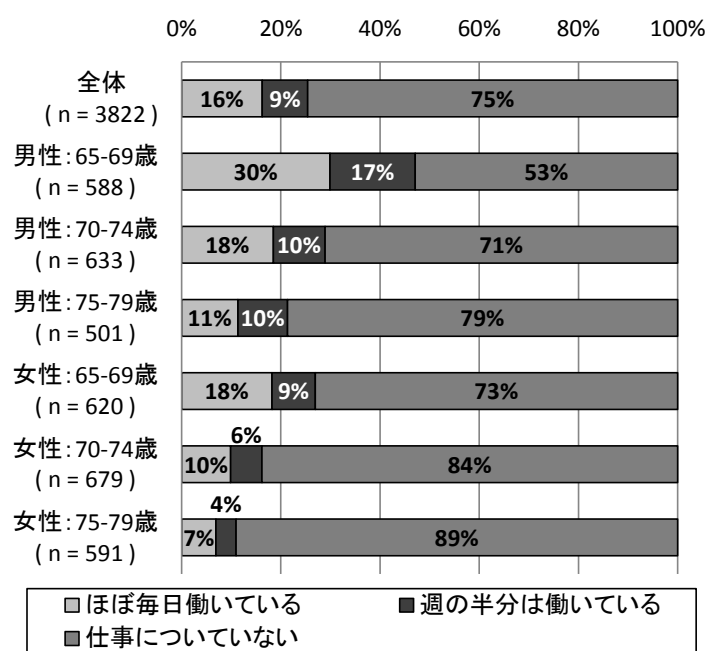
ここでは、平日昼間の外出目的について、性別、年代による違いも踏まえて整理する。

### 4.1 性別・年代別の集計

#### (1) 現在の平日昼間の就業状況

就業状況について、全体では「ほぼ毎日」「週の半分は働いている」を合わると25%となっている。これを性別・年代別に見ると、65-69歳の男性は約半数が働いているが、年代が上がるにつれて減り、75-79歳では21%のみとなる。

一方、女性では65-69歳では27%が働いており、75-79歳になると11%となる。

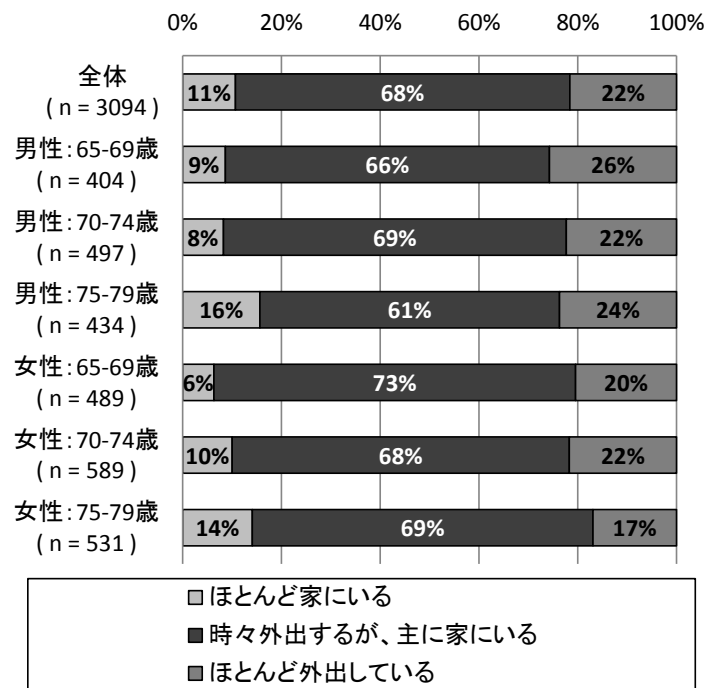


図Ⅲ-4-1 性別・年代別に見た就業状況

## (2) 就業していない回答者の平日昼間の過ごし方

(1) で就業していないと回答した人の平日昼間の過ごし方について、全体では「時々外出するが主に家にいる」が最も多く 68%を占めている。次いで、「ほとんど外出している」が 22%、「ほとんど家にいる」は 11%のみである。

性別・年代別に見ると、男女とも 65-74 歳ではあまり変化がないが、75-79 歳になると「ほとんど家にいる」割合が増える。この時、男性では 75-79 歳となっても「ほとんど外出している」人の割合は変わらないが、女性ではその割合が減っている。

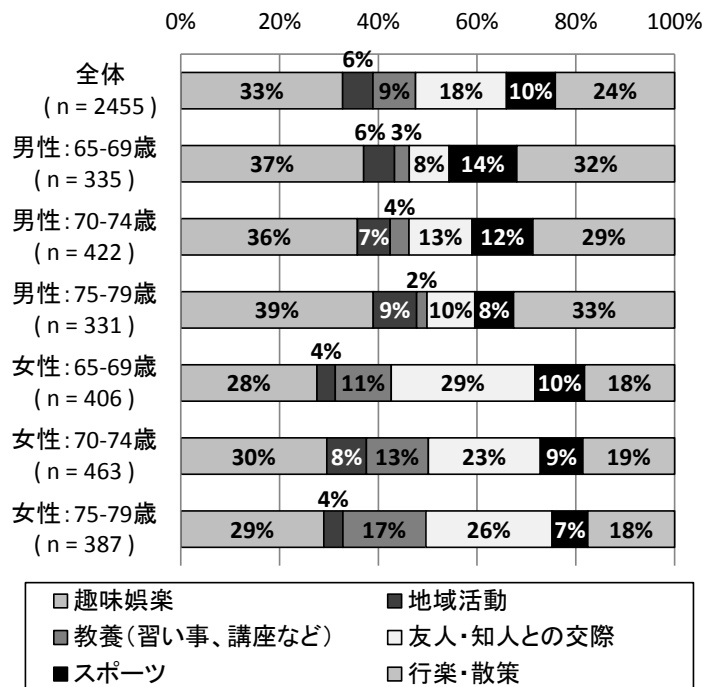


図Ⅲ-4-2 性別・年代別に見た平日昼間の過ごし方

### (3) 平日昼間の主な外出目的

ここから p. 67 までの外出は、買い物・受診・福祉サービス利用及び仕事を目的とした外出を除くものとして質問している。

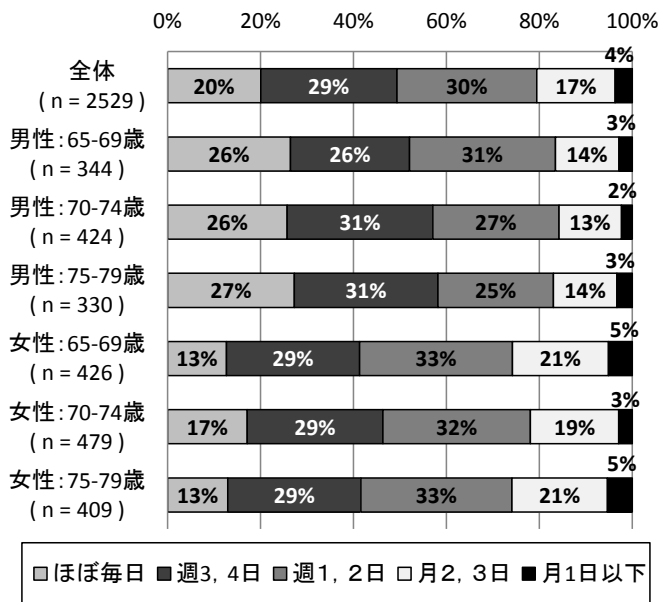
まず(1)で就業していないと回答した人の平日昼間の外出目的を確認したところ、全体では「趣味・娯楽」と「行楽・散策」の割合が高い。これを、性別・年代別に見ると、男性では「趣味・娯楽」と「行楽・散策」中心で74歳以下だと「スポーツ」の割合も一定程度ある。女性では、「趣味・娯楽」が多いのは男性と変わらないが「友人・知人との交際」の占める割合が同程度ある。



図Ⅲ-4-3 性別・年代別に見た平日昼間の主な外出目的

#### (4) 平日昼間の主な外出先へ行く頻度

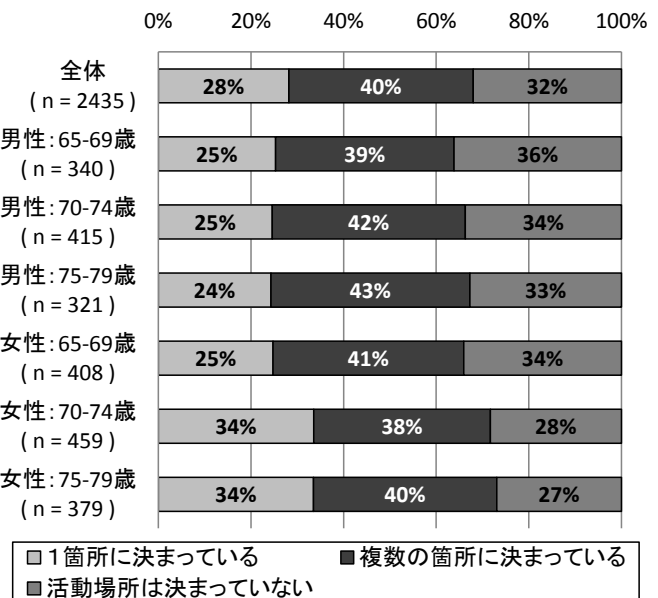
平日昼間の外出先へ行く頻度について、全体では「ほぼ毎日」が20%、「週3, 4日」が29%、「週1, 2日」が30%となっている。性別・年代別に見ると、「ほぼ毎日」でかけているのは男性に多く、女性は「週1, 2日」の割合が若干多い。男女とも年代による差は小さい。



図Ⅲ-4-4 性別・年代別に見た平日昼間の主な外出先へ行く頻度

#### (5) 平日昼間の主な外出先の数

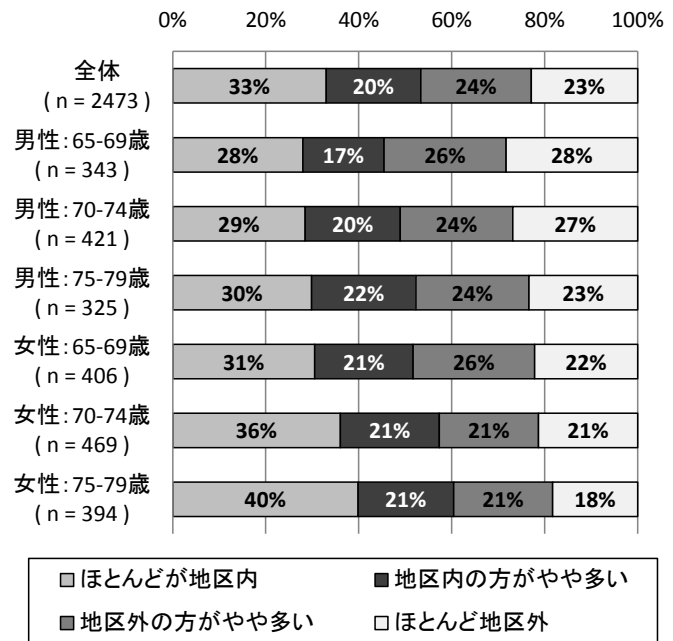
平日昼間の外出先の数については、「1箇所に決まっている」「複数の箇所に決まっている」「決まってない」がそれぞれほぼ1/3ずつとなっている。性別・年代別にみてもほぼ同じ傾向だが70-74歳・75-79歳女性では、「活動場所が決まっていない」割合が若干低い。



図Ⅲ-4-5 性別・年代別に見た平日昼間の主な外出先の数

## (6) 平日昼間の主な外出先の位置

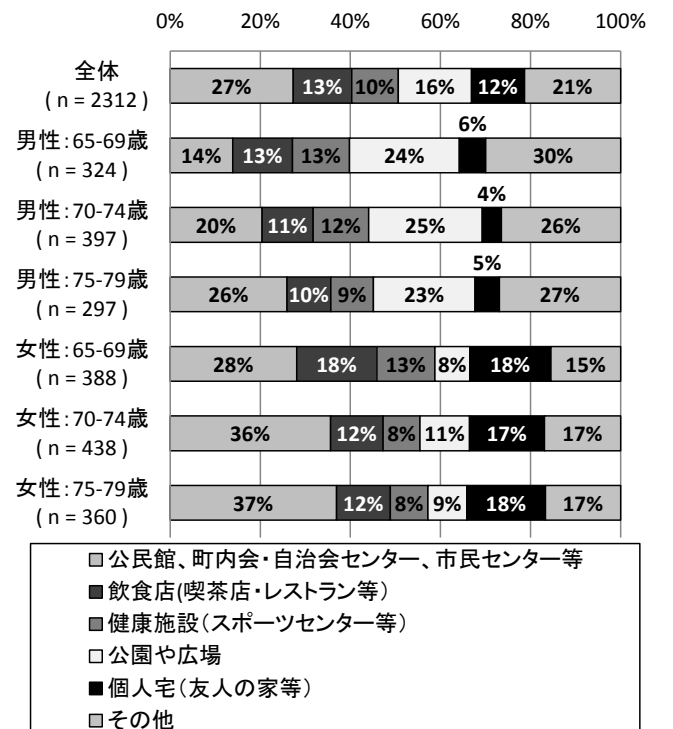
平日昼間の主な外出先の位置について、全体では「ほとんどが地区内」「地区内の方がやや多い」を合わせて半数が地区内となっている。これを性別・年代別に見ると、男性 65-69 歳では地区外が半数を超えているが、年代が上がるにつれて徐々に地区内の割合が増えており、女性の 75-79 歳では 61% が地区内となっている。



図Ⅲ-4-6 性別・年代別に見た平日昼間の主な外出先の位置

## (7) 平日昼間の主な外出先の種類

平日昼間の主な外出先の種類としては、全体では「公民館等」の割合が多い。性別・年代別に見ると、年代による差はあまりないが、女性は「公民館等」、男性は「公園・広場」が比較的多くなっている。

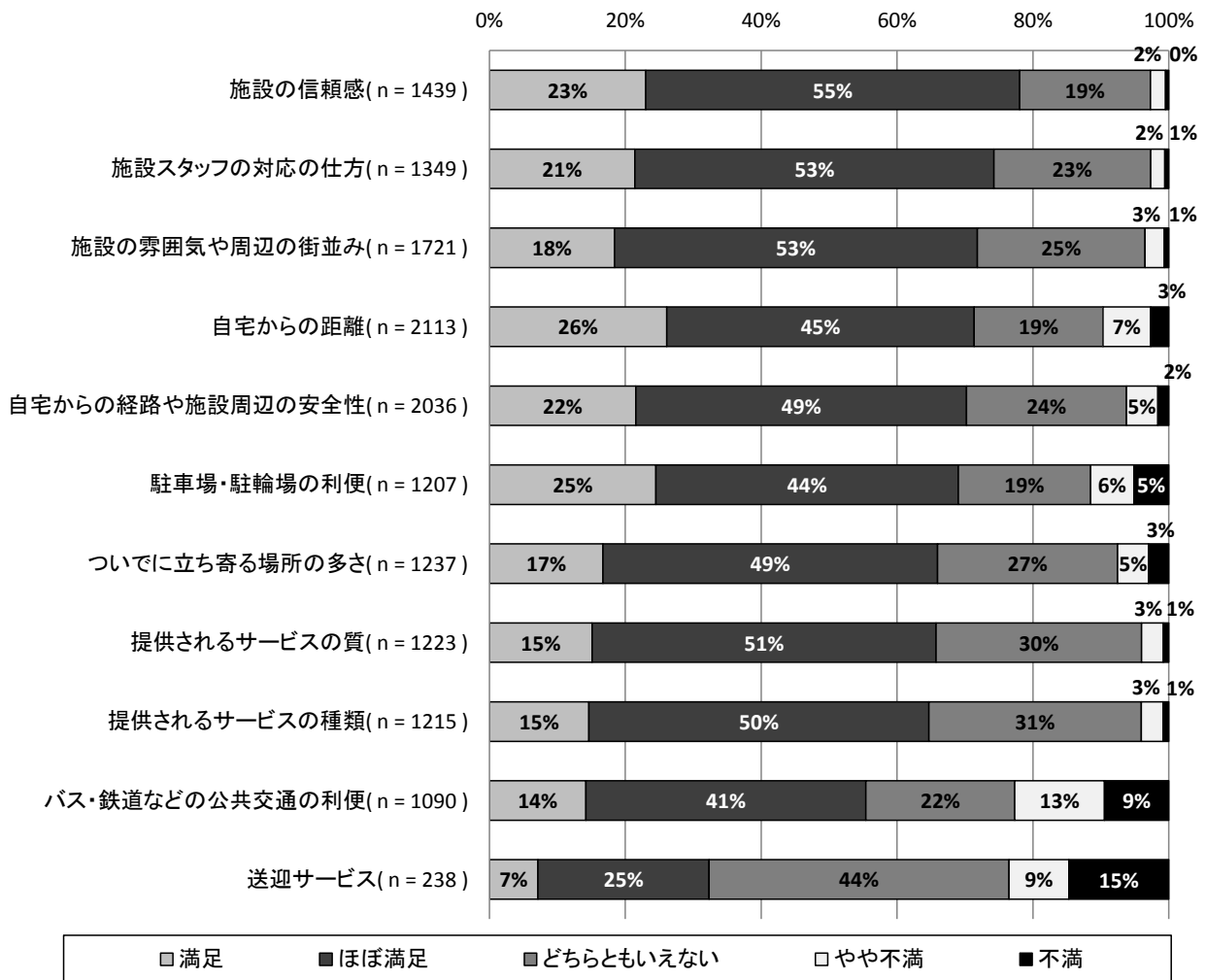


図Ⅲ-4-7 性別・年代別に見た平日昼間の主な外出先の種類

## 4.2 平日昼間の主な外出先の項目別の満足度

平日昼間の主な外出先の満足度について、次に示す11の項目を5段階で評価してもらった。

項目別に見て「満足」「ほぼ満足」を合わせた満足度が高かったものは、「施設の信頼感」「施設スタッフの対応の仕方」「施設の雰囲気や周辺の街並み」であり、施設に関する評価項目の満足度が高くなっている。また、次に満足度が高い項目として、「自宅からの距離」や「自宅からの経路や施設周辺の安全性」「駐車場・駐輪場の利便性」が続き、その施設への行きやすさについての満足度が高くなっている。



図Ⅲ-4-8 性別・年代別に見た平日昼間の主な活動場所に対する項目別の満足度

※「当てはまらない」と回答した人を除いた集計値

※「満足」と「ほぼ満足」を合わせた割合が高い順に並び替えている。

## 5. 気軽に足を運べる場所（居場所）

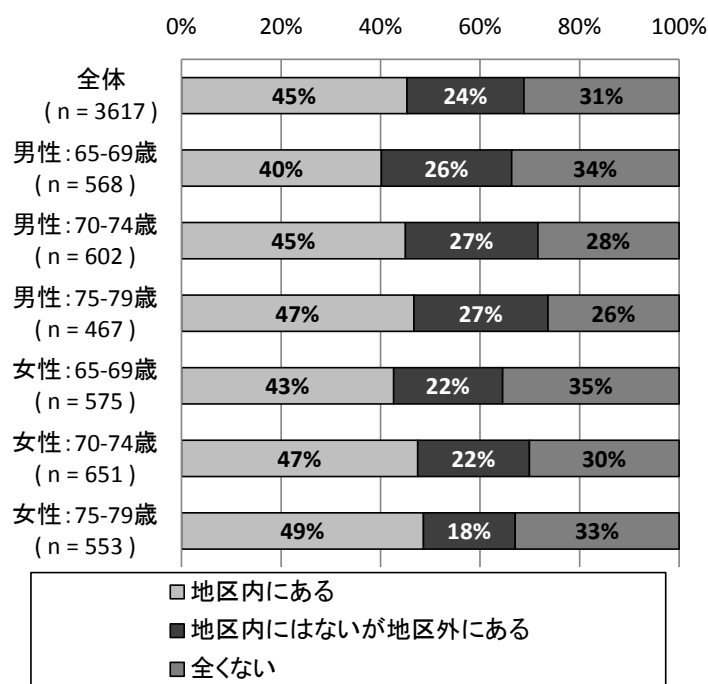
特に予定がなくても気軽に足を運べる場所である「居場所」の有無と利用実態等について、性別、年代による違いも踏まえて整理する。

### 5.1 性別・年代別の集計

#### (1) 地区内外の居場所の有無

居場所の有無について確認したところ、全体では「地区内にある」が45%であり、「地区外にある」が24%、「全くない」が31%となっている。なお、ここで「地区」とはアンケート対象地区を指す。

性別・年代別に見ると、男性では「地区外にある」の割合が若干高く、男性よりも女性の方が「全くない」とする割合が若干高い。



図Ⅲ-5-1 性別・年代別に見た地区内外の居場所の有無



## (2) 居場所の分類

自由記述で回答してもらった名称から、居場所を「店舗・商店街」「公共公益施設」「公園・自然」「その他」の4種類に分類整理した。

全体では、「店舗・商店街」と「公共公益施設」が36%ずつ、「公園・自然」が25%、「その他」が14%で構成されている。

性別・年代別に見ると、男性では「公共公益施設」の割合が高く「公園・自然」もすべての年代で30%を超えている。一方、女性ではすべての年代で「店舗・商店街」の割合が高く、次いで「公共公益施設」となっている。

### ◆店舗・商店街の内訳

「店舗・商店街」に該当しているものでは、特定の喫茶店や書店などの「特定の店舗」が18%あり、大型ショッピングセンターなどの「商業施設」が12%、複数の店舗から成る店舗群としての「商店街」が10%となっている。

これを性別・年代別に見ると、男性では「特定の店舗」の割合が高い。75-79歳になると「商店街」の割合が他年代より高くなっている。一方、女性の65-69歳では「特定の店舗」とともに「商業施設」の割合が高くなっている。「商店街」については、65-69歳では「特定の店舗」「商業施設」に比べると割合が低いですが、年代が高くなると徐々にその差が縮まってきている。

### ◆公共公益施設の内訳

「公共公益施設」に該当しているものでは、図書館などの「その他の公共施設」が19%あり、公民館などの「地域施設」が10%、市民体育館やプールなどの「運動施設」が8%となっている。

これを性別・年代別に見ると、どの区分でも「その他の公共施設」が最も割合が高くなっている。男性では「運動施設」の利用も10%程度見られるが、女性の70歳以上では非常に低くなっている。「地域施設」は70代女性に10%程度の利用が見られる。

### ◆その他の場所の内訳

「その他」に該当しているものでは、「友人・親類宅」が5%、特定の場所を目的とせず散歩するなどの「あるく」が4%、「寺社」や仏閣、教会などが2%、別荘や市外の観光地などといった「市外の地区」は2%ある。

これを性別・年代別に見ると、男性では「あるく」の割合が他の項目よりも若干割合が高く、女性では高齢になるほど「友人・親類」が高くなっている。

表Ⅲ-5-1 性別・年代別に見た居場所の分類

	全体 (n = 2034)		男性			女性		
			65-69歳 (n = 322)	70-74歳 (n = 354)	75-79歳 (n = 283)	65-69歳 (n = 319)	70-74歳 (n = 368)	75-79歳 (n = 280)
店舗・商店街	36.1%		28.9%	26.6%	27.9%	41.4%	43.5%	47.5%
特定の店舗	18.5%	18.3%	16.4%	14.5%	16.6%	22.6%	20.7%	
商店街	9.5%	6.8%	6.5%	9.9%	9.1%	12.5%	13.6%	
商業施設	11.8%	5.9%	5.9%	6.0%	18.8%	15.8%	17.9%	
公共・公益施設	36.2%		39.8%	37.9%	37.1%	35.8%	34.5%	32.1%
運動施設	8.1%	10.9%	13.0%	9.5%	8.5%	3.8%	2.9%	
地域施設	9.6%	7.8%	8.2%	11.0%	6.3%	12.0%	13.2%	
その他の 公共公益施設	19.5%	22.7%	17.5%	18.4%	22.3%	19.3%	16.4%	
公園・自然	25.0%		32.9%	35.3%	35.7%	17.6%	16.6%	12.9%
その他	14.5%		12.1%	15.5%	13.1%	14.2%	17.4%	13.9%
友人・親類	5.0%	3.4%	2.3%	0.0%	6.6%	8.4%	9.6%	
あるく	4.3%	2.8%	5.6%	6.4%	3.1%	5.4%	2.1%	
寺社	2.1%	3.4%	2.8%	3.2%	1.6%	0.8%	0.4%	
市外の地区	1.6%	1.2%	2.5%	1.8%	2.2%	1.4%	0.7%	
その他	3.5%	2.8%	5.6%	4.2%	2.8%	3.3%	2.1%	

※複数該当がありうる設問

### (3) 居場所に行く理由

居場所に行く理由としては、「自宅から近い」が最も多い理由となっており、次いで「自分の好きなことができる」と「行けば顔なじみがいる」が同程度となっている。

これを性別・年代で見ると、「自宅から近い」は男女・年代によらず一番多い理由となっている。75-79歳の女性では次いで「行けば顔なじみがいる」ことを理由としている。このほか、男性では「自分の好きなことができる」の割合が高くなっているが、女性は「ついでに立ち寄る場所が多い」ことも理由として多く挙げられている。

表Ⅲ-5-2 性別・年代別に見た居場所に行く理由

	全体 (n = 2,232)	男性			女性		
		65-69歳 (n = 352)	70-74歳 (n = 392)	75-79歳 (n = 306)	65-69歳 (n = 322)	70-74歳 (n = 408)	75-79歳 (n = 326)
行けば顔なじみがいる	30.6%	23.0%	28.8%	31.0%	25.2%	30.4%	43.9%
自分の好きなことができる	31.4%	36.9%	38.8%	33.7%	31.4%	26.0%	21.8%
自宅から近い	55.2%	58.2%	54.6%	55.9%	53.7%	57.1%	51.8%
その場所や、自宅からの 経路が安全である	25.9%	20.2%	26.0%	32.4%	27.3%	24.8%	28.8%
バス・鉄道など公共交通の 利便性がよい	7.8%	3.7%	5.9%	4.2%	7.8%	10.3%	13.5%
駐車場・駐輪場の利便が良い	17.2%	21.9%	22.2%	20.3%	17.7%	11.0%	9.2%
ついでに立ち寄る場所が多い	25.2%	19.6%	17.6%	19.6%	31.4%	31.4%	30.7%
その場所の雰囲気や周辺の 街並みが良い	17.2%	15.6%	18.4%	17.6%	17.7%	16.2%	17.5%
スタッフの対応がよい	7.9%	4.3%	10.2%	8.2%	10.2%	8.1%	7.1%
提供されるサービスが良い	7.0%	6.5%	8.7%	7.2%	6.8%	7.8%	4.3%

※複数回答が3つまで可能な設問

居場所の分類別にこの割合を見ると、店舗・商店街で割合が高い項目は「自宅から近い」、  
「行けば顔なじみがいる」、「その場所や、自宅からの経路が安全である」となっている。  
また、「バス・鉄道など公共交通の利便性がよい」や「提供されるサービスが良い」が比較  
的高くなっている。

公共公益施設で割合が高い項目は「自宅から近い」、「自分の好きなことができる」、「行  
けば顔なじみがいる」となっている。また、「駐車場・駐輪場の利便が良い」、「スタッフの  
対応が良い」が全体よりも高くなっている。

公園・自然で割合が高い項目は「自宅から近い」、「その場所や、自宅からの経路が安全  
である」、「自分の好きなことができる」となっている。また、「その場所の雰囲気や周辺の  
街並みが良い」が全体よりも高くなっている。

表Ⅲ-5-3 居場所の分類別に見た居場所に行く理由

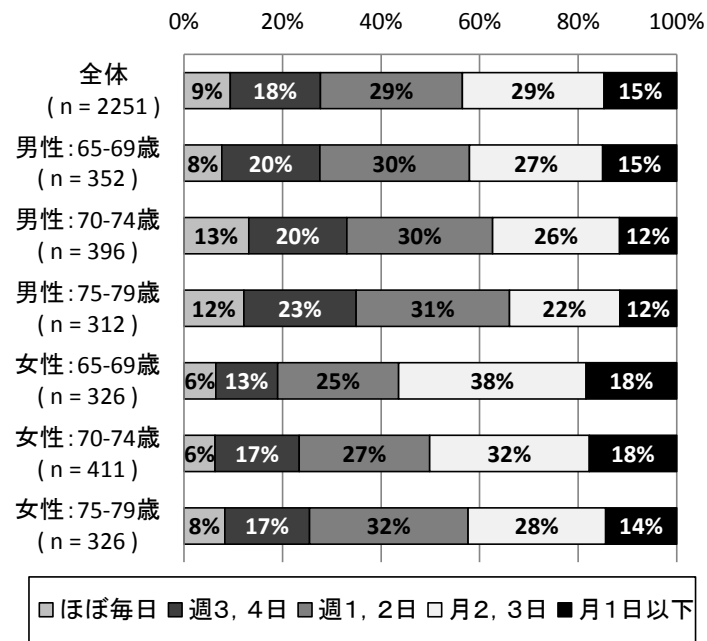
	全体 (n = 2,232)	店舗・商店街 (n = 696)	公共公益施設 (n = 688)	公園・自然 (n = 483)	その他 (n = 263)
行けば顔なじみがいる	30.6%	29.6%	28.5%	17.4%	37.3%
自分の好きなことができる	31.4%	22.4%	41.0%	35.8%	30.8%
自宅から近い	55.2%	48.9%	62.9%	67.1%	52.5%
その場所や、自宅からの経路 が安全である	25.9%	23.7%	22.7%	39.8%	32.7%
バス・鉄道など公共交通の利 便性がよい	7.8%	14.2%	3.6%	1.2%	6.1%
駐車場・駐輪場の利便がよい	17.2%	17.7%	21.4%	15.9%	9.1%
ついでに立ち寄る場所が多い	25.2%	19.1%	16.0%	14.3%	26.2%
その場所の雰囲気や周辺の 街並みがよい	17.2%	15.9%	13.4%	29.6%	25.9%
スタッフの対応がよい	7.9%	10.6%	11.5%	1.7%	3.8%
提供されるサービスが良い	7.0%	10.8%	10.2%	0.6%	1.5%

※複数回答が3つまで可能な設問

#### (4) 居場所に行く頻度

居場所に行く頻度は、全体では「週1,2日」「月2,3日」の割合が高い。

性別・年代別に見ると、男性では女性よりも頻繁に出かける人が多く、年代が上がるにつれて出かける頻度が高くなっている。一方、女性も年代が上がるにつれて出かける頻度は増えているが、男性と比べると低頻度である。

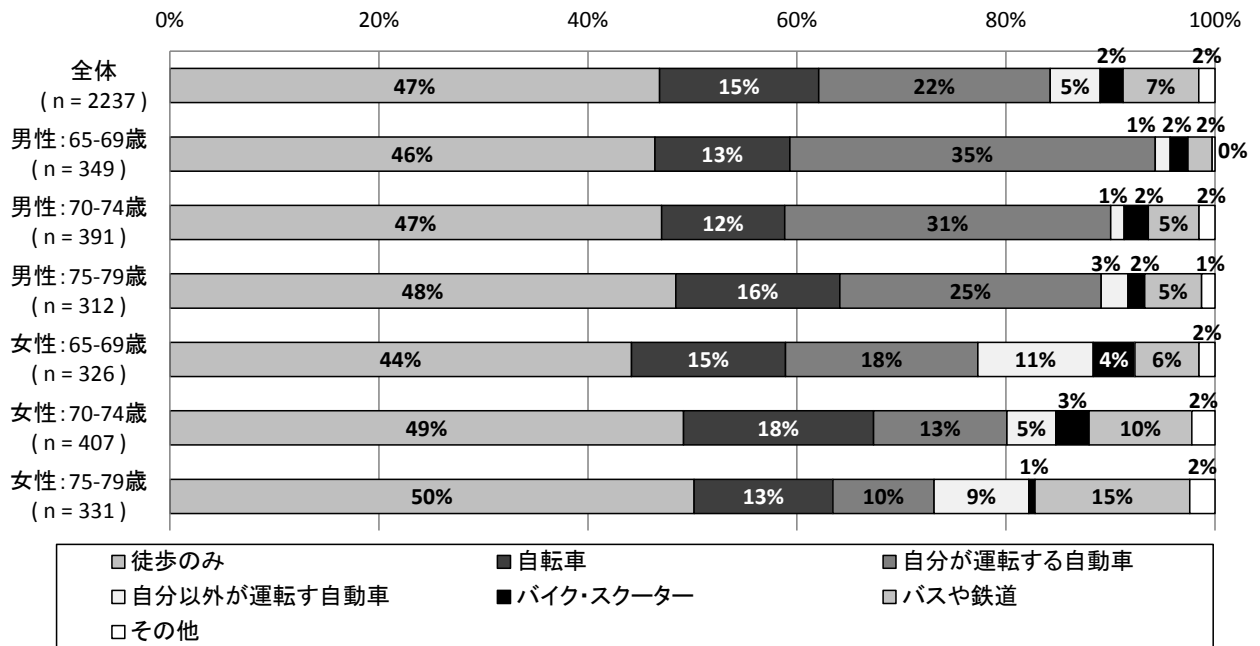


図Ⅲ-5-2 性別・年代別に見た居場所に行く頻度

(5) 居場所に行く交通手段

居場所に行く交通手段は、全体では「徒歩のみ」が最も多い。

性別・年代別に見ると、自動車は男性の利用が多いが、75-79歳になると「自分が運転する自動車」の利用が少なくなり、自転車の利用割合が増えている。女性でも「徒歩のみ」が主流だが70-74歳で自転車の割合が若干高い。



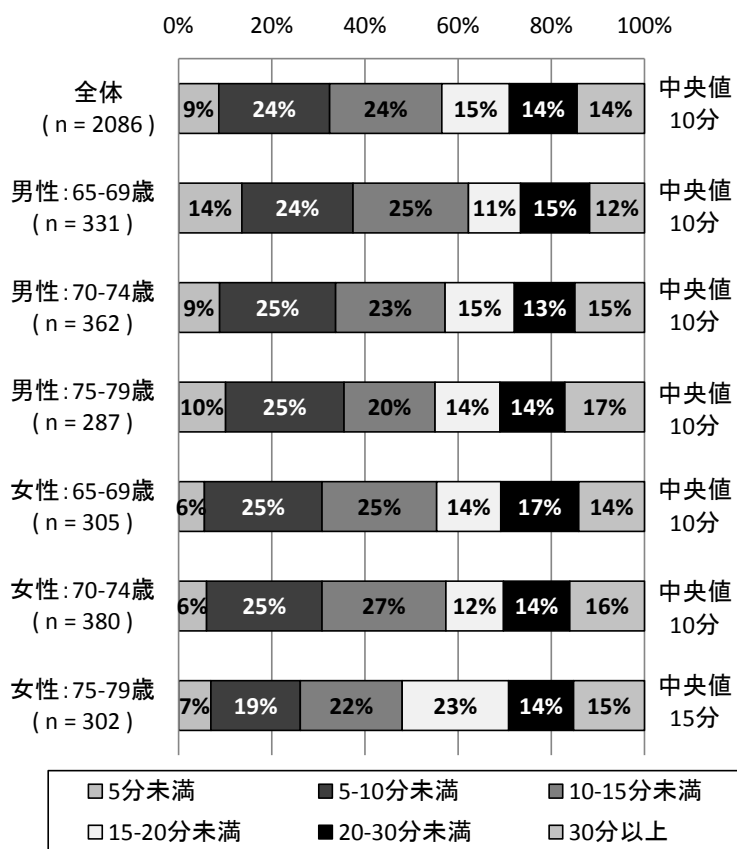
図Ⅲ-5-3 性別・年代別に見た居場所に行く交通手段の割合

※「その他」には、「車いす、電動車いす」「タクシー」「施設の送迎バス」を含む

(6) 居場所までの所要時間

居場所までの所要時間について、全体では「5-10分未満」と「10-15分未満」がそれぞれ24%と多く、中央値も10分となっている。また、15分未満の割合が57%となっている。

性別・年代別に比較すると、男性は年代区分が高いほど徐々に所要時間が長くなる傾向が見られ、例えば15分未満の割合で見ると65-69歳では63%であるのに対して、75-79歳では55%となっている。一方、女性は75-79歳で急に所要時間が長くなる傾向が見られ、例えば15分未満の割合で見ると65-69歳では55%、70-74歳では58%に対して、75-79歳では48%となっている。

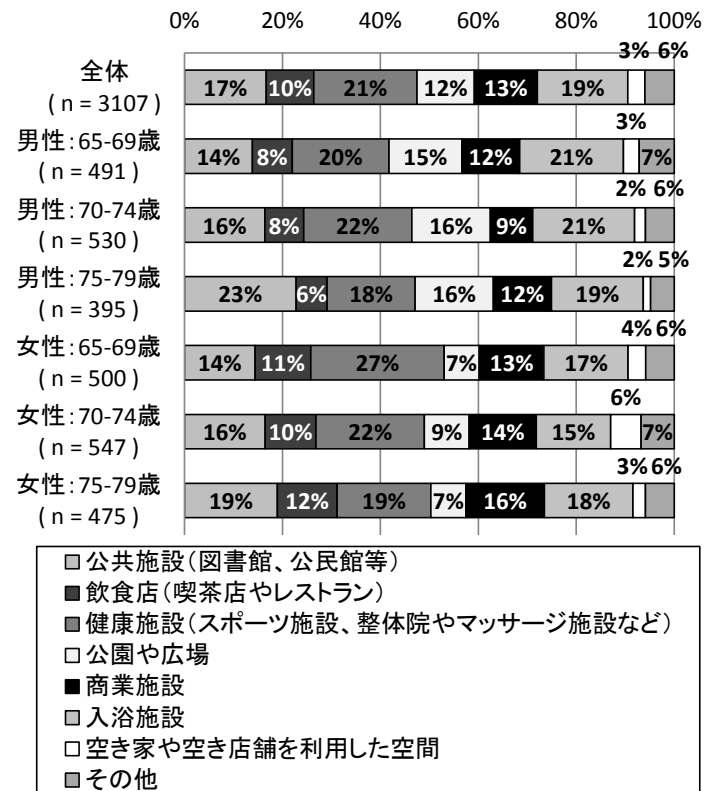


図Ⅲ-5-4 性別・年代別に見た居場所までの所要時間

(7) 居場所としてあればよいと思うもの

今後、居場所としてあればよいと思うものを問う設問では、「健康施設」「入浴施設」「公共施設」などが多い。

これを性別・年代別に見ると、どの年代も大きな差はないが、男性 75-79 歳では若干公共施設への要望が多い。



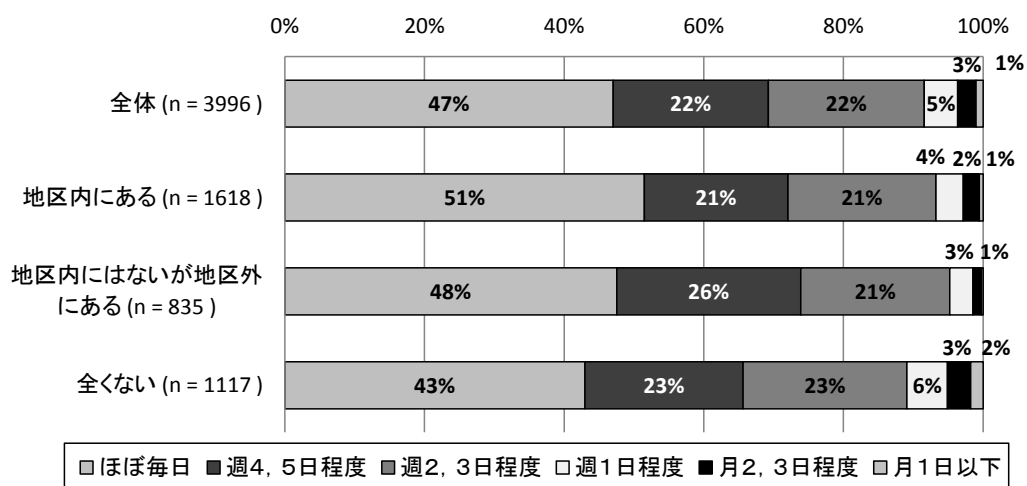
図Ⅲ-5-5 性別・年代別に見た居場所としてあればよいと思うもの



## 5.2 居場所の有無と外出頻度及び社会との関わり

### (1) 居場所の有無と外出頻度の関係

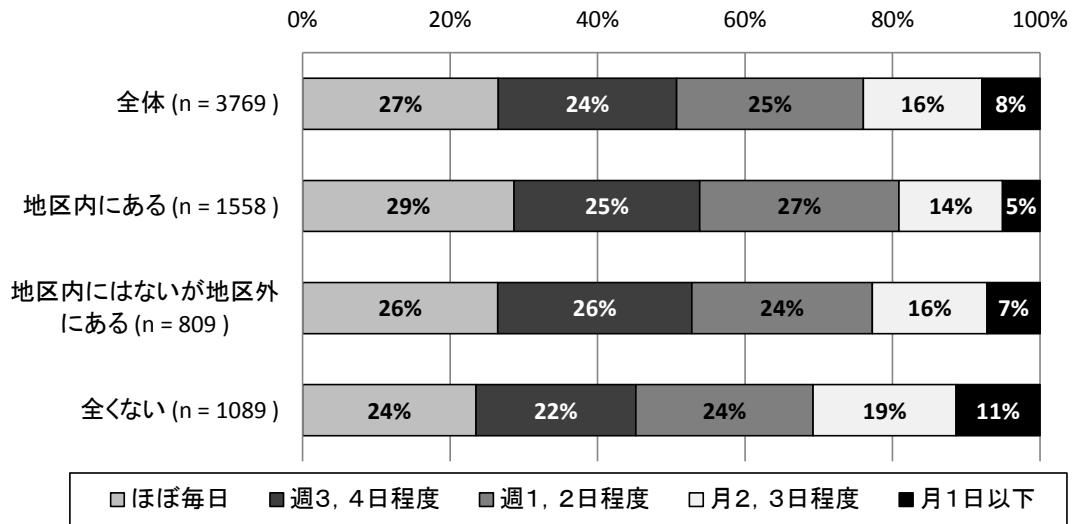
居場所が「地区内にある」「地区外にある」人と比べて、居場所が「全くない」人は、外出頻度が「週1日程度」以下の割合が高くなっている。



図Ⅲ-5-6 居場所の有無別に見た外出頻度

(2) 居場所の有無と会話頻度の関係

居場所が「地区内にある」「地区外にある」と比べて、居場所が「全くない」人は、会話頻度が「月2,3日程度」「月1日以下」の割合がいずれも高くなっている。



図Ⅲ-5-7 居場所の有無別に見た会話頻度

## IV 地区別分析

ここでは、アンケート対象の4058人を地区（4都市7地区）ごとに区分して集計し、地区特性を踏まえた考察を行う。地区ごとの性別・年代別の回答者の基本属性は次表に示すとおりである。

地区によって属性の大きな偏りはないが、町田市郊外部、新潟市郊外部ではやや女性が多い。また年齢別に見ると、町田市郊外部では70-74歳がやや多く、集計結果の解釈にあたっては留意が必要である。

表IV-1 地区別の基本属性集計結果

市名	東京都町田市				新潟県新潟市			
中心部					n=708			
					男	女	不明	計
65-69歳					12.6%	16.0%	-	28.5%
70-74歳					12.9%	19.4%	-	32.2%
75-79歳					12.3%	16.5%	0.3%	29.1%
不明					2.7%	1.6%	5.9%	10.2%
合計					40.4%	53.4%	6.2%	100.0%
郊外部	n=890				n=700			
	男	女	不明	計	男	女	不明	計
65-69歳	10.7%	15.6%	-	26.3%	15.9%	20.9%	0.1%	36.9%
70-74歳	19.0%	23.1%	-	42.1%	15.1%	17.9%	-	33.0%
75-79歳	13.5%	16.6%	-	30.1%	11.3%	14.1%	-	25.4%
不明	0.8%	0.6%	0.1%	1.5%	1.6%	1.9%	1.3%	4.7%
合計	43.9%	56.0%	0.1%	100.0%	43.9%	54.7%	1.4%	100.0%
市名	奈良県橿原市				山口県周南市			
中心部	n=411				n=386			
	男	女	不明	計	男	女	不明	計
65-69歳	18.0%	12.7%	0.2%	30.9%	16.3%	13.2%	-	29.5%
70-74歳	18.0%	14.1%	-	32.1%	13.7%	14.5%	-	28.2%
75-79歳	15.3%	16.1%	0.2%	31.6%	13.0%	20.2%	-	33.2%
不明	1.0%	1.7%	2.7%	5.4%	2.3%	2.6%	4.1%	9.1%
合計	52.3%	44.5%	3.2%	100.0%	45.3%	50.5%	4.1%	100.0%
郊外部	n=506				n=457			
	男	女	不明	計	男	女	不明	計
65-69歳	19.4%	18.4%	-	37.7%	16.8%	11.2%	-	28.0%
70-74歳	17.2%	14.4%	-	31.6%	17.1%	15.8%	-	32.8%
75-79歳	14.0%	13.4%	-	27.5%	13.3%	18.2%	-	31.5%
不明	1.2%	1.0%	1.0%	3.2%	2.2%	2.6%	2.8%	7.7%
合計	51.8%	47.2%	1.0%	100.0%	49.5%	47.7%	2.8%	100.0%

※65歳未満、80歳以上、年齢無回答のものは「不明」とする

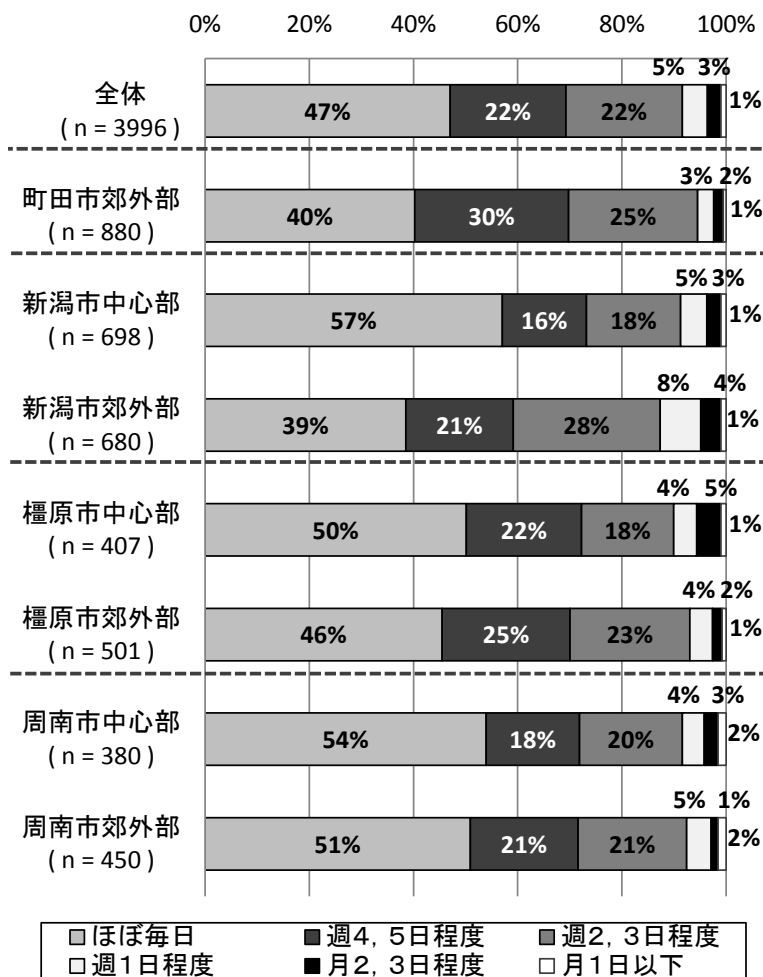
# 1. 地区別に見た外出行動

高齢者の外出行動について、地区ごとに外出頻度と自動車所有・運転状況の違いを整理する。

## 1.1 外出頻度

外出頻度については、全体の集計では「ほぼ毎日」外出が47%を占めている。

地区別に見ると、各市とも郊外部に比べて中心部の方が「ほぼ毎日」の割合が高い。特に中心部と郊外部の距離が離れている新潟市では、中心部では「ほぼ毎日」の割合が57%で他の地区に比べて高いのに対して、郊外部では39%と最も低い。



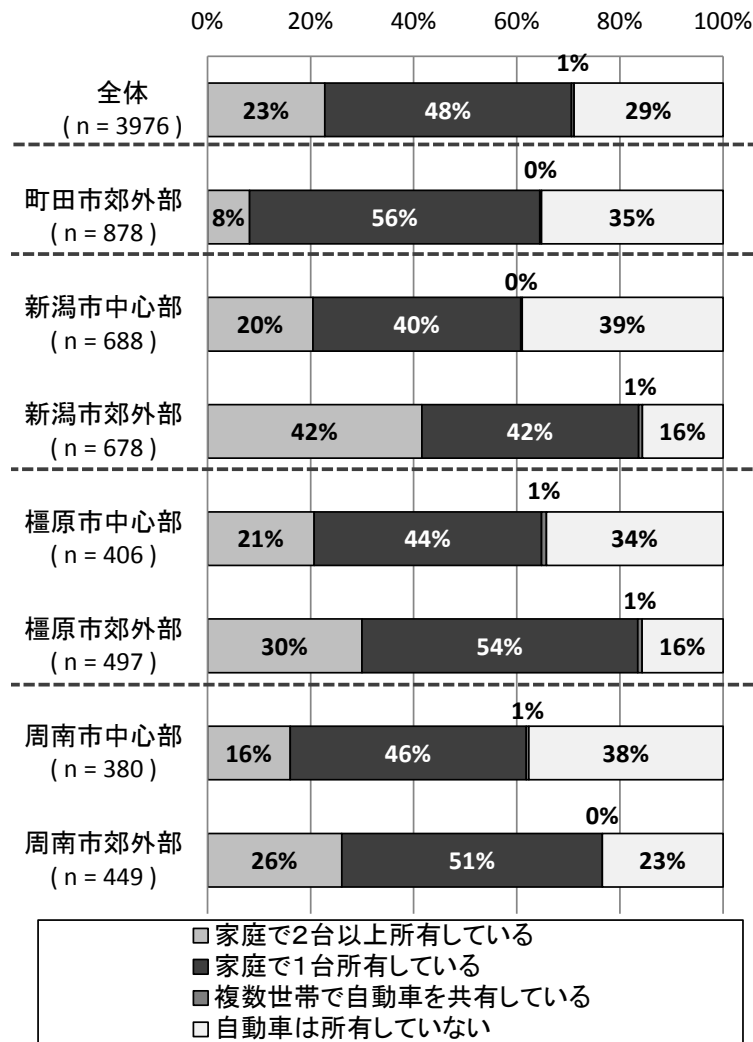
図IV-1-1 地区別に見た外出頻度

## 1.2 自動車所有状況

自動車所有状況については、全体の集計では72%が自動車を所有しており、このうち「家庭で2台以上所有している」割合は23%を占めている。

地区別に見ると、自動車を所有している割合は、各市とも中心部よりも郊外部に多くなっている。特に中心市街地から離れている新潟市郊外部では「家庭で2台以上所有している」割合が42%と特に高くなっている。反対に、商店街等に近接しており、地域の利便性が高い新潟市中心部では「自動車は所有していない」割合が39%と他地区より高い。

町田市郊外部は中心市街地から離れているものの、集合住宅の割合が高く、公共交通(バス)の利便性が高いため「家庭で2台以上所有している」割合が7地区中最も低くなっている。

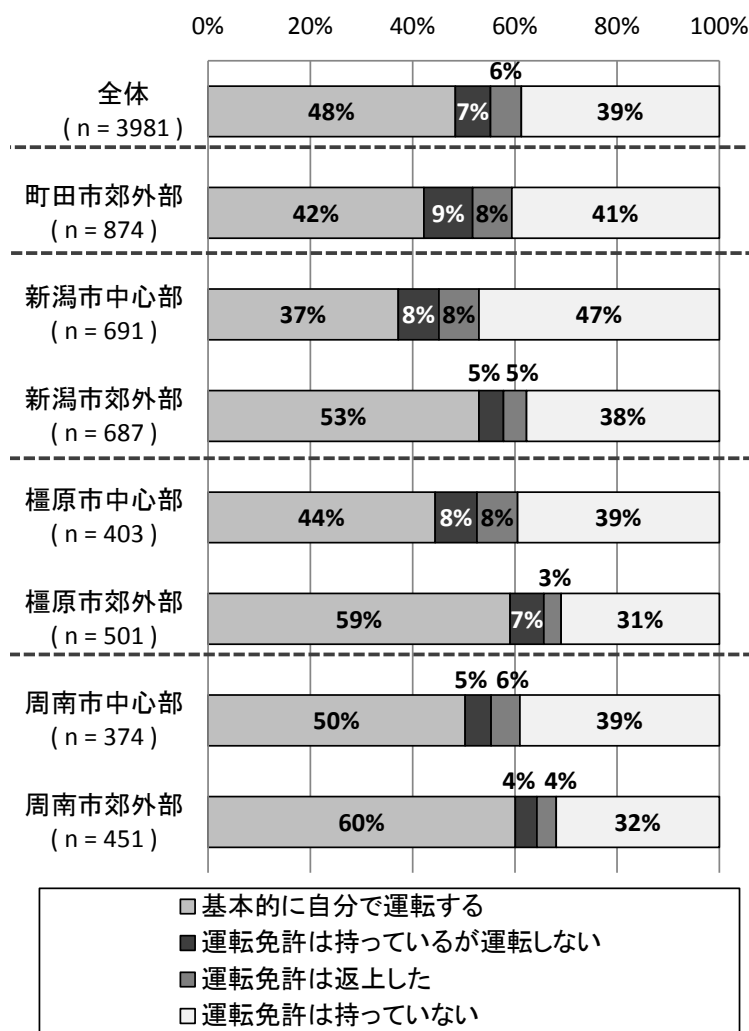


図IV-1-2 地区別に見た自動車所有状況

### 1.3 自動車運転状況

自動車運転状況について、全体で見ると48%が「基本的に自分で運転する」と回答している。

地区別に見ると、各市とも郊外部では「基本的に自分で運転する」割合が中心部に比べて高い。特に橿原市と周南市の郊外部では「基本的に自分で運転する」人が約6割を占めている。反対に、商店街に近接し、利便性が高い新潟市中心部では「運転免許は持っていない」割合が47%と最も高い。運転免許を返上（返納）した割合は郊外部より中心部で高い。



図IV-1-3 地区別に見た自動車運転状況

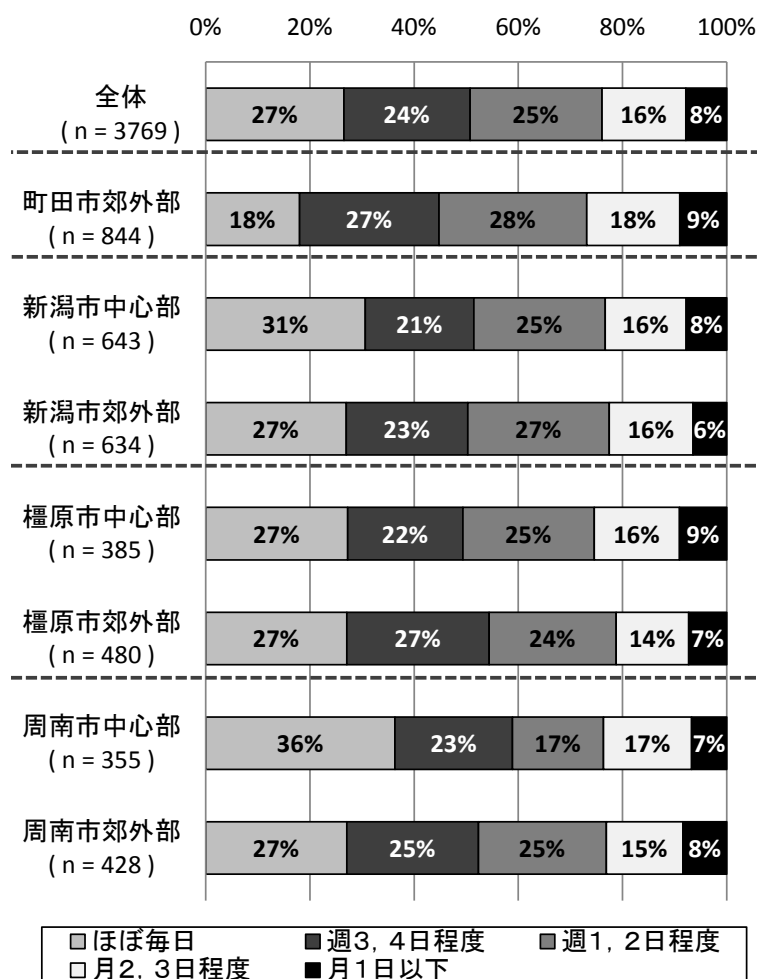
## 2. 地区別に見た社会との関わり

同居家族以外と直接会って話す頻度（会話頻度）や地域活動参加状況について、地区別の特性を踏まえて整理する。

### 2.1 会話頻度

会話頻度では、「ほぼ毎日」会話する世帯が27%、「週1,2日程度」が25%、「週3,4日程度」が24%と拮抗している。

地区別に見ると、7地区とも大きな違いはないが、「ほぼ毎日」会話している割合で見ると周南市中心部や新潟市中心部の割合がやや高く、町田市郊外部で低くなっている。

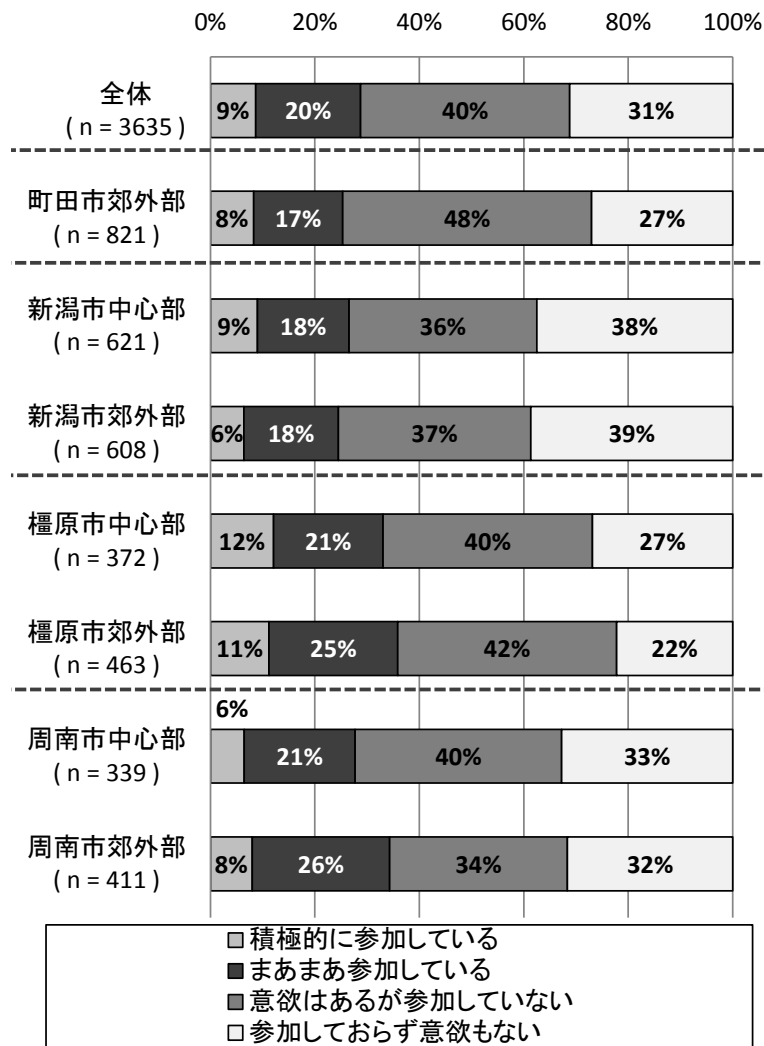


図IV-2-1 地区別に見た会話頻度

## 2.2 地域活動参加状況

地域活動参加状況について、全体の集計では「積極的に参加」「まあまあ参加」を合わせて地域活動に参加している割合が29%だった。

地区別に見ると、比較的参加している割合が高いのが榊原市の2地区と周南市郊外部である。町田市郊外部は、現在参加している割合は高くないものの、「意欲はあるが参加していない」割合が48%と最も高くなっている。



図IV-2-2 地区別に見た地域活動参加状況



## 2.3 参加している地域活動の内容

参加している地域活動の内容を見ると、新潟市郊外部・周南市郊外部・町田市郊外部では「高齢者を対象とした活動」の割合が高い。特に新潟市郊外部では回答者の42%がこの分野の活動に参加している。また、周南市郊外部や橿原市郊外部では「スポーツ・文化・芸術関係」の割合が高く、新潟市中心部や橿原市中心部では「まちづくりのための活動」に回答者の30%以上が参加している。さらに周南市中心部では「自然や環境を守るための活動」の割合が最も高く、各地区の特性を反映した活動が展開されている。

表IV-2-1 地区別に見た参加している地域活動内容

	全体 (n = 1,006)	町田市 郊外部 (n = 204)	新潟市 中心部 (n = 157)	新潟市 郊外部 (n = 143)	橿原市 中心部 (n = 117)	橿原市 郊外部 (n = 160)	周南市 中心部 (n = 89)	周南市 郊外部 (n = 136)
健康や医療サービスに関 係した活動	9.8%	8.8%	8.3%	11.2%	8.5%	13.1%	5.6%	11.8%
高齢者を対象とした活動	30.7%	31.9%	28.7%	42.0%	22.2%	25.6%	27.0%	35.3%
障がい者を対象とした活 動	6.6%	10.8%	6.4%	7.0%	3.4%	4.4%	2.2%	8.1%
子どもを対象とした活動	15.5%	15.2%	14.6%	25.2%	10.3%	13.1%	11.2%	16.9%
スポーツ・文化・芸術・学 術に関係した活動	26.1%	27.9%	22.9%	14.0%	26.5%	31.3%	24.7%	34.6%
まちづくりのための活動	23.2%	13.7%	33.1%	27.3%	34.2%	22.5%	15.7%	17.6%
安全な生活のための活動	20.1%	18.6%	20.4%	20.3%	16.2%	25.6%	14.6%	22.1%
自然や環境を守るための 活動	17.9%	15.2%	12.1%	14.7%	10.3%	26.9%	29.2%	20.6%
災害に関係した活動	12.3%	9.8%	22.9%	18.9%	16.2%	6.3%	3.4%	6.6%
国際協力に関係した活動	3.6%	4.9%	3.8%	1.4%	0.9%	2.5%	9.0%	3.7%
その他の活動	16.4%	24.0%	18.5%	18.2%	17.1%	11.3%	13.5%	8.1%

※複数回答が可能な設問

### 3. 地区別に見た地域生活の満足度

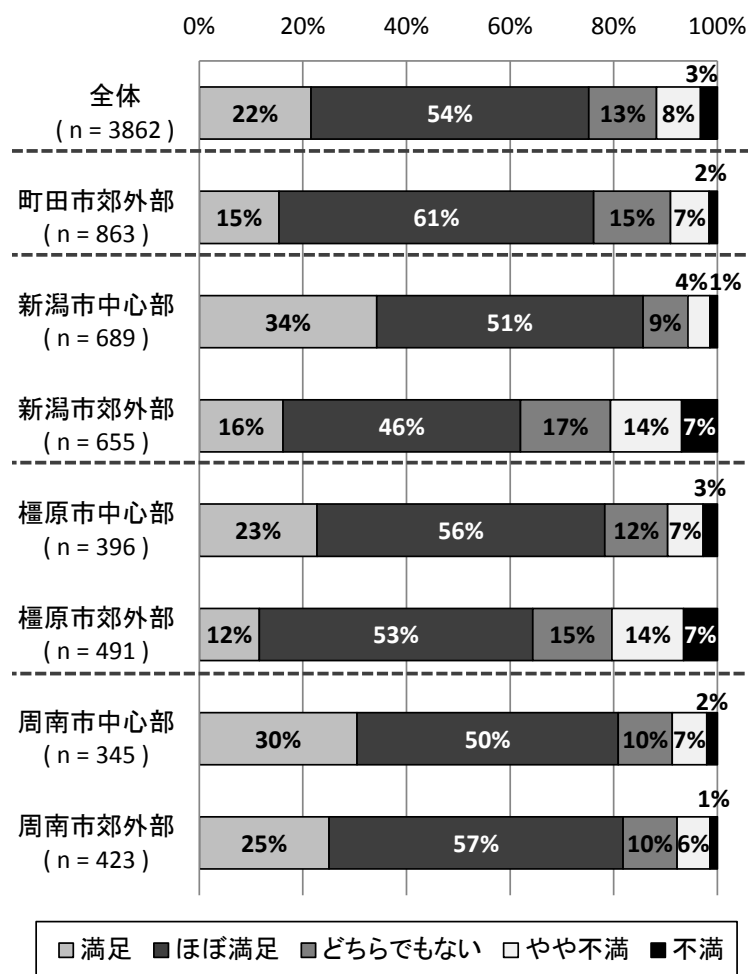
地域生活の満足度として、買い物や医療施設への利便性など 15 項目の評価結果をもとに、各地区の特性を踏まえた考察を行う。

#### 3.1 外出の種類別に見た満足度

##### (1) 日常的な買い物の利便性に対する満足度

日常的な買い物の利便性に対して、全体では「満足」「ほぼ満足」を合わせると 76%が満足している。

地区別に見ると、中心部での満足度は高く、郊外部では低い傾向がある。特に新潟市郊外部と橿原市郊外部では、「やや不満」「不満」の割合が 20%を越えている。

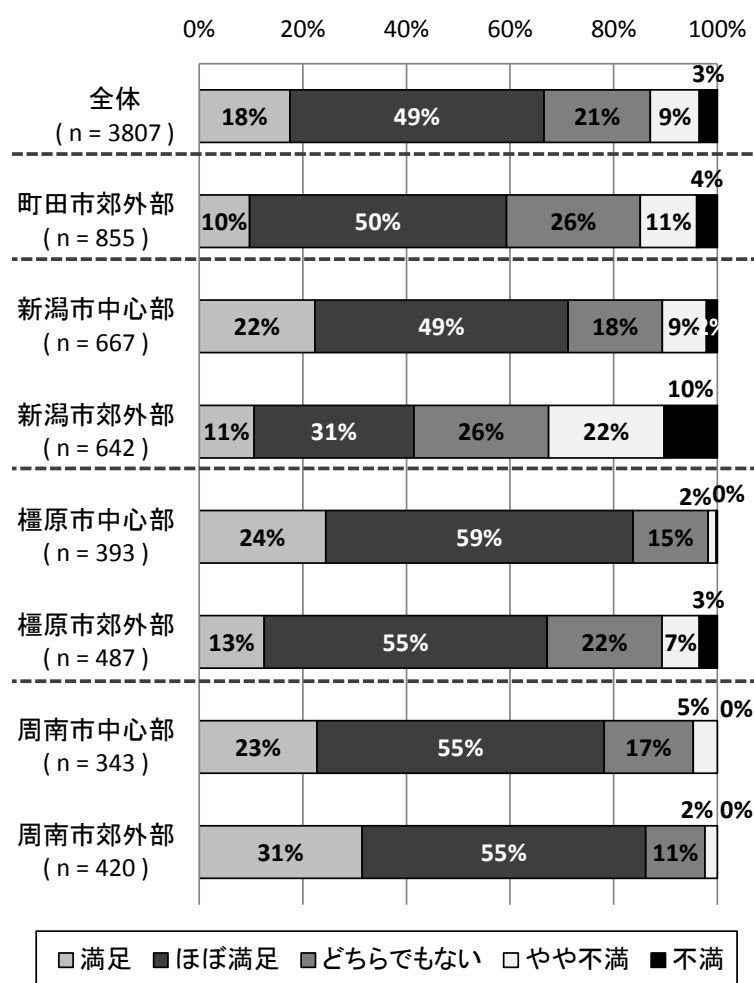


図IV-3-1 地区別に見た日常的な買い物の利便性に対する満足度

## (2) 医療施設の利便性に対する満足度

医療施設（歯科を除く）の利便性に対して、全体では「満足」「ほぼ満足」を合わせると67%が満足している。

地区別に見ると、各市とも中心部の方が郊外部よりも満足度が高くなる傾向がある。新潟市郊外部では「やや不満」「不満」の合計が32%に達する。一方、周南市郊外部では地区内に市内最大の総合病院が立地しており、周辺に開業医も多いことから全地区で最も満足度が高くなっている。

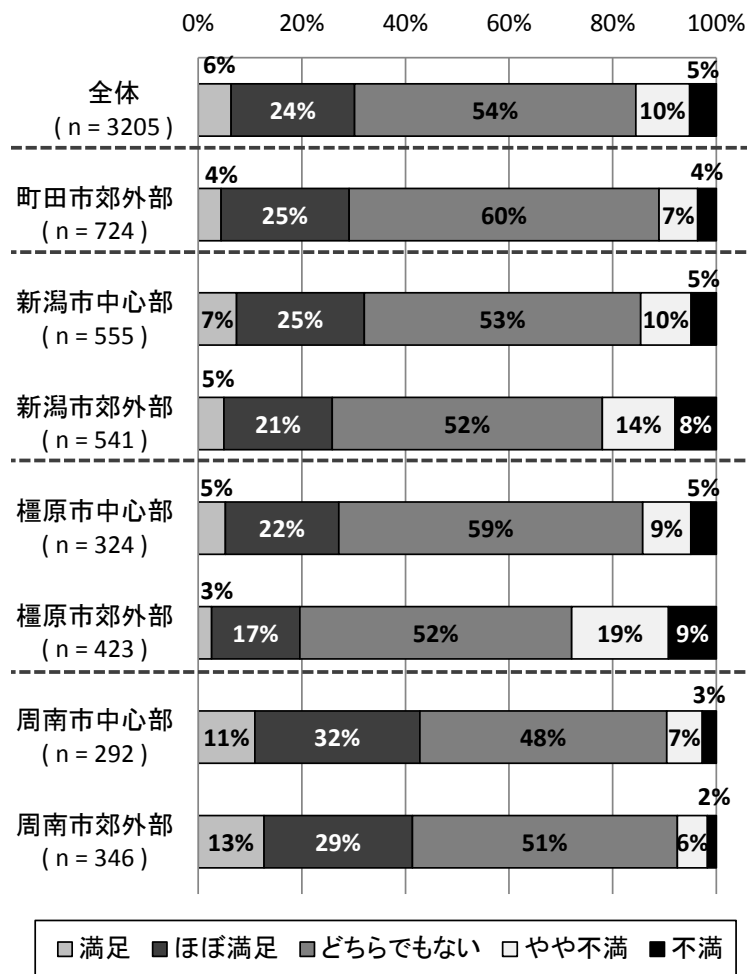


図IV-3-2 地区別に見た医療施設の利便性に対する満足度

### (3) 福祉施設の利便性に対する満足度

福祉施設の利便性に対する満足度については、現に利用している回答者が少なかったことを反映してか、ほぼ全地区で「どちらでもない」の割合が半数を超えている。

地区別に見ると、「満足」「ほぼ満足」を合わせた満足度が高いのは、周南市であり、橿原市の満足度はやや低い。また、各市とも中心部と郊外部では郊外部の満足度がやや低い傾向にある。



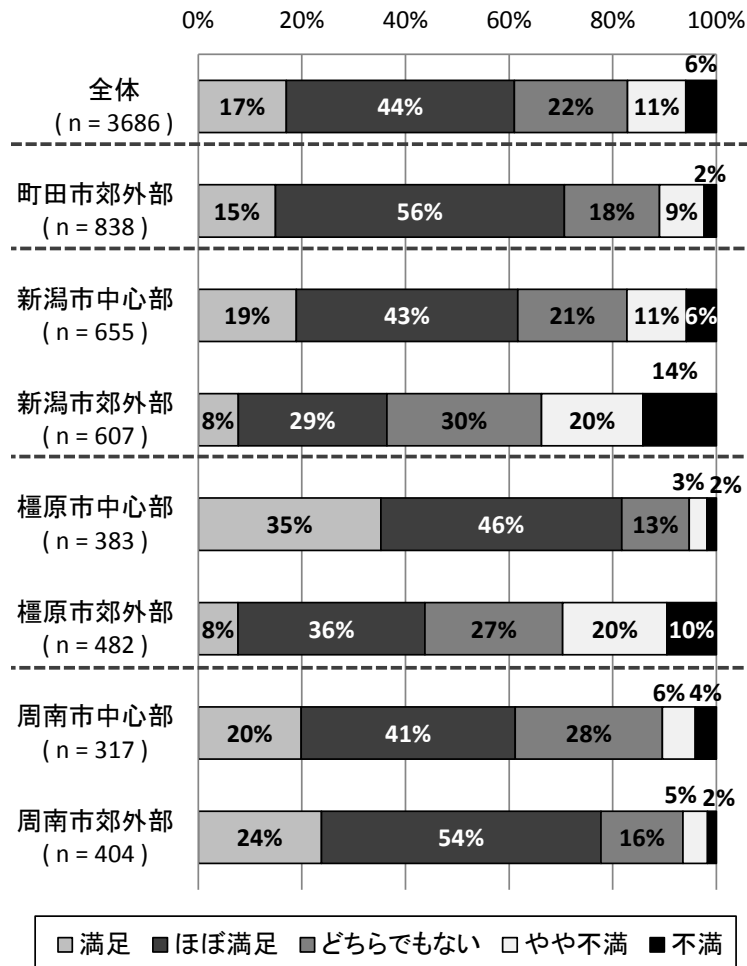
図IV-3-3 地区別に見た福祉施設の利便性に対する満足度

### 3.2 交通環境から見た満足度

#### (1) 公共交通の利便性に対する満足度

公共交通（バス・鉄道）の利便性に対して、全体の集計では「満足」「ほぼ満足」を合わせると61%が満足している。

地区別に見ると、地区内に3つの鉄道駅がある橿原市中心部では「満足」「ほぼ満足」の合計が81%と高い満足度を示している。最寄りの公共交通がバスとなる他地区の「満足」は20%程度だが、日中のバス便も比較的便利な町田市郊外部・周南市郊外部では「ほぼ満足」が50%を超えている。一方、「満足」「ほぼ満足」を合わせても半数に満たないのが新潟市郊外部と橿原市郊外部の両地区となっている。

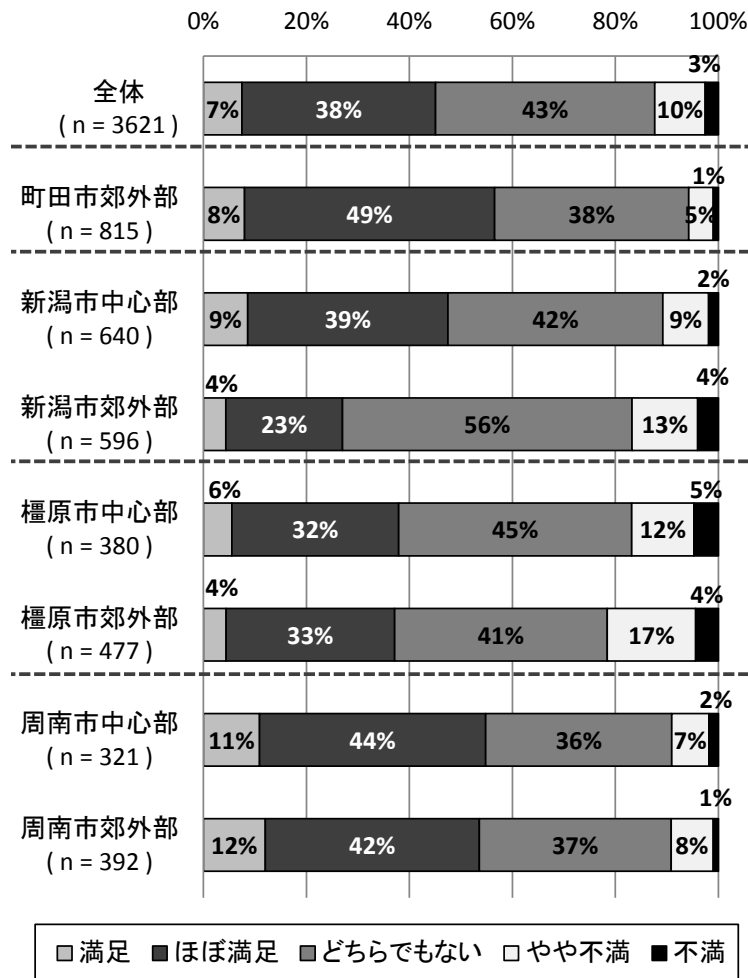


図IV-3-4 地区別に見た公共交通の利便性に対する満足度

## (2) 交通安全満足度

交通安全について、全体の集計では「満足」「ほぼ満足」を合わせると45%が満足している。

地区別に見ると、計画的な市街地整備により地区周辺も含めた幹線道路の歩道整備等が充実している町田市郊外部や周南市において「満足」「ほぼ満足」の合計が54-57%と全体の満足度を上回っている。反対に、近隣の商店へのアプローチ道路や商店街通り等に歩道がない若しくは狭い状況が見られた新潟市郊外部と橿原市では、交通事故からの安全性に不安を覚えている割合が高い。



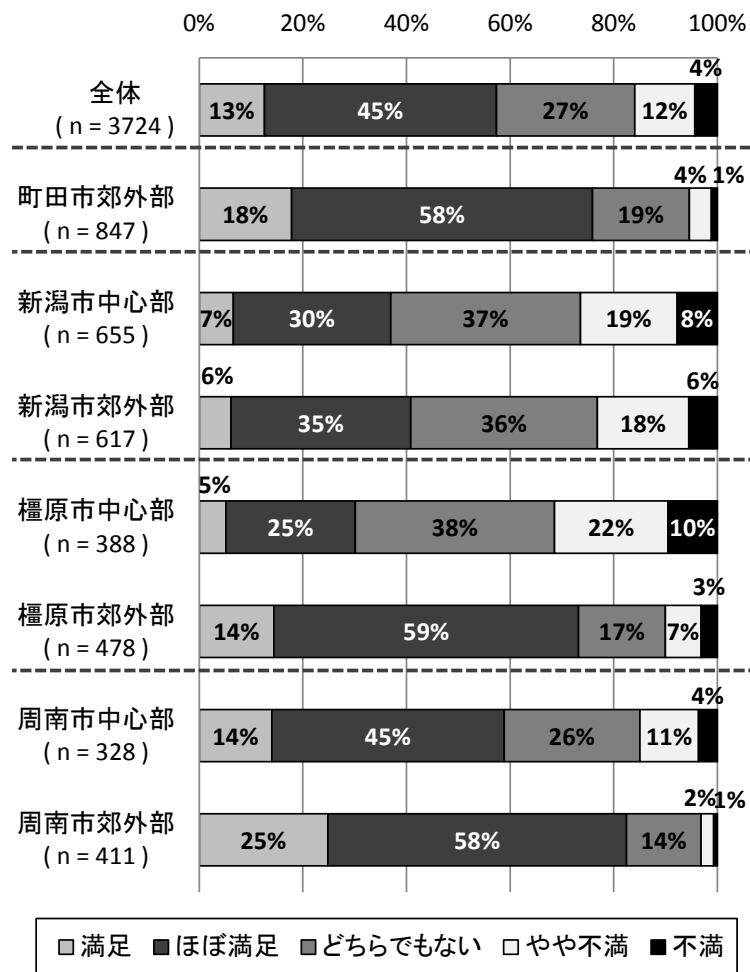
図IV-3-5 地区別に見た交通安全満足度

### 3.3 住まいの周辺環境に対する満足度

#### (1) 住まいの周辺の緑地に対する満足度

住まいの周辺の緑地に対して、全体の集計では「満足」「ほぼ満足」を合わせると 58% に達する。

地区別に見ると、中心部よりも郊外部で「満足」「ほぼ満足」の割合が高い。ただし、まとまった公園等が少ない新潟市郊外部では「満足」「ほぼ満足」の割合が低い。

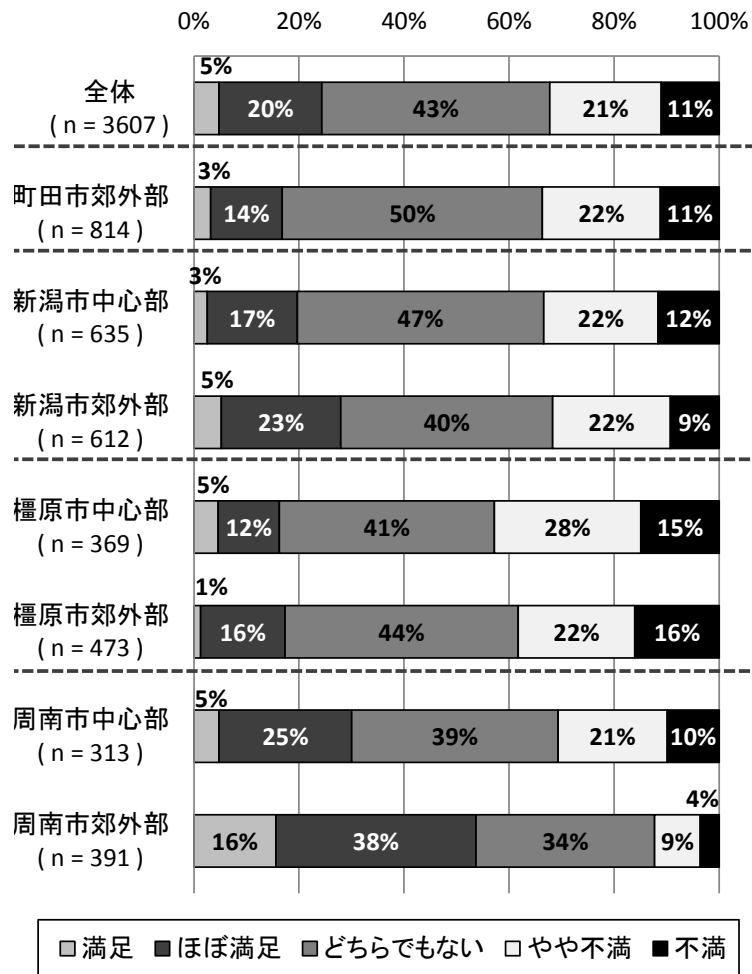


図IV-3-6 地区別に見た住まいの周辺の緑地に対する満足度

(2) 住まいの周辺の運動施設に対する満足度

住まいの周辺の運動施設に対して、全体の集計では「満足」「ほぼ満足」を合わせても25%と低い。

地区別に見ると、大規模な運動公園と市立体育施設が隣接する周南市郊外部では「満足」「ほぼ満足」を合わせると54%と他地区と比較して非常に高い。



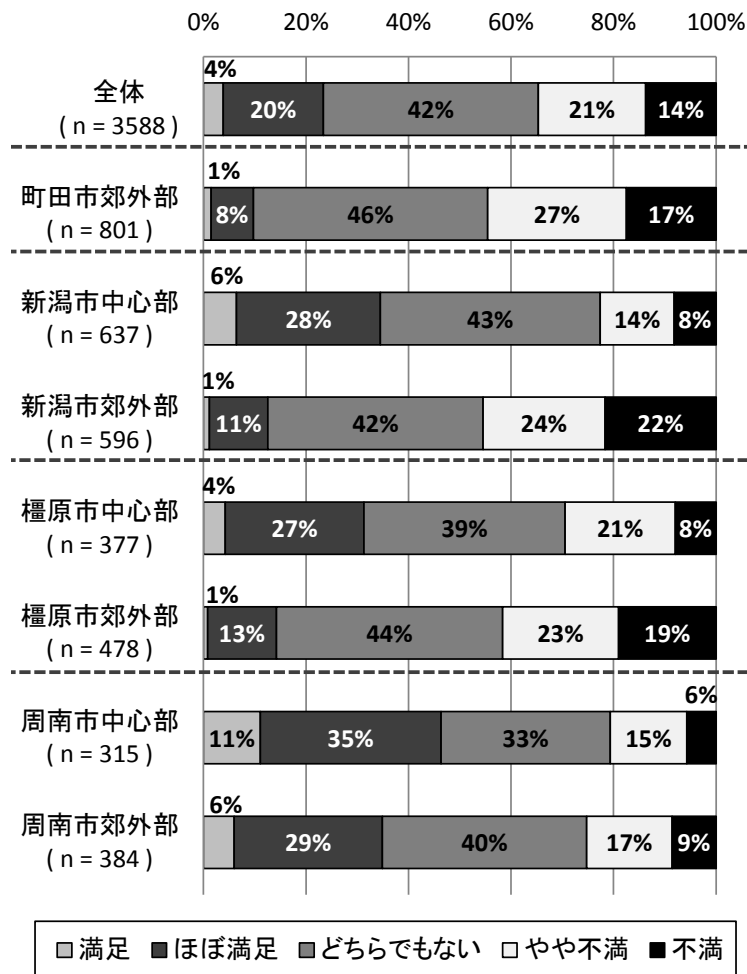
図IV-3-7 地区別に見た住まいの周辺の運動施設に対する満足度



### (3) 住まいの周辺の芸術・文化施設に対する満足度

住まいの周辺の芸術・文化施設に対して、全体の集計では「満足」「ほぼ満足」を合わせても24%と低い。

地区別に見ると、各市中心部には芸術・文化施設が地区内または周辺に立地しているため比較的高い満足度が得られている。郊外部のなかでも周南市郊外部は中心市街地から近いこともあり、比較的満足度が高い。

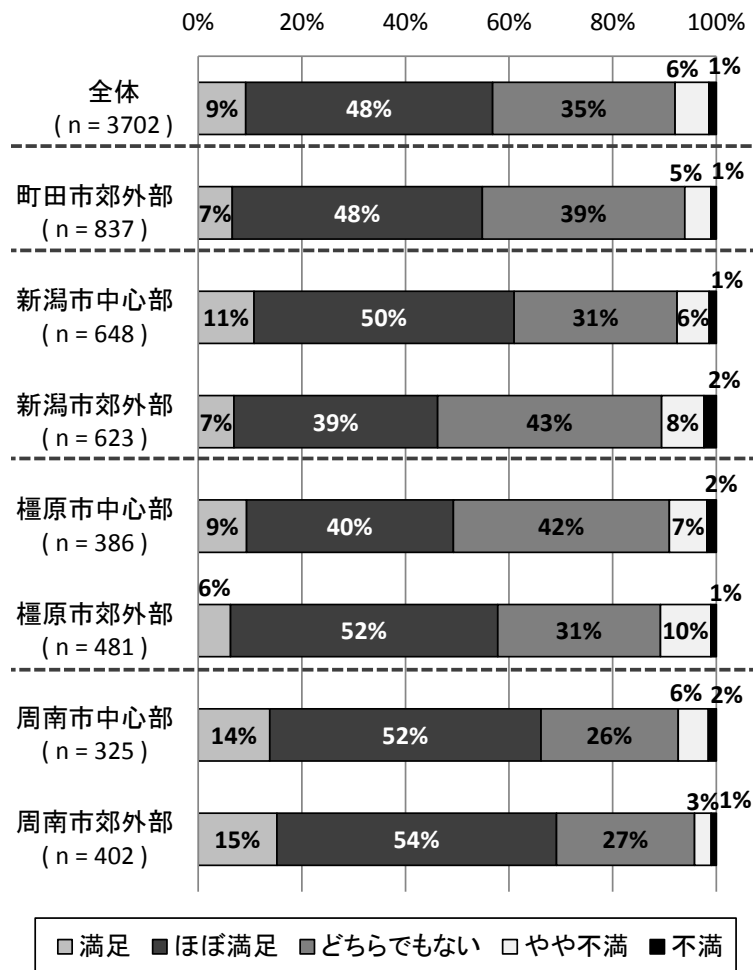


図IV-3-8 地区別に見た住まいの周辺の芸術・文化施設に対する満足度

#### (4) 治安満足度

治安について、全体の集計では「満足」「ほぼ満足」を合わせて57%に達する。

地区別に見ると、各地区ともおおむね半数以上が「満足」または「ほぼ満足」と評価している。ただし、新潟市郊外部と橿原市中心部については比較的満足度が低くなっている。これらの地区は、いずれも防犯活動満足度(3.4(3)参照)が低い地区であり、地域活動の状況が地域の治安満足度に関連していると思われる。

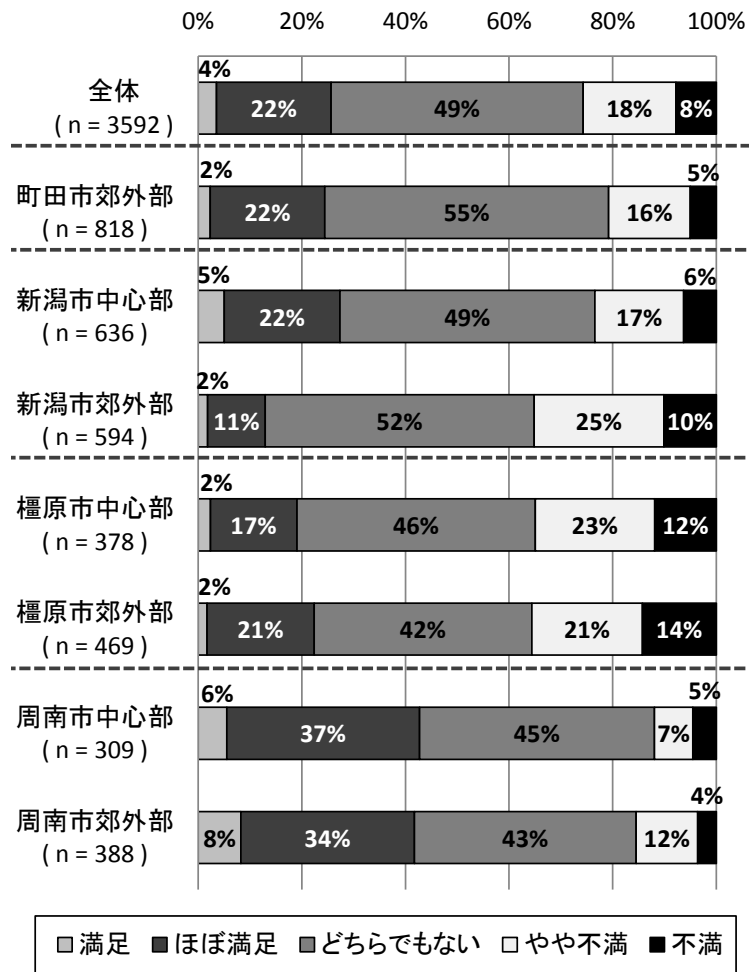


図IV-3-9 地区別に見た地域の治安満足度

(5) 道路、公共施設のバリアフリー化に対する満足度

道路、公共施設のバリアフリー化について、全体では「満足」の割合が非常に低い。

地区別に見ると、周南市の2地区で「満足」と「ほぼ満足」の合計が43%、42%と比較的高くなっている。この2地区は交通安全満足度（3.2(2)参照）も高く、道路の整備水準が高いことが伺える。



図IV-3-10 地区別に見た道路、公共施設のバリアフリー化に対する満足度

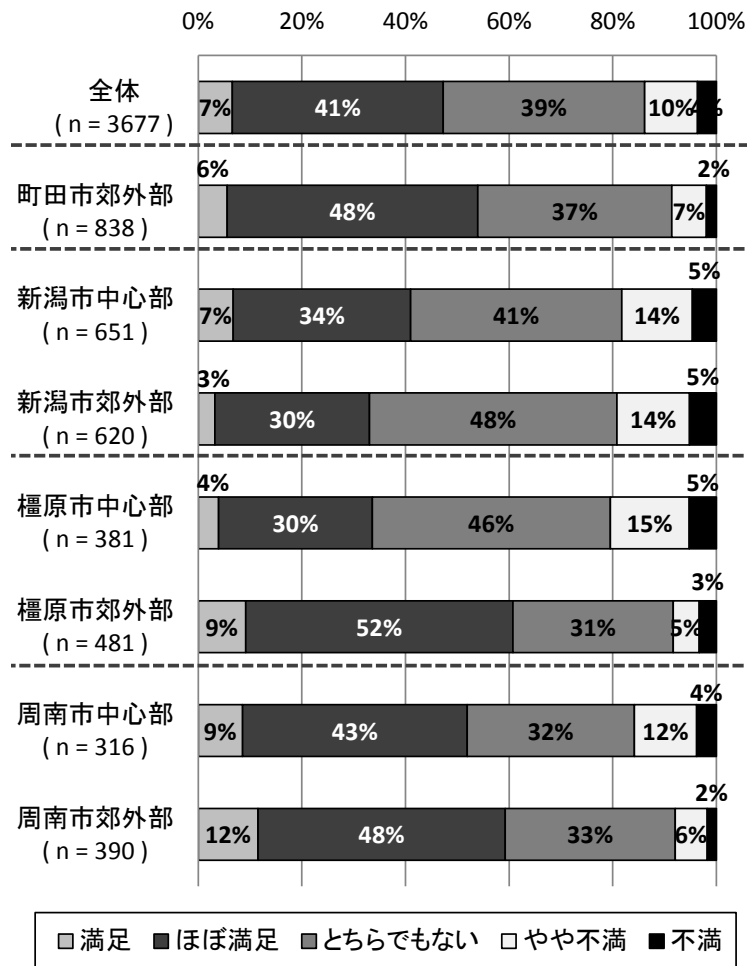
(6) まちなみや景観に対する満足度

まちなみや景観について、全体では「満足」「ほぼ満足」の合計が約半数に達する。

地区別に見て満足度が高いのは、計画的に整備された戸建て住宅地としての環境が保全されている檀原市郊外部（「満足」「ほぼ満足」で61%）および周南市郊外部（同じく60%）である。

一方、新潟市郊外部や檀原市中心部などでは「満足」「ほぼ満足」を合わせた割合が33～34%にとどまっている。

また、昔からの商店街としての街並みが残る新潟市中心部や戦後間もなく行われた土地区画整理事業で整備された道路網を持つ周南市中心部は中間的な満足度を示している。



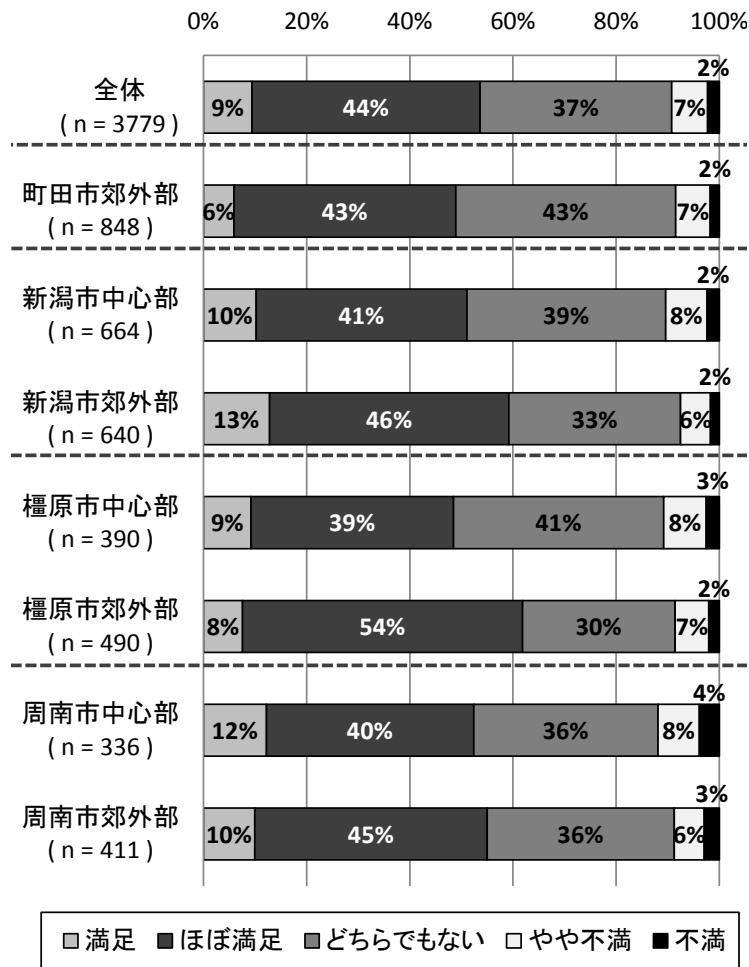
図IV-3-11 地区別に見たまちなみや景観に対する満足度

### 3.4 地域コミュニティと住民活動に対する満足度

#### (1) 近所づきあいに対する満足度

近所づきあいに対して、全体では「満足」「やや満足」の合計が53%に達する。

地区別に見ると、各市ともに郊外部の方が「満足」「ほぼ満足」と評価している割合が高い。これらの地区は、いずれも地域活動満足度（3.4(4)参照）も高い地区である。

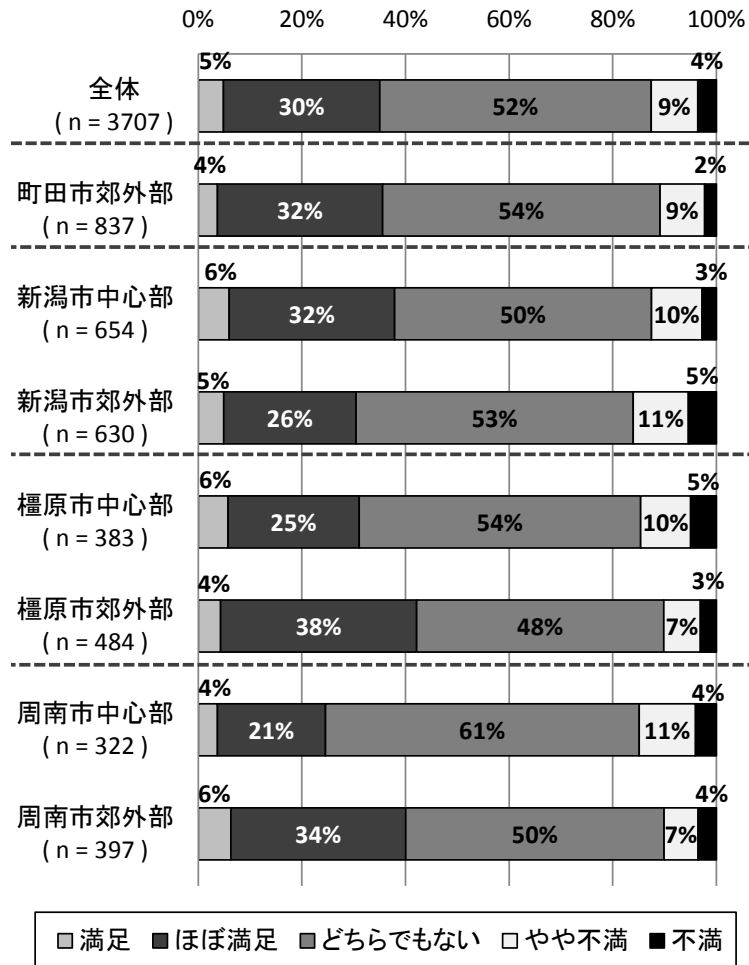


図IV-3-12 地区別に見た近所づきあいに対する満足度

(2) 防災活動満足度

防災活動について、全体では「満足」「ほぼ満足」を合わせると35%となる。

地区別に見ると、「満足」「ほぼ満足」の割合は、新潟市では中心部、橿原市や周南市では郊外部の方が高くなっている。

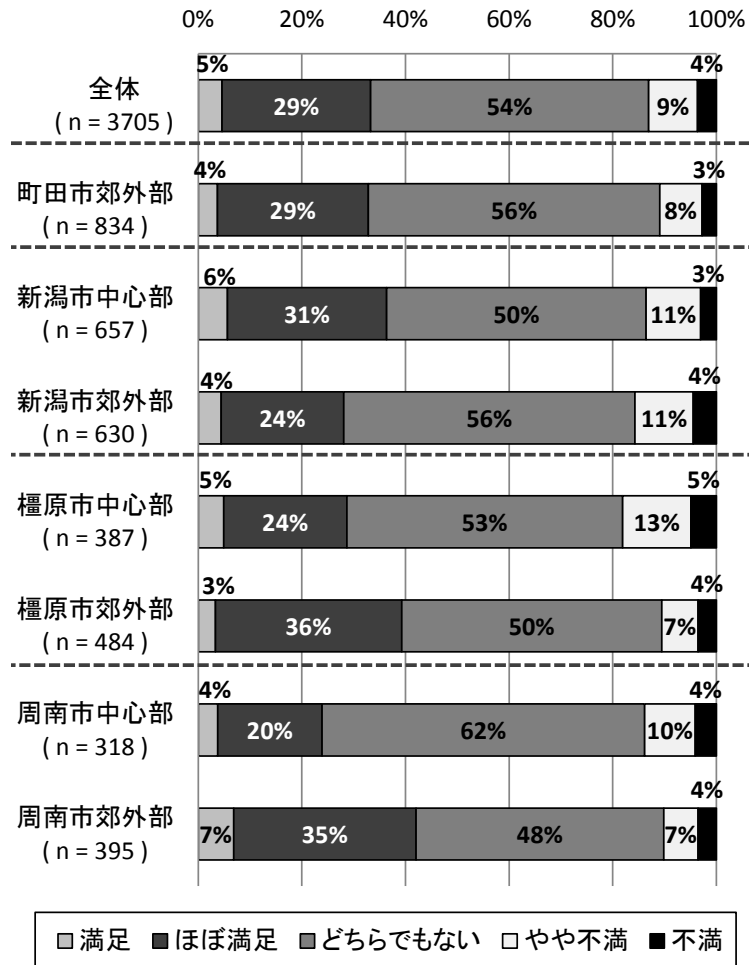


図IV-3-13 地区別に見た防災活動満足度

### (3) 防犯活動満足度

防犯活動について、全体では「満足」「ほぼ満足」を合わせると34%となる。

地区別に見ると、3.4(2)と同様に「満足」「ほぼ満足」の割合が、新潟市では中心部、  
 橿原市や周南市では郊外部の方が高くなっている。

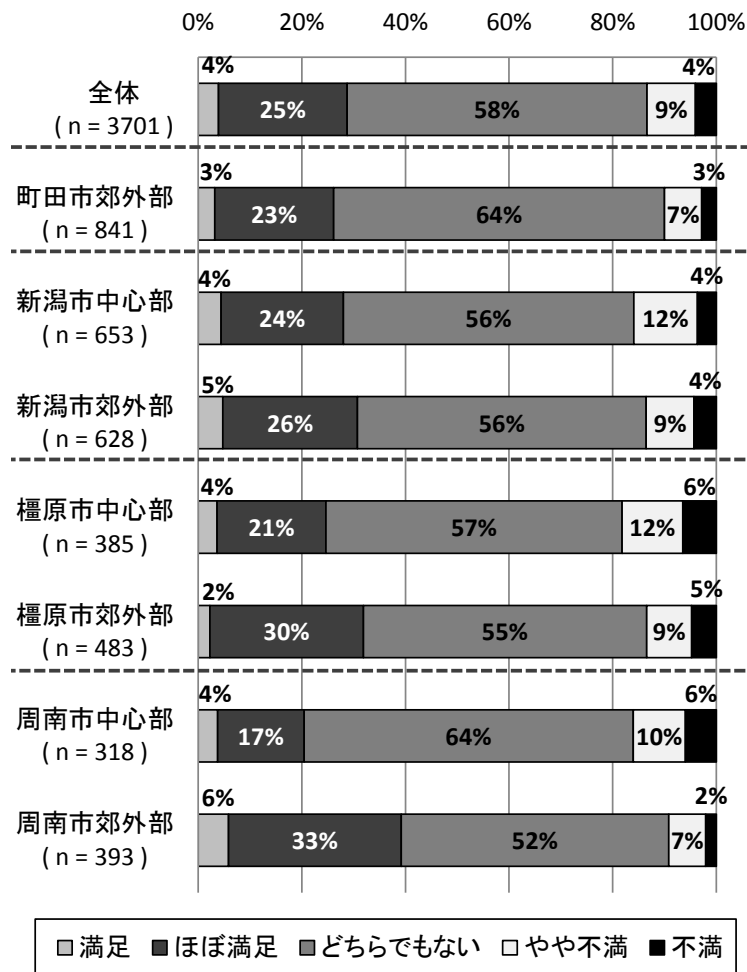


図IV-3-14 地区別に見た防犯活動満足度

#### (4) 地域活動満足度

地域活動満足度について、全体では「どちらでもない」が58%を占めており、「満足」「ほぼ満足」の合計は29%である。

地区別に見ると、中心部よりも郊外部の方が満足度が高く、特に、周南市では「満足」「ほぼ満足」の合計の差が約18%となっている。



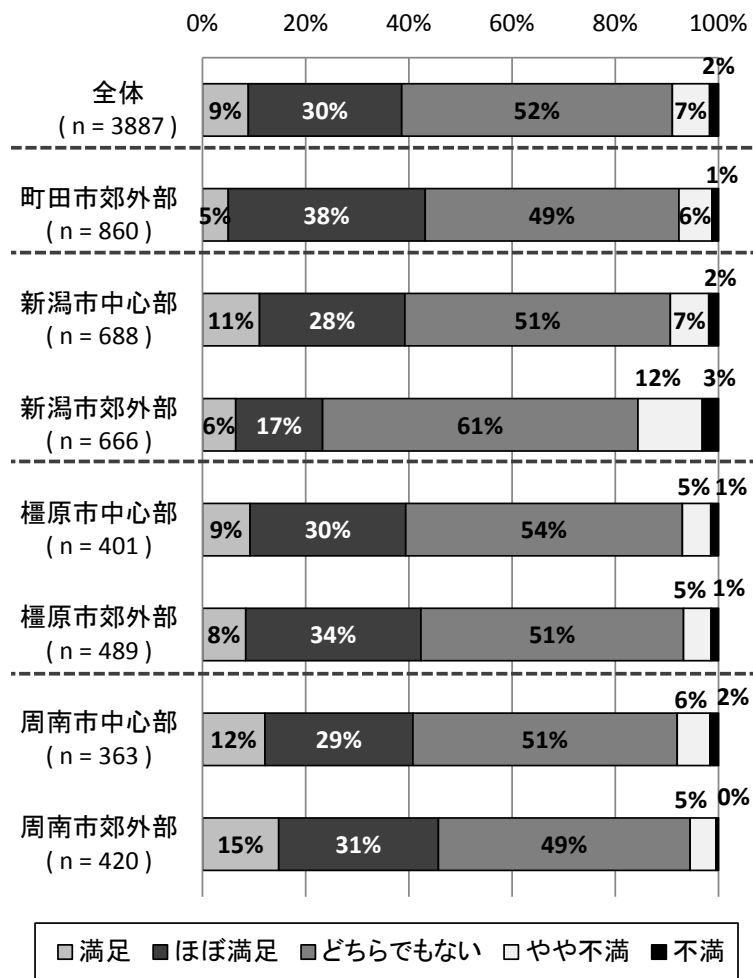
図IV-3-15 地区別に見た地域活動満足度



### 3.5 地域環境総合満足度

#### (1) 地域環境総合満足度の割合

地域環境総合満足度について、全体では「満足」「ほぼ満足」の合計が39%である。地区別に見ると、新潟市郊外部のみ満足度が低い。次頁で見るように、総合満足度は、「地域の治安の良さ」「まちなみや景観」などとの相関が強いが、新潟市郊外部ではこれらの評価が低かったことが影響していると考えられる。



図IV-3-16 地区別に見た地域環境総合満足度

## (2) 地域環境総合満足度と各項目との相関係数

地域環境総合満足度との相関が高い項目は、「防犯のための地域の取り組み」、「地域の治安の良さ」、「防災のための地域の取り組み」といった安全・安心に関する項目となっている。特に新潟市中心部や周南市郊外部では、「防犯のための地域の取り組み」や「地域の治安の良さ」の相関係数が他の地区よりも高くなっている。

また、「住まい周辺の緑地」「公共交通の利便性」「住まい周辺の運動施設」の相関係数は低く、地域環境総合満足度につながりにくいと言える。

表IV-3-1 地区別に見た地域環境総合満足度と各項目との相関係数

	全体	町田市 郊外部	新潟市 中心部	新潟市 郊外部	橿原市 中心部	橿原市 郊外部	周南市 中心部	周南市 郊外部
防犯のための地域の取組	0.483	0.465	<b>0.494</b>	0.491	<b>0.523</b>	0.491	0.373	<b>0.523</b>
地域の治安の良さ	0.483	0.456	<b>0.559</b>	0.403	0.453	0.453	<b>0.511</b>	<b>0.503</b>
防災のための地域の取組	0.460	0.444	0.457	<b>0.480</b>	<b>0.514</b>	0.418	0.387	<b>0.510</b>
まちなみや景観	0.452	0.453	<b>0.455</b>	0.399	0.404	0.402	<b>0.537</b>	<b>0.496</b>
地域活動の活発さ	0.450	0.444	0.422	<b>0.528</b>	<b>0.455</b>	0.428	0.380	<b>0.528</b>
医療施設の利便性	0.443	<b>0.446</b>	<b>0.470</b>	<b>0.478</b>	0.426	0.319	0.402	0.393
近所づきあい	0.422	0.408	0.424	0.415	0.410	<b>0.450</b>	<b>0.465</b>	<b>0.525</b>
日常的な買い物の利便性	0.417	<b>0.452</b>	<b>0.465</b>	0.407	<b>0.426</b>	0.336	0.422	0.369
福祉施設の利便性	0.415	0.408	<b>0.453</b>	<b>0.441</b>	0.316	0.375	0.387	<b>0.443</b>
道路・公共施設のバリアフリー化	0.406	0.377	<b>0.443</b>	0.343	0.354	0.335	<b>0.504</b>	<b>0.484</b>
交通事故からの安全性	0.396	0.329	<b>0.442</b>	0.385	<b>0.416</b>	0.357	<b>0.409</b>	0.405
住まい周辺の芸術・文化施設	0.376	0.348	<b>0.435</b>	0.307	<b>0.422</b>	0.329	0.371	<b>0.403</b>
住まい周辺の緑地	0.375	0.353	0.388	0.370	0.303	<b>0.397</b>	<b>0.423</b>	<b>0.445</b>
公共交通の利便性	0.365	0.312	<b>0.413</b>	<b>0.366</b>	<b>0.362</b>	0.348	0.359	0.270
住まい周辺の運動施設	0.342	0.314	<b>0.418</b>	<b>0.375</b>	0.302	0.267	0.321	<b>0.425</b>

※各項目で上位3地区の値に下線

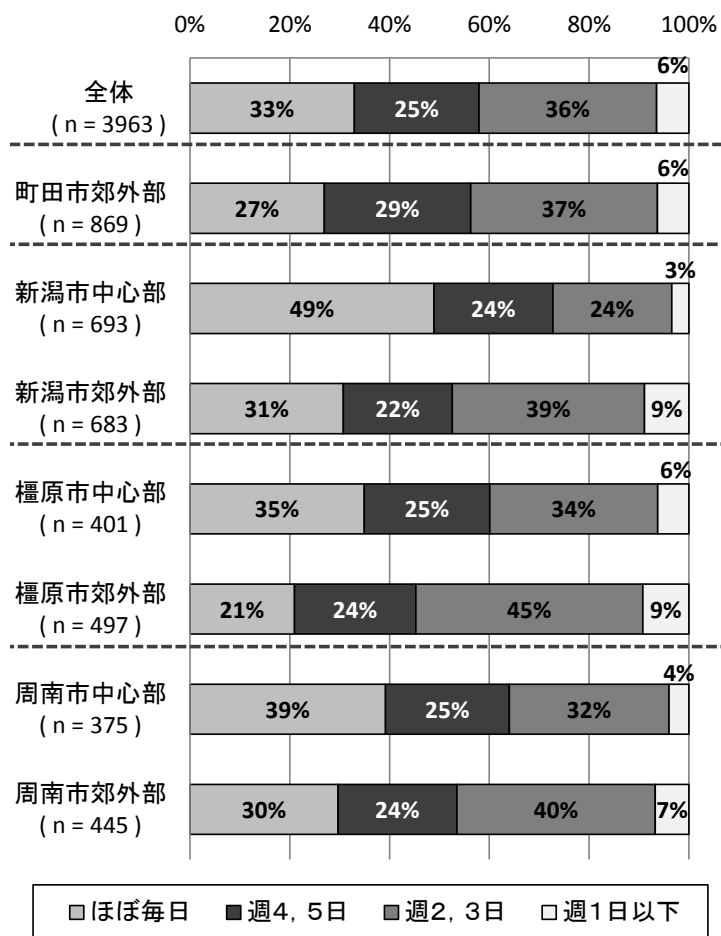
## 4. 地区別に見た買い物行動

日常的な食料品店等への買い物行動について、その頻度や交通手段、店舗及び周辺の魅力などへの評価、総合的な満足度を地区別に集計する。

### 4.1 買い物頻度

買い物頻度について、全体の集計では「週 2, 3 日」が 36%でやや多いものの、「ほぼ毎日」が 33%、「週 4, 5 日」が 25%と、この 3 択でほぼ拮抗している。

地区別に見ると、新潟市中心部では「ほぼ毎日」が 49%と半数を占めている。これを筆頭に各市とも郊外部よりも中心部の方が「ほぼ毎日」買い物に出かける割合が高い。郊外部で最も多いのは「週 2, 3 日」であり、「週 1 日以下」の割合も比較的多い。特に橿原市郊外部では「ほぼ毎日」食料品店に買い物に行く割合は 21%と全地区で最も低くなっている。



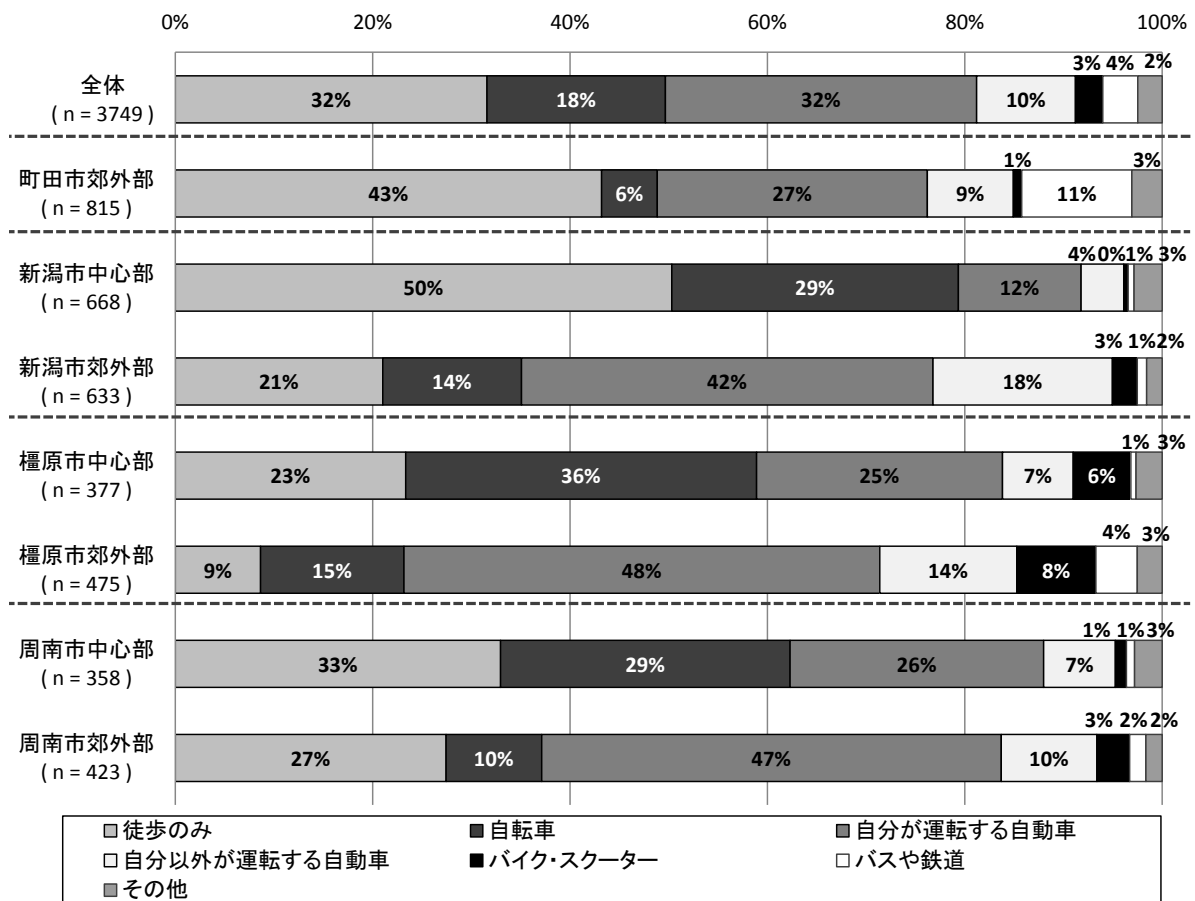
図IV-4-1 地区別に見た買い物頻度

## 4.2 最もよく利用する食料品店までの交通手段

最もよく利用する食料品店までの交通手段については、全体の集計では「徒歩」と「自分で運転する自動車」がともに32%で、次いで「自転車」が18%を占めている。

地区別に見ると、地区ごとの差が明確に出ている。新潟市中心部と町田市郊外部、周南市中心部では「徒歩」が最も多く、榊原市中心部では「自転車」が多くなっている。これは、近隣の商店街や店舗の集積状況や地形などを反映しているものと考えられる。

また、地方都市の郊外部はいずれも「自分が運転する自動車」が最も多い。これら郊外部の地区では「自分が運転する自動車」と「自分以外が運転する自動車」を合わせると自家用車を利用している割合が約6割である。

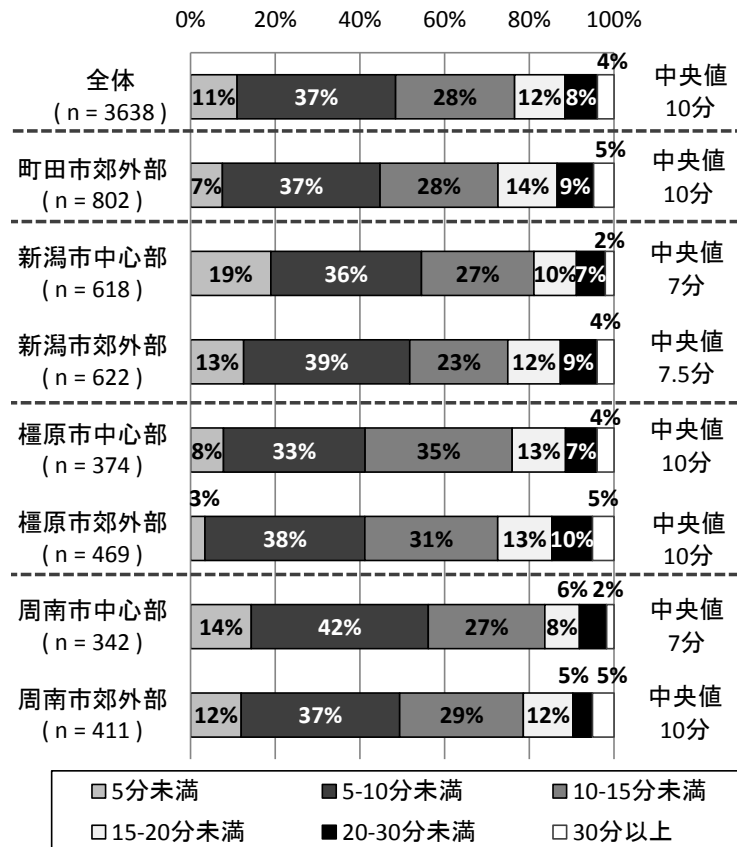


図IV-4-2 地区別に見た食料品店までの交通手段の割合

※「その他」には、「車いす、電動車いす」「タクシー」「店舗の送迎バス」を含む

### 4.3 最もよく利用する食料品店までの所要時間

地区別に比較すると、中心部よりも郊外部の方が最もよく利用する食料品店までの所要時間が長い傾向が見られる。例えば 15 分未満の割合で比較すると、新潟市では中心部が 82%、郊外部が 75%、橿原市では中心部が 76%、郊外部が 72%、周南市では中心部が 83%、郊外部が 78%となっている。



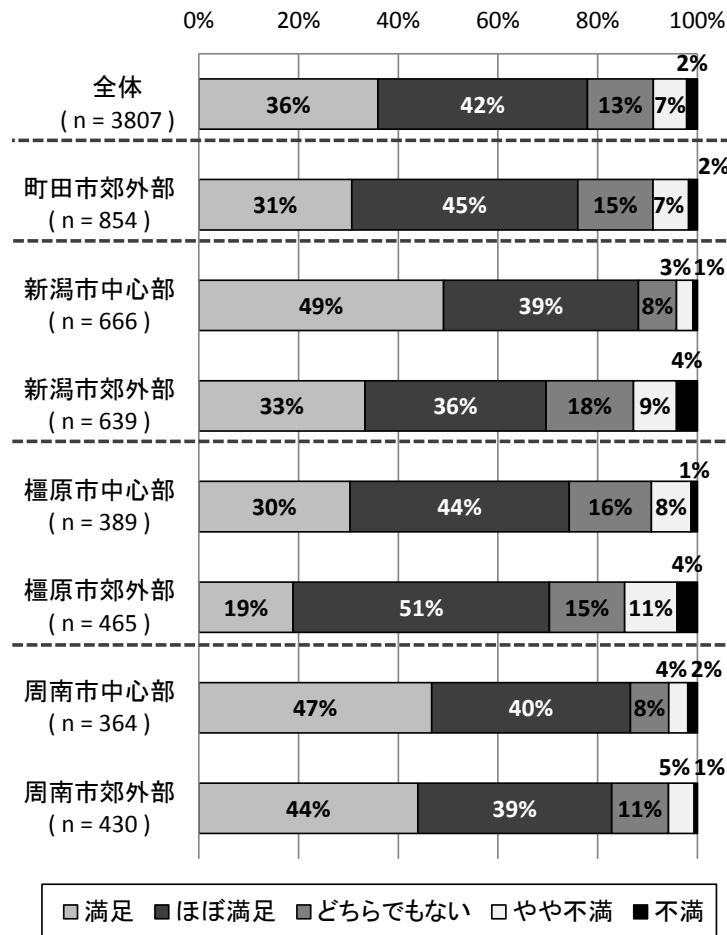
図IV-4-3 地区別に見た食料品店までの所要時間の割合

#### 4.4 地区別に見た最もよく利用する食料品店の項目別の満足度

##### (1) 自宅からの距離に対する満足度

自宅からの距離に対する満足度は、全体で見ると「満足」と「やや満足」を合わせて78%が満足している。

地区別に見ると、新潟市中心部や周南市中心部では「満足」のみで約半数を占めている。一方で、同様に徒歩利用が最も多かった町田市郊外部では「満足」の割合が31%とやや低くなっている。

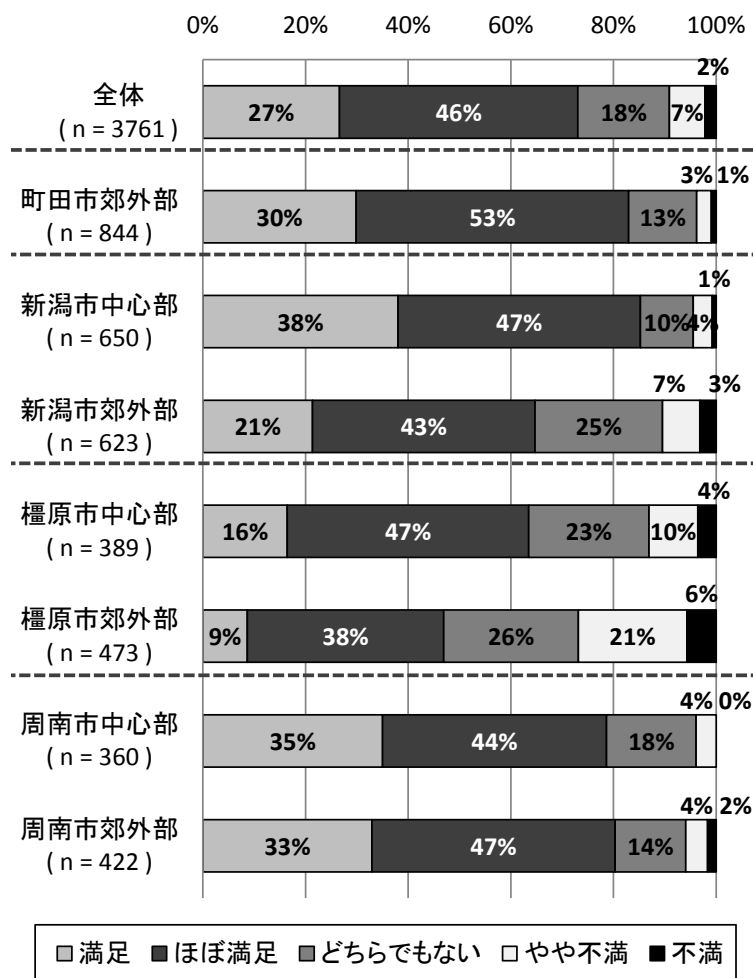


図IV-4-4 地区別に見た自宅からの距離に対する満足度

## (2) 自宅からの経路や店舗周辺の安全性に対する満足度

自宅からの経路や店舗周辺の安全性に対する満足度は、全体で「満足」、「やや満足」を合わせて73%が満足している。

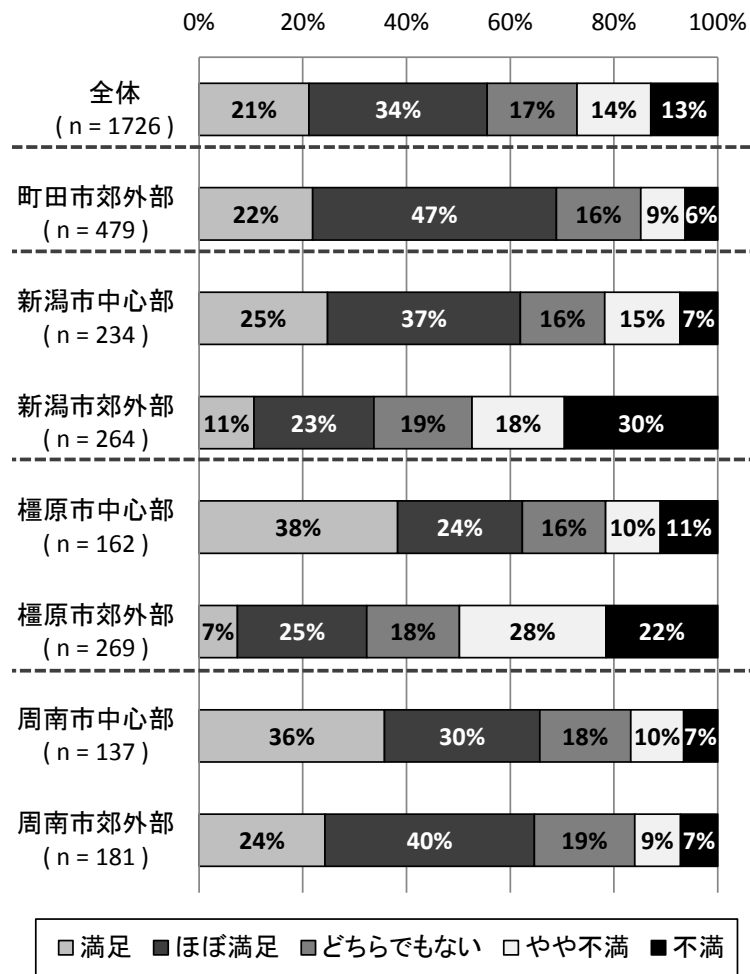
地区別に見ると、特に橿原市郊外部では、「不満」「やや不満」を合わせると27%の不満が示されている。これは、橿原市郊外部の対象地区では、地区住民が最もよく利用する食料品店が地区外にあり、そこまでの道路に十分な歩道がないことなどを反映している。



図IV-4-5 地区別に見た自宅からの経路や店舗周辺の安全性に対する満足度

### (3) バス・鉄道など公共交通の利便に対する満足度

バス・鉄道など公共交通の利便に対する満足度では、地区内に鉄道駅とバスターミナルを持つ檀原市中心部と周南市中心部で「満足」の割合が38%、36%と高い。バスの利便性が高い町田市郊外部では「満足」「ほぼ満足」を合わせた割合が最も高くなっている。



図IV-4-6 地区別に見たバス・鉄道など公共交通の利便に対する満足度

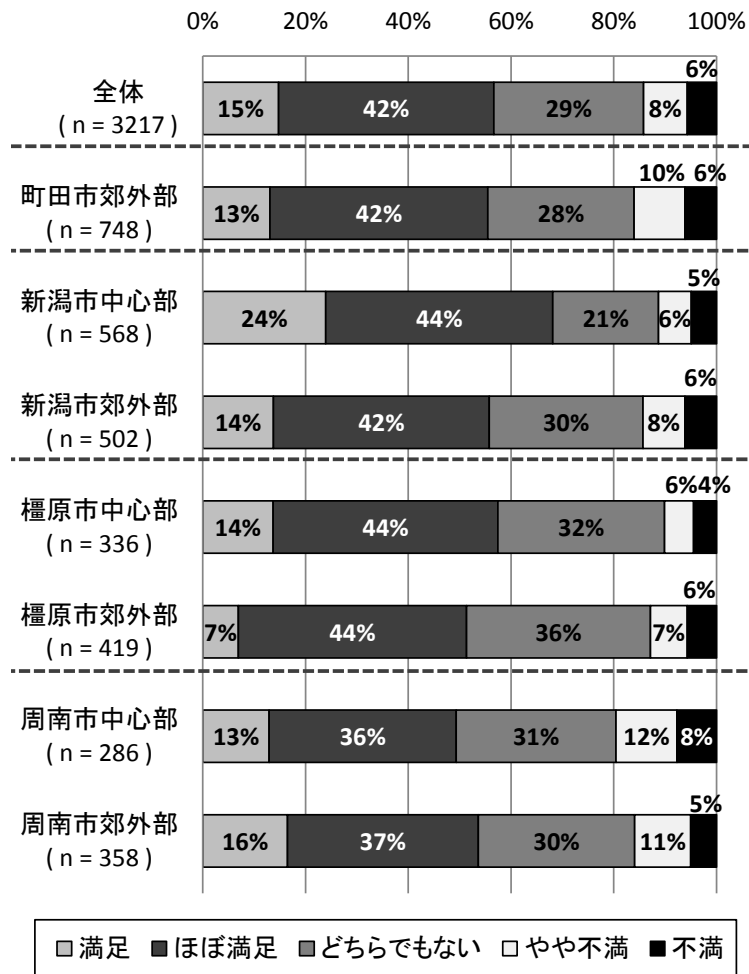
※「当てはまらない」の回答者を除いた集計値



(4) ついでに立ち寄る場所の多さに対する満足度

ついでに立ち寄る場所の多さに対して、全体の集計で「満足」「ほぼ満足」を合わせて57%が満足と評価している。

地区別に見ると、ほとんどの地区で「満足」「ほぼ満足」を合わせて50%前後なのに対し、商業集積が大きい新潟市中心部は約7割と最も高い。

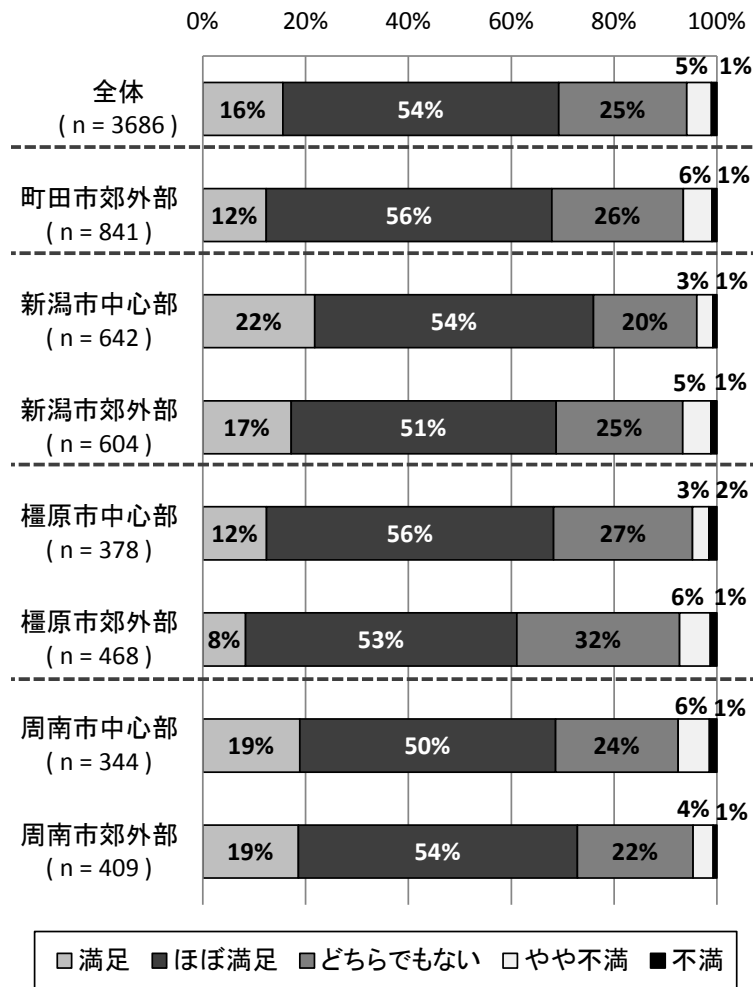


図IV-4-7 地区別に見たついでに立ち寄る場所の多さに対する満足度

(5) 店舗の雰囲気や周辺の街並みに対する満足度

店舗の雰囲気や周辺の街並みに対して、全体の集計では「満足」「ほぼ満足」を合わせると70%が満足と評価している。

地区別に見ると、商業集積が大きい新潟市中心部でこの数字が76%と高く、次いで周辺にロードサイド型のショッピングセンターを多く持つ周南市郊外部が73%となっている。橿原市は他市と比べて「満足」の割合がやや低い。

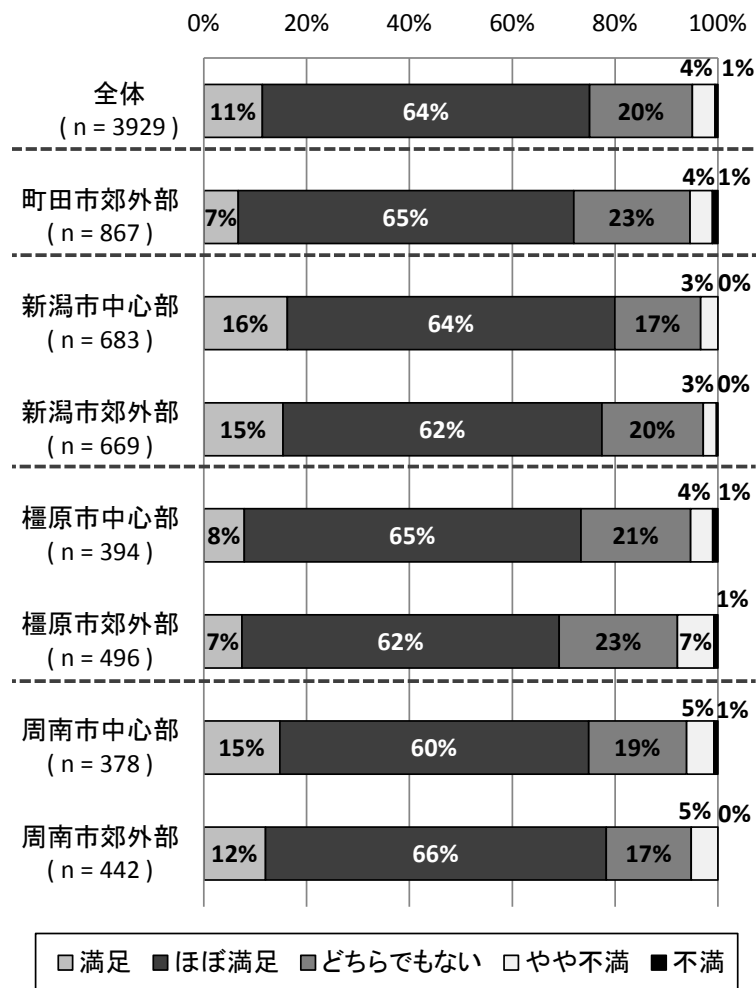


図IV-4-8 地区別に見た店舗の雰囲気や周辺の街並みに対する満足度

(6) 食料品店の総合満足度

食料品店の総合満足度について、全体では「満足」「ほぼ満足」の合計が75%を占めている。

地区別に見ると、商業集積が大きい新潟市中心部の満足度が80%と高く、次いで周南市郊外部が78%となっている。



図IV-4-9 地区別に見た食料品店の総合満足度

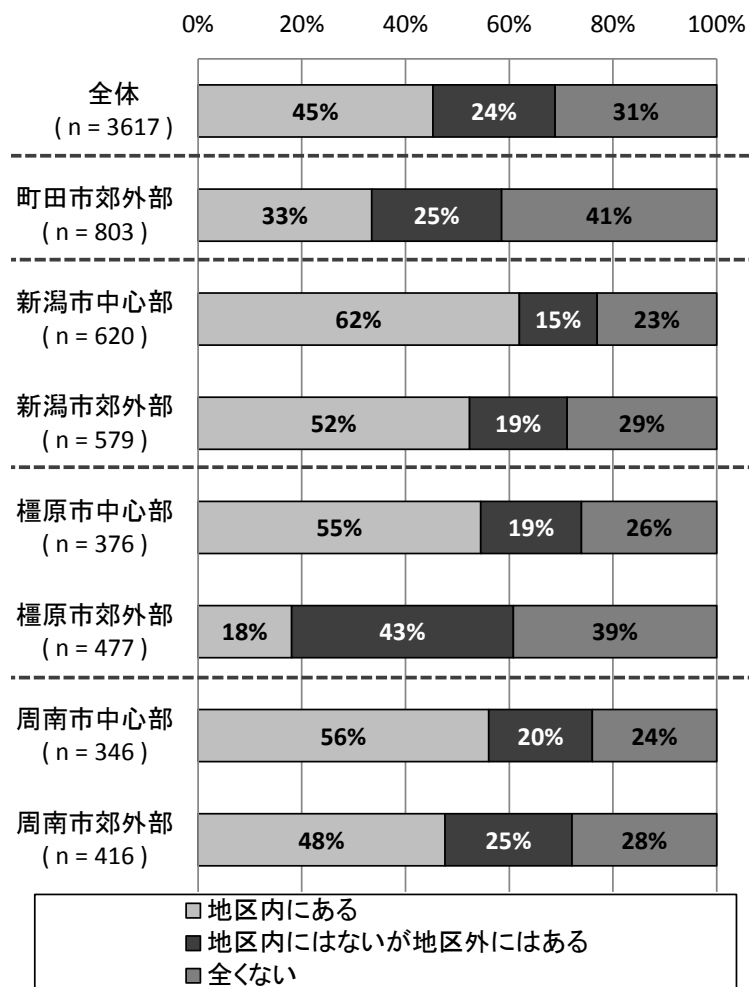
## 5. 地区別に見た気軽に足を運べる場所（居場所）

特に予定がなくても気軽に足を運べる場所である「居場所」について、その特徴や利用頻度などを地区別に集計する。

### 5.1 居場所の有無

居場所の有無について、どの地区でも 6～8 割が居場所がある（「地区内にある」「地区内にはないが地区外にはある」と回答している）。

地区別に見ると、郊外部よりも中心部の方が「地区内にある」割合が高い。特に新潟市中心部では「地区内にある」割合が 62%である。一方、橿原市郊外部では地区内に居場所を持つ人は 18%とわずかである。新潟市郊外部では他市の中心部と同程度の人が地区内に居場所を持っている。



図IV-5-1 地区別に見た居場所の有無

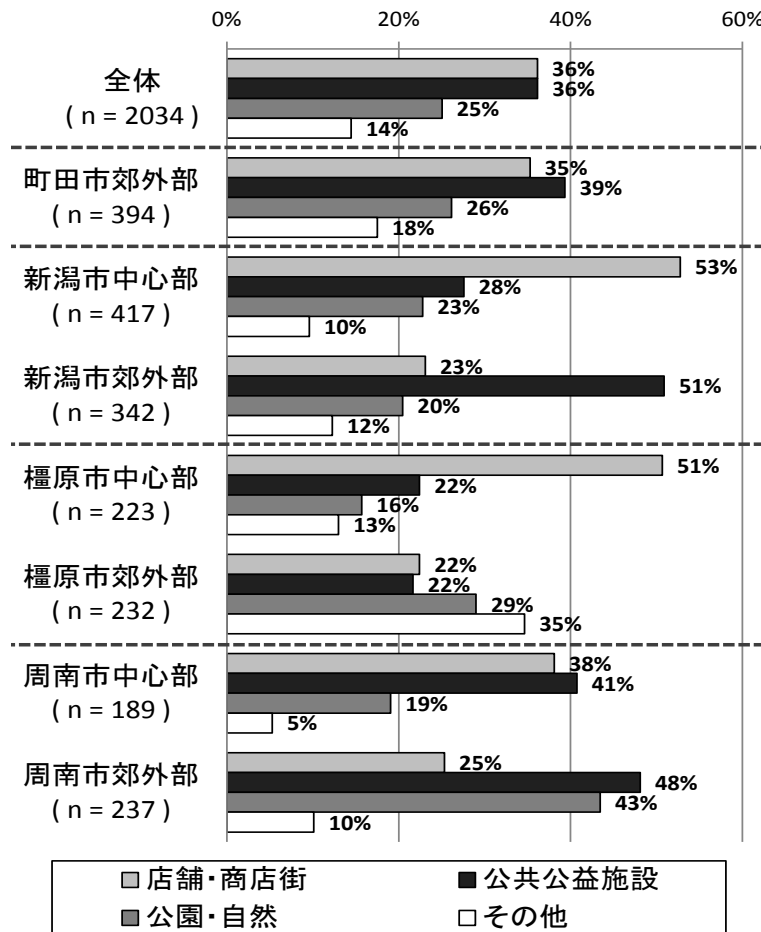
## 5.2 居場所の分類とその利用状況

### (1) 居場所の分類

自由記述で回答してもらった名称から、居場所を「店舗・商店街」「公共公益施設」「公園・自然」「その他」の4種類に分類整理した。

地区別に見ると、それぞれの地区特性を反映した傾向が見られた。特に喫茶店やカフェ、書店など店舗の集積がみられる新潟中心部と榎原中心部では「店舗・商店街」が半数を占めている。新潟市郊外部で「公共公益施設」が半数を占めているのは、商店街が空き店舗を活用して開設・運営している居場所を挙げる人が多かったことによる（居場所が「地区内にある」という回答者303人のうち39名（13%））。

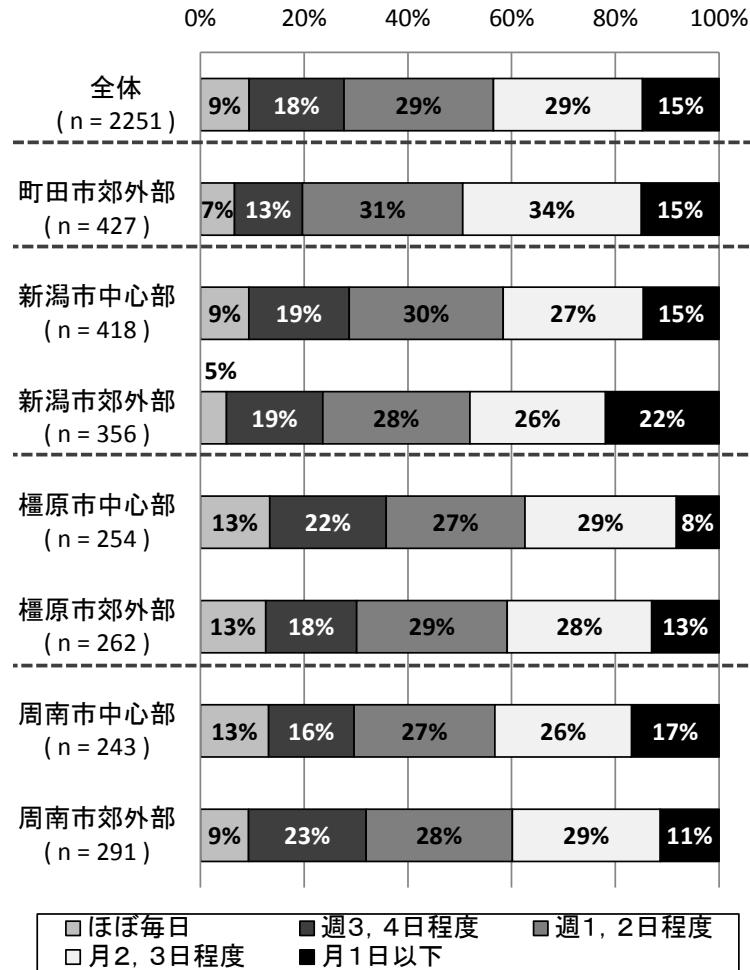
周南市郊外部では地区内外に整備されている大規模な公園や緑地、運動施設などがあることから、「公園・自然」が他地区より多い。榎原市郊外部の「その他」には近隣の神社仏閣や知人・友人宅などが多く含まれていた。



図IV-5-2 地区別に見た居場所の分類

(2) 居場所に行く頻度

居場所に行く頻度については、全体では居場所を「ほぼ毎日」利用している人が1割程度、「週3,4日程度」が約2割、「週1,2日程度」が約3割である。町田市郊外部では、「ほぼ毎日」と「週3,4日程度」の合計が2割と、利用頻度が比較的低い。

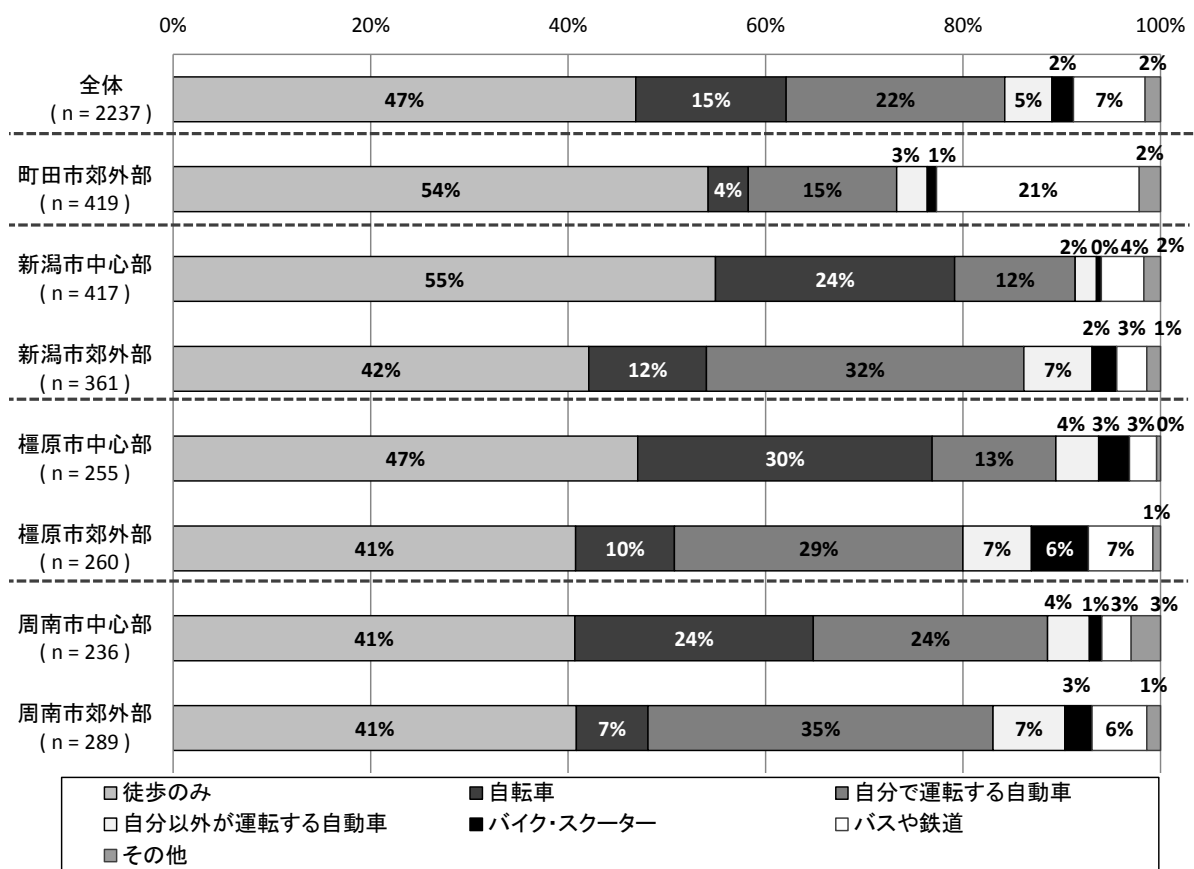


図IV-5-3 地区別に見た居場所に行く頻度

### (3) 居場所に行く交通手段

居場所に行く交通手段について、全体の集計では「徒歩のみ」が47%と多く、次いで「自分で運転する自動車」が22%となっている。

地区別に見ても、7地区全てで「徒歩のみ」が最も多い。特に、日常の買い物でも徒歩が多い新潟市中心部や町田市郊外部では半数以上が「徒歩のみ」である。買い物でも「自転車」が多かった榎原中心部では、居場所に行く交通手段でも他地区に比べて多い。新潟市、榎原市、周南市のいずれの郊外部でも「自分で運転する自動車」が「徒歩のみ」に次いで多く約3割を占める。

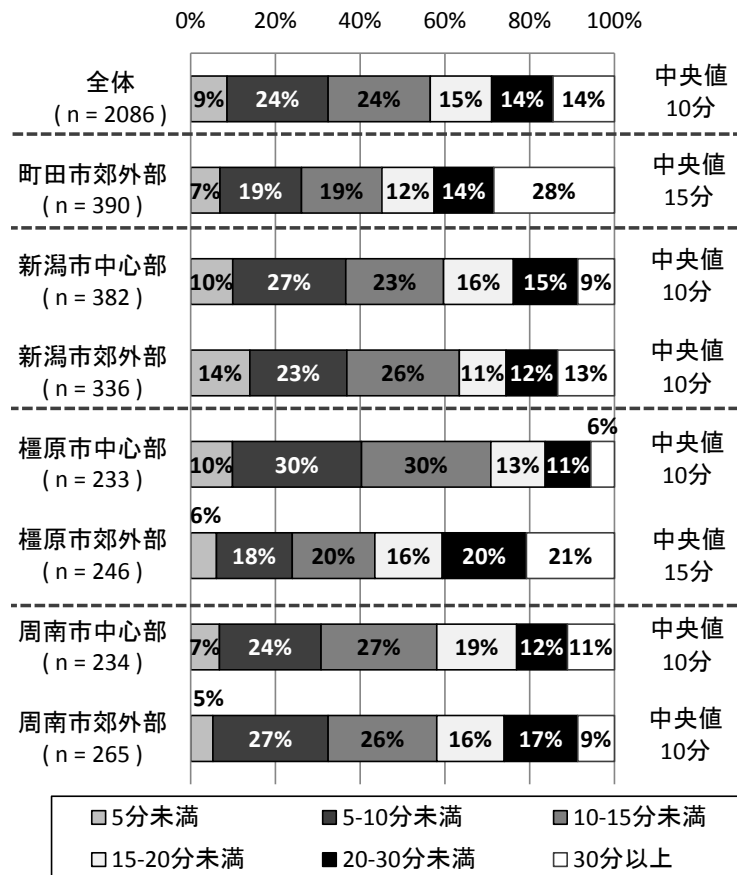


図IV-5-4 地区別に見た居場所に行く交通手段

※「その他」は、「車いす、電動車いす」「タクシー」「施設の送迎バス」を含む

#### (4) 居場所までの所要時間

居場所までの所要時間について地区別に見ると、町田市郊外部や橿原市郊外部で 15 分未満の割合が 45%前後と低いことから、居場所となっている場所が比較的遠くにある傾向がうかがえる。一方、新潟市郊外部では 15 分未満の割合が市中心部よりも高くなっている。周南市では中心部と郊外部では所要時間に大きな違いが見られない。



図IV-5-5 地区別に見た居場所までの所要時間

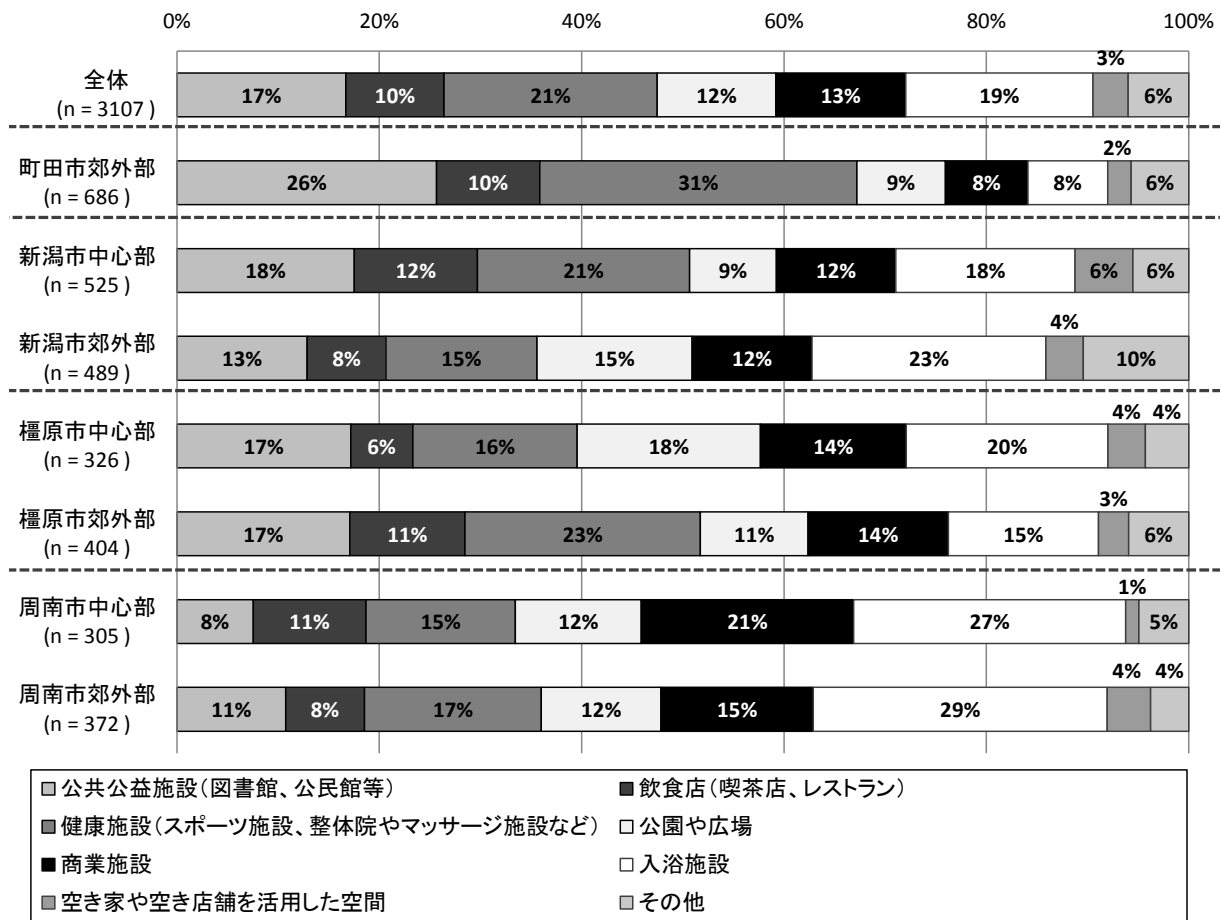


#### (4) 居場所としてあればよいと思うもの

居場所としてあればよいと思うものを聞いたところ、全体では「健康施設」「入浴施設」「公共公益施設（図書館、公民館等）」を挙げた割合が比較的高い。

地区別に見ると、周南市中心部で「商業施設」が求められているのは、調査実施時期に、地区内の百貨店の閉店が決まっていたことなどが理由だと考えられる。

「健康施設」は町田市郊外部で要望が高い。



図IV-5-6 地区別に見た居場所としてあればよいと思うものの割合

## 6. 地区別分析のまとめと考察

地区別分析を通じて分かった、地区特性による高齢者の生活行動の差異を整理し、差異が生じる要因について考察する。章末に対象地区の諸元を整理する。

### 〈外出頻度〉

- ・ 各市とも中心部の方が「ほぼ毎日」外出している割合が高い。中心市街地からの距離が遠い新潟市郊外部では「ほぼ毎日」外出する割合が他地区より低く、「週 2,3 日程度」の割合が 28% と高い。
- ・ 新潟市郊外部では自動車を 2 台以上所有する割合が高い。周南市郊外部と各市中心部では自動車を持たない人や免許を返納した人が多い。

### 〈社会的関わり〉

- ・ 町田市郊外部では「毎日会話する」割合が 18% と他地区より低い。
- ・ 地域活動に参加する割合は、地方中小都市の橿原市、周南市でやや高い。
- ・ 参加している活動内容を見ると、各地区の周辺環境や施設立地状況等が反映されている。  
→ 近隣に高齢者施設が立地する町田市郊外部と新潟市郊外部では「高齢者を対象とした活動」が多い。  
→ 大型公園や運動施設が近隣にある橿原市と周南市の郊外部ではスポーツ・文化系の活動が盛んである。  
→ 新潟市と橿原市の中心部ではまちづくりのための活動、周南市郊外部では自然や環境を守る活動への参加割合が高い。

### 〈地域生活の項目別満足度〉

- ・ 日常的な買い物の利便性に対する満足度では、新潟中心部が最も高い。周南市と橿原市の中心部、周南市郊外部も大きく変わらない。周南市郊外部は比較的中心市街地に近く、車で利用できる大規模ショッピングセンターやスーパーも多く便利である。新潟市及び橿原市郊外部で満足度が比較的低くなっている。
- ・ 医療施設の利便性に対する満足度は郊外部より中心部の方が高いが、地区内に大規模病院が立地する周南市郊外部は例外である。
- ・ 公共交通環境については、日中のバス便が少なく主要駅から離れている新潟市と橿原市郊外部の満足度が低い。
- ・ 交通安全については、地区内の多くの人が利用する食料品店の周りや商店街に歩道がない新潟市郊外部で最も満足度が低くなっている。
- ・ 緑地については、新潟市を除く郊外部での満足度が高い。一方、芸術・文化施設は各市中心部の満足度が高い。
- ・ 治安満足度は新潟市郊外部と橿原市中心部で比較的低い。これらの地区では住民の防犯

活動に対する満足度も低い。

- ・ 道路、公共施設のバリアフリー化に対する満足度は周南市の 2 地区で高い。この 2 地区は交通安全満足度も高い
- ・ 近所づきあいに対する満足度は中心部よりも郊外部の方が若干多い
- ・ 防災・防犯活動、地域活動については、地方中小都市の橿原市、周南市のいずれも郊外部の満足度が高い。
- ・ 地域環境に対して総合的に満足している割合は各地区とも 4 割程度である。新潟市郊外部は他地区よりも満足度がやや低い。

### 〈買い物行動の特徴〉

- ・ 買い物頻度は各市とも中心部の方が高い。
- ・ 最もよく利用する食料品店までの交通手段は、中心部は徒歩や自転車が多いが郊外部では自動車が主流となっている。
- ・ 自宅から店舗までの所要時間は各地区とも概ね 10 分である。店舗までの距離については、新潟市と周南市の中心部の満足度が高い。
- ・ 自宅からの経路では、地域の歩道の整備状況等を反映して橿原市郊外部、中心部、新潟市郊外部の満足度が低い。
- ・ ついでに立ち寄る場所の多さや周辺の街並み等については、新潟市中心部の満足度が最も高い。総合満足度も同地区が高いが、他地区でも 7 割以上が満足している。

### 〈居場所利用の特徴〉

- ・ 各地区とも 6～8 割が居場所があると回答している。各市とも中心部の方が地区内に居場所を持つ割合が高い。住宅以外の用途混在が少ない橿原市郊外部では、地区外に居場所を持つ人の割合が地区内の倍以上である。
- ・ 居場所の種別では、中心部では店舗・商店街が多いのに対し、郊外部では公共公益施設や公園・自然の割合が高い。
- ・ 居場所までの交通手段は各地区とも徒歩が 4～5 割と多いが、地方都市の郊外部では自動車も 3 割程度利用されている。

表IV-6-1 調査対象地区の概要一覧

地区名		主な店舗 (p. 5 の再掲)	主な居場所 (p. 5 の再掲)	買物行動	居場所利用
町田市	郊外部	地区内：団地センター 商店街とスーパー2 店 近隣：駅周辺に多様な 店舗集積	地区内：図書館、 老人福祉施設	徒歩と自動車利用が 多く、買物頻度は週 2,3 日が多い。	地区内の公共公益 施設(図書館)と地 区内・駅周辺の店 舗(喫茶店)が多い
	中心部	地区内：商店街と食料 品店 2 店 近隣：商店街と GMS	地区内：文化 施 設、公園 近隣：河川緑地	徒歩と自転車利用が 多く、買物頻度はほぼ 毎日が約半数。	地区内および周辺 の商店街利用が多 い
新潟市	郊外部	地区内：商店街と小規 模な食料品店 近隣：小規模な食料品店	地区内：公民館、 図書館、地域施設 近隣：河川緑地	自動車利用が 6 割近 くを占める。買物頻度 は週 2,3 日以下が半 分近く、週 1 日以下 も 1 割弱	地区内の図書館と 商店街の空き店舗 活用の居場所利用 が多い
	中心部	地区内：百貨店と小規 模な食料品店のみ 近隣：スーパー点在	地区内：図書館、 文化施設、運動施 設 近隣：耳成山公園	自転車利用が最も多 く、徒歩、自動車利 用もそれぞれ 25%程 度。買物頻度はほぼ 毎日と週 2,3 日が多 い。	地区内の店舗(百 貨店)利用が多い
橿原市	郊外部	地区内：食料品店なし 近隣：幹線道路沿道に スーパー数店	地区内：地域施設 近隣：国営公園、神 宮	自動車利用が 6 割近 くを占め、買物頻度 は週 2,3 日以下が過 半、週 1 日以下も 1 割弱	地区周辺の橿原神 宮や国営公園など の公園・緑地が多 い
	中心部	地区内：百貨店とスー パー3 軒 近隣：スーパー3 店	地区内：図書館、 文化施設	徒歩、自転車、自動 車がそれぞれ 3 割程 度あり、買物頻度は ほぼ毎日と週 2,3 日 が多い。	地区内の公共公益 施設(中央図書館) と店舗(喫茶店)が 多い
周南市	郊外部	地区内：スーパー2 店 近隣：スーパー2 店	地区内：公園 近隣：公園、運動 施設	自動車利用が過半を 占め、買物頻度は週 2,3 日以下が半分近 い	地区周辺の公園 (周南緑地)と園内 の体育館等が多い

# 付 録

## 補足資料 1 : アンケート調査票

### 1. あなたのことについてお伺いします。

問 1-1. あなたの属性について当てはまるものに○をつけてください。

(1) あなたの性別 (1つに○)	1. 男                      2. 女
(2) あなたの年齢をご記入ください	_____ 歳
(3) 次ページの地域図(※)を参考に、あなたのお住まいの場所を1~8の中から選んでください (1つに○)	1. ○○1丁目                      2. ○○2丁目 3. ○○3丁目                      4. ○○4丁目 5. △△1丁目                      6. △△2丁目 7. △△3丁目                      8. △△4丁目
(4) ご自宅の形式はどちらですか? (1つに○)	1. 戸建住宅                      2. 集合住宅(____階建ての____階)
(5) ご自宅の所有形態はどちらですか? (1つに○)	1. 持ち家                      2. 賃貸
(6) 現住所での居住年数をご記入ください	_____ 年
(7) あなたのご職業は何ですか? (1つに○)	1. 勤め人                      2. 自営業(農林漁業を含む) 3. パート、アルバイト                      4. 主婦・主夫 5. 学生                      6. 無職 7. その他(具体的に: _____)
(8) あなたの家族構成をお聞かせください(1つに○)	1. ひとり暮らし 2. 二人以上だが、65歳以上の高齢者のみで構成されている 3. 65歳未満の家族を含む世帯 (1, 2以外)
(9) 市内、近郊に住む家族・親戚はいますか?(いくつでも○)	1. 子ども                      2. 親                      3. 兄弟姉妹 4. その他(具体的に: _____)                      5. いない

※本資料では省略しますが、実施時は次頁に対象地域と町丁目界が分かる地域図を付けました。

問 1-2. 外出時の移動について当てはまるものに○をつけてください。(各項目1つずつ○)

(1) どれくらいの頻度で外出しますか?	1. ほぼ毎日    2. 週4、5日程度    3. 週2、3日程度 4. 週1日程度    5. 月に2、3日程度    6. 月に1日以下
(2) 自家用車は持っていますか?	1. 家庭で自動車を2台以上所有している 2. 家庭で自動車を1台所有している 3. 複数世帯で自動車を共有している 4. 自動車は所有していない
(3) 自動車は運転しますか?	1. 基本的に自分で運転をする 2. 運転免許は持っているが、自分で運転することはほとんどない 3. 運転免許は持っていたが、返上した 4. 運転免許は持っていない
(4) 外出支援サービス(外出時の送迎や付き添いなど)は利用していますか?	1. 週2回以上    2. 週1回程度    3. 月に2、3回程度 4. 月に1回以下    5. 利用していない
<b>&lt;(4)で5と答えた方にお尋ねします&gt;</b>	
(5) 利用していない理由について	1. 必要性を感じない                      2. 利用方法がわからない 3. 申し込みなど利用手続きが大変    4. 利用料金が高い 5. サービスがあることを知らない 6. その他(具体的に: _____)

問 1-3. あなたの健康状態について当てはまるものに○をつけてください。(各項目1つずつ○)

(1) ご自分は健康だと思いますか?	1. とても健康                      2. まあまあ健康 3. あまり健康でない                      4. 健康でない
(2) 日常生活の中で健康維持・増進のために意識的に身体を動かすなどの運動をしていますか?	1. いつもしている 2. 時々している 3. 以前はしていたが現在はしていない 4. まったくしたことがない
(3) 毎日きちんと三食をとっていますか?	1. ほぼ毎日とっている                      2. おおむねとっている 3. とっていないことが多い                      4. とることはほとんどない
(4) 栄養バランスよく食べていると思いますか?	1. そう思う                      2. どちらかと言えばそう思う 3. どちらかと言えばそうでない                      4. そうでない
(5) 年齢相応の体力があると思いますか?	1. そう思う                      2. どちらかと言えばそう思う 3. どちらかと言えばそうでない                      4. そうでない
(6) 今の生活に満足していますか?	1. とても満足                      2. まあまあ満足 3. あまり満足していない                      4. 満足していない

## 2. 買い物行動についてお伺いします。

※ご家族が主に買い物をされる場合、その方にご確認のうえ回答をお願いします。

問2-1. 食料品の買い物について、以下の方法をとる頻度として近いものを選んでください。

(各項目1つずつ)

(1) 自分または家族が店に出かける	1. ほぼ毎日    2. 週4,5日    3. 週2,3日    4. 週1日以下
(2) 家族以外の誰か(ヘルパーなど)に店に行ってもら	1. 週2回以上    2. 週1回    3. 月2,3回    4. 月1回以下 5. 家族以外に行ってもらうことはない
(3) 自宅で注文し商品を届けてもらう(宅配サービス、ネットスーパー)	1. 週2回以上    2. 週1回    3. 月2,3回    4. 月1回以下 5. 利用していない

〈問2-1(3)で、自宅で注文し商品を届けてもらうサービスを「5. 利用していない」と答えた方に伺います〉

問2-2. 宅配サービス等を利用していない理由として当てはまるものを全て選んでください。(いくつでも)

- |                   |                     |
|-------------------|---------------------|
| 1. 必要性を感じない       | 2. 利用方法がわからない       |
| 3. 申し込みなど利用手続きが大変 | 4. 利用料金が高い          |
| 5. サービスがあることを知らない | 6. その他(具体的に: _____) |

〈あなたのご家庭で最もよく買い物をする店舗(食料品)についてお伺いします〉

問2-3. 買い物をする店舗(食料品)として、最もよく利用するものを1つ教えてください。

(記述式: 立地場所と店名を組み合わせでお答え下さい)

※いずれかに○	の	※「八百八〇〇店」「スーパーA △△店」等具体的に
1. ○○地域内		
2. △△駅・商店街・市役所周辺		
3. □□市		
4. ××地域		
5. その他		

問2-4. 問2-3の店舗に行く時の交通手段として、最もよく利用するものを1つ選んでください。

(1つに○)

- |                      |                 |              |
|----------------------|-----------------|--------------|
| 1. 徒歩のみ              | 2. 自転車          | 3. 車いす、電動車いす |
| 4. 自分が運転する自動車        | 5. 自分以外が運転する自動車 | 6. バイク・スクーター |
| 7. タクシー              | 8. バスや鉄道        | 9. 店舗の送迎バス   |
| 10. その他(具体的に: _____) |                 |              |

問2-5. 問2-4の交通手段を使って、自宅から問2-3の店舗に行くのに何分くらいかかりますか?

約  分

問2-6. 問2-3の店舗について、以下の各項目の満足度として当てはまる番号に○をつけてください。使っていないなどの理由で評価できない場合は「当てはまらない」を選んでください。

(各項目1つずつ)

	当てはまらない	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	やや不満	不満
(1) 自宅からの距離		1	2	3	4	5
(2) 自宅からの経路や店舗周辺の安全性		1	2	3	4	5
(3) バス・鉄道など公共交通の利便	0	1	2	3	4	5
(4) 駐車場・駐輪場の利便	0	1	2	3	4	5
(5) 購入済み商品の配送サービス	0	1	2	3	4	5
(6) ついでに立ち寄る場所の多さ		1	2	3	4	5
(7) 店に対する信頼感		1	2	3	4	5
(8) 店舗の雰囲気や周辺の街並み		1	2	3	4	5
(9) 店員の接客		1	2	3	4	5
(10) 品揃え		1	2	3	4	5
(11) 価格・品質のバランス		1	2	3	4	5

問2-7. 問2-3の店舗に対する総合的な満足度として当てはまるものを1つ選んでください。

(1つに○)

- |       |         |              |         |       |
|-------|---------|--------------|---------|-------|
| 1. 満足 | 2. ほぼ満足 | 3. どちらともいえない | 4. やや不満 | 5. 不満 |
|-------|---------|--------------|---------|-------|

### 3. あなたの健康や医者への受診行動についてお伺いします。

問 3-1. 今後とも健康的な生活を続けていく上でどのような不安を感じていますか？ 当てはまるものがあれば3つまで選んでください。(○は3つまで)  
 当てはまるものがない方は「11」のみに○をつけてください。

- |                           |                       |
|---------------------------|-----------------------|
| 1. がん、心臓病、脳卒中などの生活習慣病への不安 | 2. 生活習慣病以外の病気への不安     |
| 3. 精神的な病気にならないか不安         | 4. 認知症にならないか不安がある     |
| 5. 健康を害して動けなくなる不安         | 6. 寝たきりにならないかという不安    |
| 7. 看病してくれる人がいない不安         | 8. 病院や医師に関する不安        |
| 9. なんとなく漠然とした不安           | 10. その他 (具体的に: _____) |
| 11. 不安を感じない、考えたことがない      |                       |

問 3-2. あなたには持病がありますか？(ただし歯科は除く)(1つに○)

- |                                 |                |
|---------------------------------|----------------|
| 1. ある                           |                |
| 2. 持病はないが、医療施設へ行ったり往診してもらうことはある |                |
| 3. 持病はなく、医療施設へ行ったり往診してもらうことはない  | →問 4-1にお進みください |

<問 3-2 で 1、2 を選んだ方にお伺いします>

問 3-3. 病気やけがの治療のため、病院や診療所などの医療施設へ行ったり、往診・看護に来てもらう頻度として、近いものをそれぞれ1つ選んでください。(ただし歯科は除く)  
 (各項目1つずつ○)

(1) 医療施設に行く	1. 週に1回以上 2. 月に2、3回 3. 月に1回 4. 年に数回 5. 行かない
(2) 往診してもらう	1. 週に1回以上 2. 月に2、3回 3. 月に1回 4. 年に数回 5. 利用しない

<あなたが最もよく利用する病院・診療所についてお伺いします>

問 3-4. あなたが利用する病院・診療所のうち、最もよく利用するものを1つ教えてください。  
 (記述式: 立地場所と病院名を組み合わせでお答え下さい。大きな病院は病院名だけで結構です。)

※いずれかに○	の	※「○○中央病院」、「□□市の△△医院」等具体的に記入
1. ○○地域内		
2. △△駅・商店街・市役所周辺		
3. □□市		
4. ××地域		
5. その他		

問 3-5. 問 3-4 の医療施設に行く時の交通手段として、最もよく利用するものを1つ選んでください。

(1つに○)

- |                       |                 |              |
|-----------------------|-----------------|--------------|
| 1. 徒歩のみ               | 2. 自転車          | 3. 車いす、電動車いす |
| 4. 自分が運転する自動車         | 5. 自分以外が運転する自動車 | 6. バイク・スクーター |
| 7. タクシー               | 8. バスや鉄道        | 9. 施設の送迎バス   |
| 10. その他 (具体的に: _____) |                 |              |

問 3-6. 問 3-5 の交通手段を使って自宅から問 3-4 の医療施設に行くのに何分くらいかかりますか？

約  分

問 3-7. 問 3-4 の医療施設について、以下の各項目の満足度として当てはまる番号を選んでください。  
 (各項目1つずつ○)

	当てはまらない	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	やや不満	不満
(1) 自宅からの距離		1	2	3	4	5
(2) 自宅からの経路や店舗周辺の安全性		1	2	3	4	5
(3) バス・鉄道など公共交通の利便	0	1	2	3	4	5
(4) 駐車場・駐輪場の利便	0	1	2	3	4	5
(5) 送迎サービス	0	1	2	3	4	5
(6) ついでに立ち寄る場所の多さ	0	1	2	3	4	5
(7) 施設に対する信頼感		1	2	3	4	5
(8) 施設の雰囲気や周辺の街並み		1	2	3	4	5
(9) 医師や看護師の対応の仕方		1	2	3	4	5
(10) 提供される診療科の種類		1	2	3	4	5
(11) 提供される医療の質		1	2	3	4	5

問 3-8. 問 3-4 の医療施設に対する総合的な満足度として当てはまるものを1つ選んでください。  
 (1つに○)

- |       |         |              |         |       |
|-------|---------|--------------|---------|-------|
| 1. 満足 | 2. ほぼ満足 | 3. どちらともいえない | 4. やや不満 | 5. 不満 |
|-------|---------|--------------|---------|-------|



#### 4. 福祉・生活支援サービスの利用行動についてお伺いします。

問 4-1. あなたは、要介護認定を受けていますか。(1つに○)

- |           |          |          |          |          |
|-----------|----------|----------|----------|----------|
| 1. 受けていない | 2. 要支援 1 | 3. 要支援 2 | 4. 要介護 1 | 5. 要介護 2 |
| 6. 要介護 3  | 7. 要介護 4 | 8. 要介護 5 | 9. わからない |          |

問 4-2. 次に示す自宅に来てもらって受ける福祉・生活支援サービスを利用したことがありますか？  
利用したことがあるものを全て選んでください。(いくつでも○)  
どれも利用していない方は「10」のみに○をつけてください。

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 1. ホームヘルプサービス (身体介護) | 2. ホームヘルプサービス (家事援助)  |
| 3. 訪問入浴介護            | 4. 訪問看護               |
| 5. 訪問リハビリテーション       | 6. 居宅療養管理指導           |
| 7. 配食サービス            | 8. 福祉輸送 (福祉タクシー等)     |
| 9. その他 (具体的に: _____) | 10. 上記サービスはどれも利用していない |

問 4-3. 自宅に来てもらって受ける福祉・生活支援サービスの利用頻度 (合計) として、近いものを1つ選んでください。(1つに○) →回答後は問 4-5にお進みください

- |            |          |          |          |         |         |
|------------|----------|----------|----------|---------|---------|
| 1. 週 4 回以上 | 2. 週 3 回 | 3. 週 2 回 | 4. 週 1 回 | 5. 月に数回 | 6. 年に数回 |
|------------|----------|----------|----------|---------|---------|

＜問 4-2 で 10 を選んだ方にお伺いします＞

問 4-4. 自宅に来てもらって受ける福祉・生活支援サービスを利用していない理由として当てはまるものを全て選んでください。→回答後は問 4-5にお進みください  
(いくつでも○)

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 1. 必要性を感じない       | 2. 利用方法がわからない        |
| 3. 申し込みなど利用手続きが大変 | 4. 利用料金が高い           |
| 5. サービスがあることを知らない | 6. その他 (具体的に: _____) |

問 4-5. 自宅外 (施設等) で受ける福祉・生活支援サービスを利用していますか？利用したことがあるものを全て選んでください。(いくつでも○)  
どれも利用していない方は「8」のみに○をつけてください。

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 1. デイサービス (通所介護)     | 2. デイケア (通所リハビリテーション) |
| 3. ショートステイ (一時宿泊)    | 4. 公民館等で行われているふれあいサロン |
| 5. 配食サービス            | 6. 健康相談・健康体操          |
| 7. その他 (具体的に: _____) | 8. 上記サービスはどれも利用していない  |

問 4-6. 自宅外 (施設等) で受ける福祉・生活支援サービスを利用している頻度 (合計) として、近いものを1つ選んでください。(1つに○) →回答後は問 4-8にお進みください

- |            |          |          |          |         |         |
|------------|----------|----------|----------|---------|---------|
| 1. 週 4 日以上 | 2. 週 3 日 | 3. 週 2 日 | 4. 週 1 日 | 5. 月に数日 | 6. 年に数日 |
|------------|----------|----------|----------|---------|---------|

＜問 4-5 で 8 を選んだ方にお伺いします＞

問 4-7. 自宅外 (施設等) で受ける福祉・生活支援サービスを利用していない理由として当てはまるものを全て選んでください。→回答後は問 5-1にお進みください。  
(いくつでも○)

- |                      |                  |
|----------------------|------------------|
| 1. 必要性を感じない          | 2. 利用方法がわからない    |
| 3. 申し込みなど利用手続きが大変    | 4. 利用料金が高い       |
| 5. サービスがあることを知らない    | 6. 自力での外出に困難を感じる |
| 7. その他 (具体的に: _____) |                  |

＜あなたが最もよく通っている福祉・生活支援サービス施設についてお伺いします＞

問 4-8. 自宅外で福祉・生活支援サービスを受ける施設のうち、最もよく利用するものを1つ教えてください。  
ください。(記述式: 立地場所や施設名を組み合わせると具体的にお答え下さい)

※いずれかに○	の	※「○○社会福祉センター」「△△公民館」「老人休養ホーム□□荘」「××デイサービスセンター」等
1. ○○地域内		
2. △△駅・商店街・市役所周辺		
3. □□市		
4. ××地域		
5. その他		

問 4-9. 問 4-8 の施設に行く時の交通手段として、最もよく利用するものを1つ選んでください。  
(1つに○)

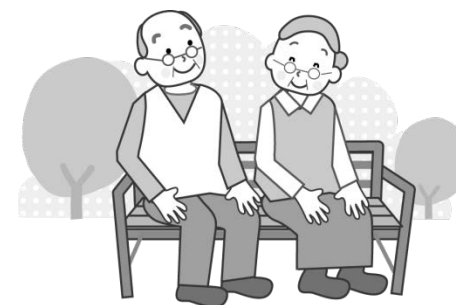
- |                       |                 |              |
|-----------------------|-----------------|--------------|
| 1. 徒歩のみ               | 2. 自転車          | 3. 車いす、電動車いす |
| 4. 自分が運転する自動車         | 5. 自分以外が運転する自動車 | 6. バイク・スクーター |
| 7. タクシー               | 8. バスや鉄道        | 9. 施設の送迎バス   |
| 10. その他 (具体的に: _____) |                 |              |

問 4-10. 問 4-9 の交通手段を使って、自宅から問 4-8 の施設に行くのに何分くらいかかりますか。

約  分

問 4-11. 問 4-8 の施設について、以下の各項目の満足度として当てはまる番号を選んでください。  
(各項目 1 つずつ〇)

	当てはまらない	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	やや不満	不満
(1) 自宅からの距離		1	2	3	4	5
(2) 自宅からの経路や店舗周辺の安全性		1	2	3	4	5
(3) バス・鉄道など公共交通の利便	0	1	2	3	4	5
(4) 駐車場・駐輪場の利便	0	1	2	3	4	5
(5) 送迎サービス	0	1	2	3	4	5
(6) ついでに立ち寄る場所の多さ	0	1	2	3	4	5
(7) 施設の信頼感		1	2	3	4	5
(8) 施設の雰囲気や周辺の街並み		1	2	3	4	5
(9) 施設スタッフの対応の仕方		1	2	3	4	5
(10) 提供されるサービスの種類		1	2	3	4	5
(11) 提供されるサービスの質		1	2	3	4	5



問 4-12. 問 4-8 の施設に対する総合的な満足度として当てはまるものを 1 つ選んでください。  
(1 つに〇)

1. 満足    2. ほぼ満足    3. どちらともいえない    4. やや不満    5. 不満

## 5. 平日昼間の過ごし方についてお伺いします。

問 5-1. 現在のあなたの就業状況についてお教え下さい(1つに○)

1. ほぼ毎日、平日の昼間は働いている →問 6-1 にお進みください  
 2. 週の半分程度、平日の昼間は働いている  
 3. 仕事には就いていない

〈問 5-1 で 2、3 を選んだ方に伺います〉

問 5-2. (仕事をしていない)平日昼間の時間帯は、主にどのように過ごしていますか?(1つに○)

1. ほとんど家の中にいる →問 6-1 にお進みください  
 2. 時々外出するが、主に家の中にいる  
 3. ほとんど外出している

〈問 5-2 で 2、3 を選んだ方に伺います〉

問 5-3. 平日昼間の外出についてお伺いします。ただし、これまでに質問した、買い物・受診・福祉サービス利用、及び仕事目的は除きます。

(1) 外出の主な目的は何ですか? (1つに○)	1. 趣味・娯楽 2. 地域活動 3. 教養(習い事、講座など) 4. 友人・知人との交際 5. スポーツ 6. 行楽・散策(散歩、繁華街へ行くなど)
-----------------------------	--

以下、(1) で回答した外出について(2)～(5)の回答を記入してください(それぞれ1つに○)

(2) (合計)週に何日くらい出かけますか?	1. ほぼ毎日 2. 週3、4日程度 3. 週1、2日程度 4. 月2、3日程度 5. 月1日以下
(3) 活動場所は決まっていますか?	1. 活動場所は1箇所に決まっている 2. 活動場所は複数の箇所に決まっている 3. 特定の活動場所は決まっていない
(4) 活動場所は〇〇地域内と地域外のどちらが多いですか?	1. ほとんど地域内 2. 地域内の方がやや多い 3. 地域外の方がやや多い 4. ほとんど地域外
(5) 最もよく利用する活動場所はどこですか?	1. 公民館、町内会・自治会館、〇〇社会福祉センター等 2. 飲食店(喫茶店・レストラン等) 3. 健康施設(スポーツセンター等) 4. 公園や広場 5. 個人宅(友人の家等) 6. その他(具体的に: _____)

問 5-4. 問 5-3 の(5) で回答した最もよく利用する活動場所について、以下の各項目の満足度として当てはまる番号に○をつけてください。(各項目1つずつ○)

	当てはまらない	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	やや不満	不満
(1) 自宅からの距離		1	2	3	4	5
(2) 自宅からの経路や店舗周辺の安全性		1	2	3	4	5
(3) バス・鉄道など公共交通の利便	0	1	2	3	4	5
(4) 駐車場・駐輪場の利便	0	1	2	3	4	5
(5) 送迎サービス	0	1	2	3	4	5
(6) ついでに立ち寄る場所の多さ	0	1	2	3	4	5
(7) 施設の信頼感	0	1	2	3	4	5
(8) 施設の雰囲気や周辺の街並み		1	2	3	4	5
(9) 施設スタッフの対応の仕方	0	1	2	3	4	5
(10) 提供されるサービスの種類	0	1	2	3	4	5
(11) 提供されるサービスの質	0	1	2	3	4	5



## 6. 特に予定が無くても気軽に行ける場所についてお伺いします。

問 6-1. 特に予定の無い時でも行ける場所が地域内(〇〇地域)にありますか？(1つに〇)

1. 地域内にある
2. 地域内にはないが地域外にはある
3. 全くない

→問 6-7 へお進みください

〈問 6-1 で 1、2 を選んだ方に伺います〉

問 6-2. その場所はどういう場所ですか。自由記述で 1 か所お答えください。

(記述式：立地場所と施設名を組み合わせでお答え下さい)

※いずれかに〇

1. 〇〇地域内
2. △△駅・商店街・市役所周辺
3. □□市
4. ××地域
5. その他

の

※「〇〇図書館」「△△公民館」「□□公園」「喫茶店××」等  
具体的に記入

問 6-3. あなたが問 6-2 の場所に行く理由として当てはまるものを 3 つまで選んでください。  
(3 つまで〇)

- |                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 行けば顔なじみがいる         | 2. 自分の好きなことができる        |
| 3. 自宅から近い             | 4. その場所や、自宅からの経路が安全である |
| 5. バス・鉄道など公共交通の利便性がよい | 6. 駐車場・駐輪場の利便がよい       |
| 7. ついでに立ち寄る場所が多い      | 8. その場所の雰囲気や周辺の街並みがよい  |
| 9. スタッフの対応がよい         | 10. 提供されるサービスが良い       |

問 6-4. 問 6-2 の場所に行く頻度として、近いものを 1 つ選んでください。  
(1 つに〇)

1. ほぼ毎日    2. 週 3、4 日程度    3. 週に 1、2 日程度    4. 月に 2、3 日程度    5. 月に 1 日以下

問 6-5. 問 6-2 の場所までの移動手段として、最もよく利用するものを 1 つ選んでください。  
(1 つに〇)

- |                      |                 |              |
|----------------------|-----------------|--------------|
| 1. 徒歩のみ              | 2. 自転車          | 3. 車いす、電動車いす |
| 4. 自分が運転する自動車        | 5. 自分以外が運転する自動車 | 6. バイク・スクーター |
| 7. タクシー              | 8. バスや鉄道        | 9. 施設の送迎バス   |
| 10. その他 (具体的に：_____) |                 |              |

問 6-6. 問 6-5 の交通手段を使って、自宅から問 6-2 の場所に行くのに何分くらいかかりますか？

約  分

問 6-7. 特に予定の無い時でも気軽に行ける場所として、どういう場所があればよいと思いますか？  
最も当てはまるものを 1 つ選んでください。(1 つに〇)

- |                               |                     |
|-------------------------------|---------------------|
| 1. 公共施設(図書館、公民館等)             | 2. 飲食店(喫茶店やレストラン)   |
| 3. 健康施設(スポーツ施設、整体院やマッサージ施設など) | 4. 公園や広場            |
| 5. 商業施設                       | 6. 入浴施設             |
| 7. 空き家や空き店舗を利用した空間            | 8. その他 (具体的に：_____) |



## 7. 同居家族以外の人との関わり方についてお伺いします。

問 7-1. あなたが、同居家族以外の人と直接会って話す頻度として近いものを1つ選んでください。

(1つに○)

1. ほぼ毎日    2. 週 3、4 日程度    3. 週に 1、2 日程度    4. 月に 2、3 日程度    5. 月に 1 日以下

問 7-2. 直接会って話す人はどのような関係の方ですか？ 当てはまるものを全て選んでください。

(いくつでも○)

- |                     |                         |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 同居していない親族        | 2. 隣近所の人                |
| 3. 地域活動を一緒にしている人    | 4. 趣味のサークルや習い事で一緒にいる人   |
| 5. 店舗や医院、施設等で一緒にいる人 | 6. 学校・職場などで一緒にの(一緒だった)人 |
| 7. その他 (具体的に：_____) |                         |

問 7-3. 地域活動・ボランティア活動に参加していますか？(1つに○)

1. 積極的に参加している  
 2. まあまあ参加している  
 3. 意欲はあるが参加していない  
 4. 参加しておらず、意欲もない

→問 8-1 へお進みください

<問 7-3 で 1 または 2 を選んだ方にお伺いします>

問 7-4. 参加している活動の種類として、当てはまるもの全てを選んでください。(いくつでも○)

- |                         |                  |
|-------------------------|------------------|
| 1. 健康や医療サービスに関係した活動     | 2. 高齢者を対象とした活動   |
| 3. 障がい者を対象とした活動         | 4. 子どもを対象とした活動   |
| 5. スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動 | 6. まちづくりのための活動   |
| 7. 安全な生活のための活動          | 8. 自然や環境を守るための活動 |
| 9. 災害に関係した活動            | 10. 国際協力に関係した活動  |
| 11. その他 (具体的に：_____)    |                  |

## 8. 地域生活の満足度についてお伺いします。

問 8-1. お住まいの地域の利便性や住環境等について、以下の各項目の満足度として当てはまる番号に○をつけてください。(各項目 1 つずつ○)

	満足	ほぼ満足	どちらとも いえない	やや不満	不満
(1) 日常的な買い物の利便性	1	2	3	4	5
(2) 医療施設の利便性(歯科を除く)	1	2	3	4	5
(3) 福祉施設の利便性	1	2	3	4	5
(4) バス交通の利便性	1	2	3	4	5
(5) 交通事故からの安全性	1	2	3	4	5
(6) 住まいの周辺の緑地	1	2	3	4	5
(7) 住まいの周辺の運動施設	1	2	3	4	5
(8) 住まいの周辺の芸術・文化施設	1	2	3	4	5
(9) 地域の治安の良さ	1	2	3	4	5
(10) 道路、公共施設のバリアフリー化	1	2	3	4	5
(11) まちなみや景観	1	2	3	4	5
(12) 近所づきあい	1	2	3	4	5
(13) 防災のための地域の取り組み	1	2	3	4	5
(14) 防犯のための地域の取り組み	1	2	3	4	5
(15) 地域活動の活発さ	1	2	3	4	5

問 8-2. 地域生活の総合的な評価について、当てはまるものをそれぞれ選んでください。(各項目 1 つずつ○)

(1) 現在の地域生活環境の総合的な満足度	1. 満足    2. 概ね満足    3. 普通    4. やや不満    5. 不満
(2) この地域で将来住み続けることについての不安	1. 不安はない    2. やや不安がある    3. とても不安がある

## 補足資料 2：不規則回答の取扱ルール

### <有効回答の考え方>

- 要介護3以上のサンプルは全集計において対象外とする。
- 集計の際には、後述するデータ入力時のルールに則り、「無回答」扱いとなるサンプルを除いた上での集計値とする。(クロス集計の場合、該当する両設問のいずれかが無回答であれば集計の対象外となる。)

### <アンケート集計データベース作成時の取扱ルール>

本報告書で用いたアンケート集計データベースでは、回答の原則ルールから外れた回答について、それぞれ次に示す扱いによりデータを精査した。なお、ここでの設問番号は補足資料1のアンケート調査票を用いている。

- 空欄、規定数以上の選択肢をチェックしたものは「無回答」として扱う。  
(複数回答が可能な設問について、どの選択肢にもチェックがない場合は「無回答」として扱う。)
- 前出設問の回答内容によって、その設問の回答資格がない場合は「回答対象外」として扱う。
- 「その他」の自由記述欄に記入がある場合、チェックがなくても「その他」に回答があるとみなす。  
(複数回答が「無回答」扱いとなる設問では、「その他」以外にチェックし、さらに「その他」の自由記述がある場合は、複数回答による「無回答」として扱う。)
- アンケートへの記入内容が解読不能な場合は「無回答」として扱う。
- 各施設への所要時間の記述については、以下のように整理する。
  - (1) 「a～b分」はその相加平均  $(a+b)/2$  を入力。
  - (2) 「x分以内」「x分以上」「約x分」は、その値(x)を入力する。
  - (3) 次のような記入の場合は、片道あたりの所要時間に換算する。
    - ・例えば、「往復20分」「10分×2」「10+10分」は、「10分」に表現を修正する。
  - (4) 複数の値が書いてある場合は、以下の対応をとることとする。
    - ・施設ごともしくは交通手段ごとに分けて書かれており、その前後の回答内容からどちらが有効な所要時間か判断できる場合は、その値を入力する。
    - ・他の設問からでも、どちらが有効か判断できない場合は、無効回答とする。

## <設問ごとの取扱ルール>

### ●問1-----

#### 問 1-1 (2) 回答者の年齢

- ・年齢は、65～69歳、70～74歳、75～79歳で区分。
- ・年齢が65歳未満もしくは80歳以上となっているものは、年代区分では「無回答」扱い。

#### 問 1-1 (4) 自宅の住宅形式

- ・問 1-1 (4) 選択肢「2. 集合住宅」の具体の階数は、この選択肢が有効の場合のみ入力。
- ・階数が「0階」となっているものは「無回答」扱い。
- ・居住階数に部屋番号が記入されているものは無回答扱い。
- ・総階数よりも居住階数が大きくなっているものは無回答扱い。

#### 問 1-1 (6) 回答者の自宅の居住年数

- ・月単位での回答については、年単位に換算して入力。
- ・居住年数が年齢よりも大きくなっているものは年齢と同じ値を入力（「永年」となっているものは、年齢と同じ値）。なお、年齢が無回答な場合、居住年数が79年未満はその値を入力し、80年以上の場合は無回答とする。

#### 問 1-1 (7) 回答者の職業

- ・「7. その他」の自由記述欄に「年金」と書いてあるものが多数あったため、次の各対応とした。
  - 他の選択肢との複数回答の場合は他項目を優先
  - 「年金」単独の場合は「7. その他」として扱う
- ・複数回答のうち、「4. 主婦」「6. 無職」の組み合わせが多数あり、この場合に限り、「4. 主婦」を優先。
- ・上記以外の複数回答の場合は「無回答」扱い。

#### 問 1-1 (8) 回答者の世帯構成

- ・初年度（町田市、新潟市）と次年度（樺原市、周南市）では設問方法を変更したため（具体的な調査票はP. 補足 2-1 を参照）、次の対応とした。
  - 初年度「ひとり暮らし」と回答しているものは、世帯構成を「1. ひとり暮らし」とする。
  - 初年度「配偶者」と「親」のみにしか回答していないものは、世帯構成を「2. 高齢者のみ」とする。

- 初年度「子ども」「その他」を含んだ回答をしているものは、世帯構成を「3. 65歳未満の家族を含む（1, 2以外）」とする。

### ●問3-----

#### 問 3-1 回答者の健康的な生活を続けていくうえで感じている不安（複数回答が3つまで可）

- ・「1～10」と「11」をともに選択しているものは「無回答」扱い。

### ●問4-----

#### 問 4-2 回答者の自宅での福祉・生活支援サービスの利用実態（複数回答可）

- ・「1～9」と「10」をともに回答しているものは「無回答」扱い。

#### 問 4-5 回答者の自宅外での福祉・生活支援サービスの利用実態（複数回答可）

- ・「1～7」と「8」をともに回答しているものは「無回答」扱い。

### ●問5-----

#### 問 5-3 回答者の平日昼間の主な外出について

- ・初年度（町田市、新潟市）では、二つの外出先について記されているので、一つ目を対象として入力。

### ●問6-----

#### 問 6-1 回答者の居場所が地区内外にあるか

- ・空欄、複数回答となっているもののうち、問 6-2 の回答で地区内外の判別が可能なものは、それに合わせて問 6-1 を修正する。
- ・空欄、複数回答となっているもののうち、問 6-2 の回答が無回答となっているもの、もしくは問 6-2 に回答していても地区内外の判別が不可能なものは、問 6-1 は「無回答」扱い。

#### 問 6-2 回答者のよく行く具体的な居場所の名称

- ・修正された問 6-1 において、「1」もしくは「2」と回答しているもののみ有効とする。

以上

---

© 建築研究資料 第158号

平成26年 4月22日 印刷・発行

編集  
発行 独立行政法人建築研究所

---

本資料の転載・複写の問い合わせは下記まで

独立行政法人建築研究所企画部企画調査課

〒305-0802 茨城県つくば市立原1番地  
電話(029) 864-2151 (代)